

ユーザ・マニュアル

Tektronix

**WCA230A/WCA280A オプション 26 型
1xEV-DO 解析ソフトウェア**

071-1372-00

このマニュアルはソフトウェア・バージョン
1.0 以降に対応しています。

www.tektronix.com

Copyright © Tektronix Japan, Ltd. All rights reserved.

当社の製品は、米国その他各国における登録特許および出願中特許の対象となっています。本書の内容は、すでに発行されている他の資料の内容に代わるものであります。また製品仕様は、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

Tektronix、Tek は Tektronix, Inc. の登録商標です。

また、このマニュアルに記載されているその他のすべての商標は、各社所有のものです。

目 次

このマニュアルについて ix

第1章 はじめに

はじめに 1-1

オプション 26 型の概要 1-1

第2章 基本操作

機能概要 2-1

測定機能へのアクセス 2-2

1xEV-DO フォワード・リンク測定 2-3

変調確度 (Modulation Accuracy) 測定 2-4

表示内容 2-4

時間パラメータの設定 2-5

測定パラメータの設定 2-5

ビュー内容の変更 2-6

メイン・ビューのスケールとフォーマット 2-7

コード・ドメイン・パワー (Code Domain Power) 測定 2-12

表示内容 2-12

時間パラメータの設定 2-13

測定パラメータの設定 2-13

ビュー内容の変更 2-14

メイン・ビューのスケールとフォーマット 2-15

チャンネル電力 (Channel Power) 測定 2-20

測定パラメータの設定 2-20

OBW 測定 2-21

測定パラメータの設定 2-21

ACPR 測定 2-22

測定パラメータの設定 2-22

スペクトラム・エミッション・マスク (Spectrum Emission Mask) 測定 2-24

測定パラメータの設定 2-24

時間パラメータの設定 2-26

表示内容 2-26

ビュー内容の変更 2-27

ゲートッド・アウトプット・パワー (Gated Output Power) 測定	2-28
表示内容	2-28
時間パラメータの設定	2-28
測定パラメータの設定	2-29
ビュー内容の変更	2-29
メイン・ビューのスケール	2-30
相互変調 (Intermodulation) 測定	2-30
測定パラメータの設定	2-31
CCDF 測定	2-32
時間パラメータの設定	2-32
測定パラメータの設定	2-33
ビュー内容の変更	2-33
メイン・ビューのスケール	2-34
パイロット／コード・チャンネル (Pilot to Code Channel) 測定	2-35
表示内容	2-35
時間パラメータの設定	2-36
測定パラメータの設定	2-36
ビュー内容の変更	2-37
1xEV-DO リバース・リンク測定	2-39
変調確度 (Modulation Accuracy) 測定	2-40
表示内容	2-40
時間パラメータの設定	2-41
測定パラメータの設定	2-41
ビュー内容の変更	2-42
メイン・ビューのスケールとフォーマット	2-43
コード・ドメイン・パワー (Code Domain Power) 測定	2-48
表示内容	2-48
時間パラメータの設定	2-49
測定パラメータの設定	2-49
ビュー内容の変更	2-50
スペクトラム・エミッション・マスク (Spectrum Emission Mask) 測定	2-51
測定パラメータの設定	2-51
パイロット／コード・チャンネル (Pilot to Code Channel) 測定	2-53
表示内容	2-53
時間パラメータの設定	2-54
測定パラメータの設定	2-54
ビュー内容の変更	2-55
測定リミットの編集	2-57
測定リミット・エディタの使用	2-57
測定リミットの編集	2-59
ACPR リミットの設定	2-60
スペクトラム・エミッション・マスク・リミットの設定	2-62

ゲーテッド・アウトプット・パワー・リミットの設定	2-64
測定リミットの保存と読み出し	2-66
測定リミットの保存	2-66
測定リミットの読み出し	2-66
測定リミットのデフォルト設定	2-67
コモン測定リミット	2-67
ACPR 測定リミット	2-68
SEM 周波数オフセット・リミット	2-68
SEM インバンド・スプリアス・リミット	2-72
ゲーテッド・アウトプット・パワー・リミット	2-73

第3章 コマンドと構文

コマンド・グループ	3-1
:CONFigeur コマンド	3-9
:DISPlay コマンド	3-15
:FETCh コマンド	3-41
:MMEMory コマンド	3-63
:READ コマンド	3-65
:SENSe コマンド	3-77

付 錄

付録 A 仕様	A-1
付録 B コマンドのデフォルト設定値	B-1
付録 C 表示フォーマットと設定範囲	C-1
付録 D SCPI 適合情報	D-1

索 引

お問い合わせ

図一覧

図 2-1 : オプション 26 型で使用できる測定機能を示すメニュー・ダイアグラム	2-1
図 2-2 : 変調確度測定	2-4
図 2-3 : 変調確度表示	2-7
図 2-4 : EVM 表示	2-8
図 2-5 : 振幅誤差表示	2-9
図 2-6 : 位相誤差表示	2-10
図 2-7 : シンボル・テーブル表示	2-11
図 2-8 : コード・ドメイン・パワー測定	2-12
図 2-9 : コード・ドメイン・パワー表示	2-15
図 2-10 : パワー・コードグラム表示	2-16
図 2-11 : IQ パワー・グラフ表示	2-18
図 2-12 : チャンネル電力測定	2-20
図 2-13 : OBW 測定	2-21
図 2-14 : ACPR 測定	2-22
図 2-15 : スペクトラム・エミッション・マスク測定	2-24
図 2-16 : ゲーテッド・アウトプット・パワー測定	2-28
図 2-17 : 相互変調測定	2-30
図 2-18 : CCDF 測定 (シングル・ビュー)	2-32
図 2-19 : CCDF 表示のスケール設定	2-34
図 2-20 : パイロット／コード・チャンネル測定	2-35
図 2-21 : 変調確度測定 - リバース・リンク	2-40
図 2-22 : 変調確度表示 - リバース・リンク	2-43
図 2-23 : EVM 表示 - リバース・リンク	2-44
図 2-24 : 振幅誤差表示 - リバース・リンク	2-45
図 2-25 : 位相誤差表示 - リバース・リンク	2-46
図 2-26 : シンボル・テーブル表示 - リバース・リンク	2-47
図 2-27 : コード・ドメイン・パワー測定 - リバース・リンク	2-48
図 2-28 : スペクトラム・エミッション・マスク測定 - リバース・リンク	2-51
図 2-29 : パイロット／コード・チャンネル測定 - リバース・リンク	2-53
図 2-30 : 測定リミット・エディタ	2-57
図 2-31 : ACPR 測定のためのリミット・エディタ	2-60
図 2-32 : スペクトラム・エミッション・マスク測定のためのリミット・エディタ	2-62
図 2-33 : ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のためのリミット・エディタ	2-64

表一覧

表 2-1 : 測定リミット項目	2-58
表 2-2 : ACPR 測定のための測定リミット項目	2-60
表 2-3 : スペクトラム・エミッഷン・マスク測定のための測定リミット項目	2-62
表 2-4 : ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のための測定リミット項目 ..	2-64
表 2-5 : コモン測定リミット—フォワード・リンク	2-67
表 2-6 : コモン測定リミット—リバース・リンク	2-67
表 2-7 : フォワード／リバース・リンク	2-68
表 2-8 : フォワード・リンク : BC(バンド・クラス)0、2、3、5、および9 ..	2-68
表 2-9 : フォワード・リンク : BC(バンド・クラス)1、4、および8	2-69
表 2-10 : フォワード・リンク : BC(バンド・クラス)3b	2-69
表 2-11 : フォワード・リンク : BC(バンド・クラス)6	2-69
表 2-12 : フォワード・リンク : BC(バンド・クラス)7	2-70
表 2-13 : リバース・リンク : BC(バンド・クラス)0、2、3、5、および9 ..	2-70
表 2-14 : リバース・リンク : BC(バンド・クラス)1、4、および8	2-70
表 2-15 : リバース・リンク : BC(バンド・クラス)6	2-71
表 2-16 : リバース・リンク : BC(バンド・クラス)7	2-71
表 2-17 : フォワード／リバース・リンク : BC(バンド・クラス)0、1、2、3、4、5、 7、8、および9	2-72
表 2-18 : フォワード・リンク : BC(バンド・クラス)6	2-72
表 2-19 : リバース・リンク : BC(バンド・クラス)6	2-72
表 2-20 : フォワード・リンク : アイドル・スロット	2-73
表 2-21 : フォワード・リンク : アクティブ・スロット	2-73
 表 3-1: 測定モード	3-1
表 3-2: :CONFigure コマンド	3-2
表 3-3: :DISPlay コマンド	3-2
表 3-4: :FETCh コマンド	3-4
表 3-5: :MMEMory コマンド	3-4
表 3-6: :READ コマンド	3-5
表 3-7: :SENSe コマンド	3-5
表 3-8: :DISPlay コマンドのサブグループ	3-15
表 3-9: :SENSe コマンドのサブグループ	3-77
 表 A-1 : 1xEV-DO フォワード・リンク測定	A-1
表 A-2 : 1xEV-DO リバース・リンク測定	A-2
 表 B-1 : コマンドのデフォルト設定値—:DISPlay コマンド	B-1
表 B-2 : コマンドのデフォルト設定値—:SENSe コマンド	B-2
 表 C-1 : 表示フォーマットと設定範囲	C-1
 表 D-1 : SCPI 適合情報—:CONFigure コマンド	D-1

表 D-2 : SCPI 適合情報 — :DISPlay コマンド	D-1
表 D-3 : SCPI 適合情報 — :FETCh コマンド	D-3
表 D-4 : SCPI 適合情報 — :MMEMOry コマンド	D-3
表 D-5 : SCPI 適合情報 — :READ コマンド	D-4
表 D-6 : SCPI 適合情報 — :SENSe コマンド	D-4

このマニュアルについて

このマニュアルは、WCA230A/WCA280A オプション 26 型 1xEV-DO 解析ソフトウェアのユーザ・マニュアルです。このマニュアルは、次の章から構成されています。

「**第 1 章 はじめに**」では、オプション 26 型の概要について説明します。

「**第 2 章 基本操作**」では、オプション 26 型で追加される測定機能と各測定で使用するメニューの設定方法について説明します。

「**第 3 章 コマンド文法とコマンド**」では、オプション 26 型で追加されるリモート・コマンドの詳しい内容について説明します。

付録では、オプション 26 型の仕様、コマンドのデフォルト設定値などの追加情報について説明します。

関連マニュアル

WCA230A 型／WCA280A 型本体の操作方法と本体の機能に関連したプログラミング・コマンドの詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- WCA230A 型／WCA280A 型 3GHz/8GHz ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル（当社部品番号：071-1254-xx）
- WCA230A 型／WCA280A 型 3GHz/8GHz ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・プログラマ・マニュアル（当社部品番号：071-1256-xx）

第1章　はじめに

はじめに

このセクションでは、オプション 26 型の概要について説明します。

オプション 26 型の概要

WCA230A/WCA280A ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・オプション 26 型は、WCA230A 型／WCA280A 型本体に 1xEV-DO フォワード・リンク (3GPP2 C.S0032) およびリバース・リンク (3GPP2 C.S0033) のトランスマッタ測定機能を追加するソフトウェア・オプションです。

オプション 26 型を使用すると、次の測定を行うことができます。

- 変調確度
- コード・ドメイン・パワー
- チャンネル・パワー
- 占有帯域幅
- ACPR
- スペクトラム・エミッション・マスク
- ゲーテッド・アウトプット・パワー (フォワード・リンクのみ)
- 相互変調
- CCDF
- パイロット／コード・チャンネル

また、オプション 26 型は、ACPR 測定、スペクトラム・エミッション・マスク測定、およびゲーテッド・アウトプット・パワー測定のための定義済み測定リミットを備えているため、これらの測定リミットを使用することにより、入力信号が仕様を満足しているかどうかを簡単にチェックすることができます。

第 2 章 基本操作

機能概要

このセクションでは、オプション 26 型の測定機能の概要について説明します。

図 2-1 に、オプション 26 型で使用できる測定機能とフロント・パネル・キーから各測定にアクセスする方法を示します。

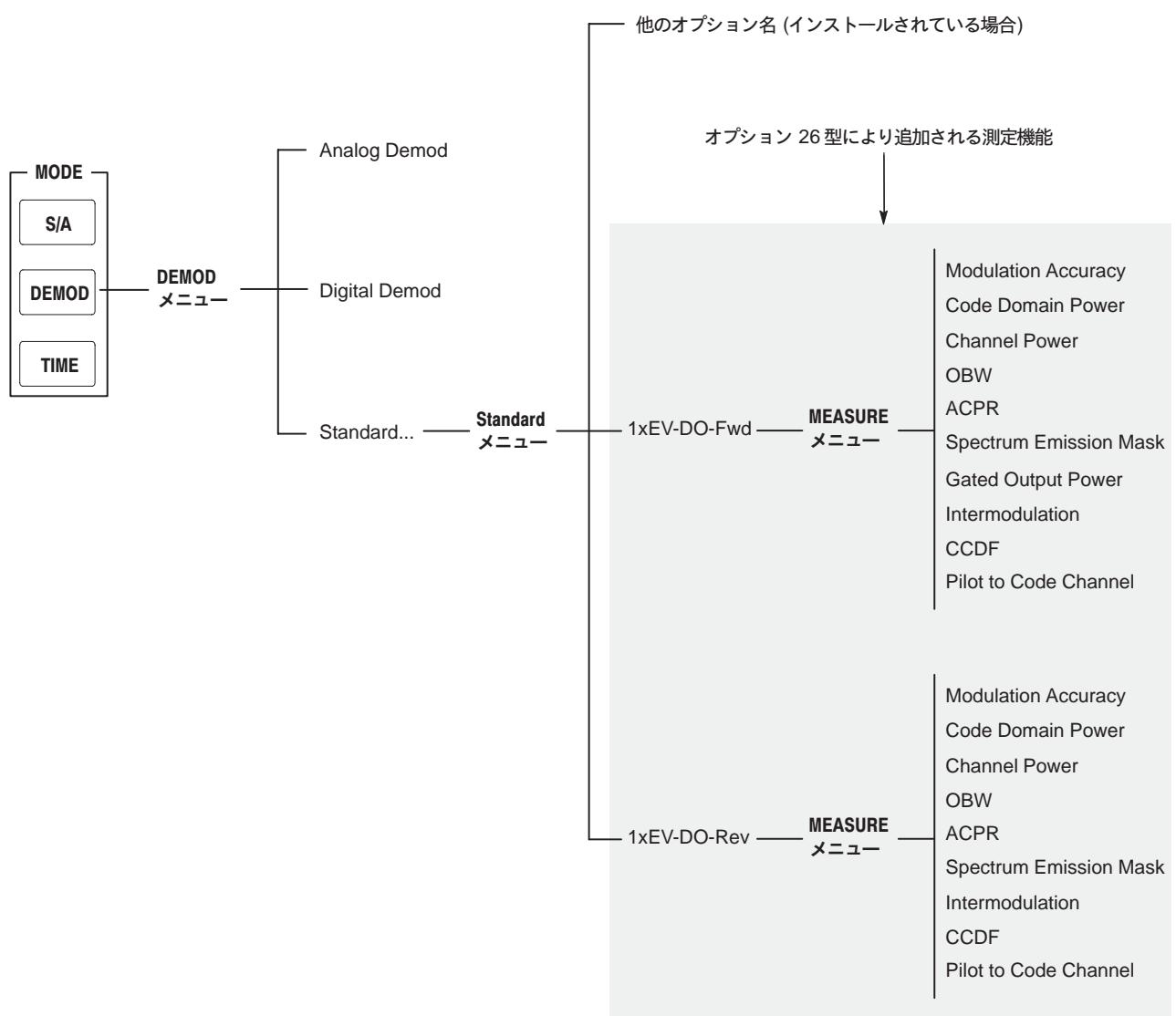


図 2-1：オプション 26 型で使用できる測定機能を示すメニュー・ダイアグラム

測定機能へのアクセス

オプション 26 型のすべての測定機能は、DEMOD (変調解析) モードから選択することができます。

次に、オプション 26 型の測定機能にアクセスする手順を示します。

1. 前面パネルの **DEMOD** キーを押し、DEMOD メニューを表示します。
2. **Standard...** サイド・キーを押し、Standard メニューを表示します。
3. 1xEV-DO フォワード・リンク解析を選択する場合は **1xEV-DO-Fwd** サイド・キーを、1xEV-DO リバース・リンク解析を選択する場合は **1xEV-DO-Rev** サイド・キーを押します。この操作により、MEASURE メニューが表示されます。
4. 実行したい測定項目に対応したサイド・キーを押します。希望する測定項目が表示されていない場合は、**Go to page 2 (of 2)** サイド・キーを押し、MEASURE メニューの 2 ページ目を表示します。
5. 必要に応じ、周波数、スパン、および振幅を設定します。

周波数、スパン、および振幅の設定方法については、「WCA230A 型／WCA280A 型 3GHz/8GHz ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・シグナル・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

1xEV-DO フォワード・リンク測定

このセクションでは、1xEV-DO フォワード・リンク測定について測定項目ごとに説明します。各測定項目では、測定の概要、各ビューの表示、およびメニューから設定できる機能について説明しています。

このセクションは、次の項目により構成されています。

- 変調確度 (Modulation Accuracy) 測定
- コード・ドメイン・パワー (Code Domain Power) 測定
- チャンネル電力 (Channel Power) 測定
- OBW 測定
- ACPR 測定
- スペクトラム・エミッション・マスク (Spectrum Emission Mask) 測定
- ゲーテッド・アウトプット・パワー (Gated Output Power) 測定
- 相互変調 (Intermodulation) 測定
- CCDF 測定
- パイロット／コード・チャンネル (Pilot to Code Channel) 測定

注：WCA230A 型/WCA280A 型 の詳しい操作方法については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

変調確度 (Modulation Accuracy) 測定

変調確度測定は、 ρ (ロー)、EVM(エラー・ベクトル振幅)、振幅誤差、位相誤差、周波数誤差、および原点オフセットを測定します。図 2-2 に、変調確度測定の例を示します。

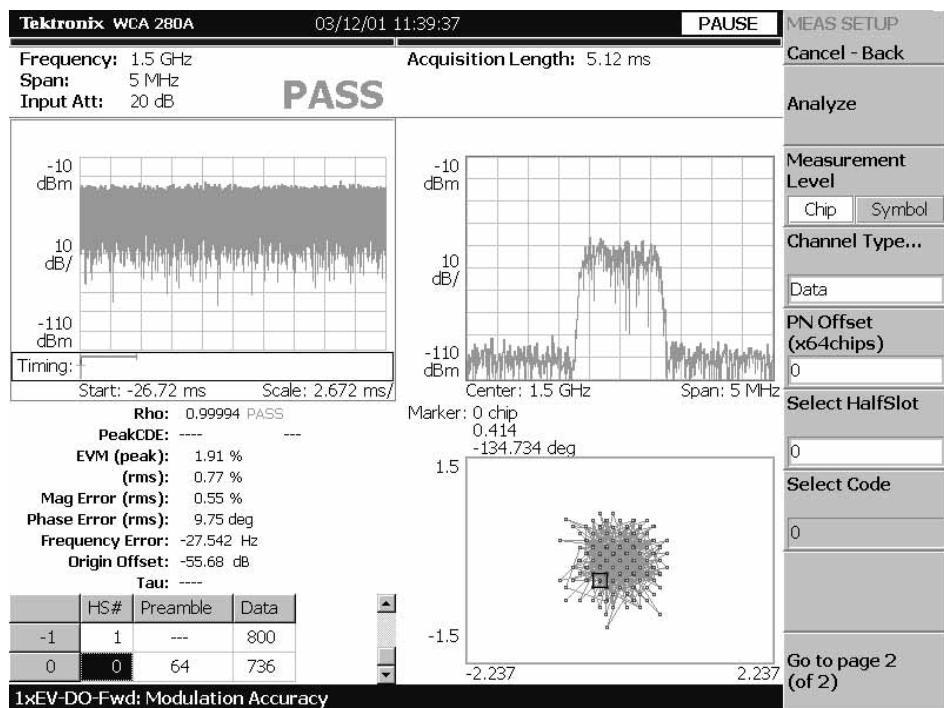


図 2-2：変調確度測定

表示内容

変調確度測定では、各ビューに次の情報が表示されます。

- **オーバービュー**：このビューには、振幅 vs. 時間またはスペクトログラムを表示することができます。
- **サブ・ビュー**：このビューには、スペクトラム、EVM、振幅誤差、位相誤差、IQ パワー・グラフ、またはコンスタレーションを表示することができます。
- **メイン・ビュー**：このビューには、変調確度、EVM、振幅誤差、位相誤差、またはシンボル・テーブルを表示することができます。

各ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューについては、2-6 ページの「ビュー内容の変更」を参照してください。

時間パラメータの設定

TIMING メニューを使用すると、次に示す時間パラメータを設定することができます。TIMING メニューを表示するには、**TIMING** キーを押します。

- **Acquisition Length (chips)** : 1 ブロックの取り込み時間をチップ単位で設定します。設定範囲は、機器のアクリジョン・メモリ容量とスパン設定により変わります。
- **Acquisition Length (s)** : 取り込み時間を時間単位で表示します。
- **Acquisition History** : データ解析および表示を行うブロック番号を指定します。最新のブロック番号は、0 です。古いブロックほど、大きい負の番号が付けられます。
- **Analysis Interval** : 解析間隔をハーフ・スロット単位で設定します。設定範囲は、Acquisition Length の設定により変わります。
- **Analysis Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点をハーフ・スロット単位で設定します。
- **Spectrum Length** : サブ・ビューに表示するスペクトラムの FFT 処理範囲を示します。この値は、1 フレームの取り込み時間と同等です。
- **Spectrum Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点を設定します。

注 : 時間パラメータの詳しい説明については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Analyze** : 解析範囲のタイム・スロットについて、解析を実行します。
- **Measurement Level** : 測定レベルを選択します。選択項目は、Chip (チップ・レベル) または Symbol (シンボル・レベル) です。なお、Channel Type で Overall が選択されている場合は、Symbol を選択することはできません。
- **Channel Type...** : 測定するチャンネルのタイプを選択します。Measurement Level で Symbol が選択されている場合は、MAC、Pilot (パイロット)、Data (データ)、または Preamble (プリアンブル) を選択することができます。また、Measurement Level で Chip が選択されている場合は、Overall (すべてのチャンネル)、MAC、Pilot (パイロット)、Data (データ)、または Preamble (プリアンブル) を選択することができます。
- **PN Offset** : PN オフセットを 64 チップ単位で設定します。設定範囲は、0 ~ 511 です。
- **Select HalfSlot** : 測定するハーフ・スロットを設定します。
- **Select Code** : 測定するハーフ・スロット内のコードを設定します。この項目は、Measurement Level が Symbol に設定されているときにのみ有効です。

- **Active Channel Threshold** : コード・チャンネルがアクティブになるかインアクティブになるかどうかを決めるスレッショルド・レベルを設定します。設定範囲は、-100 ~ 0 dB です。
- **Measurement Filter...** : EVM や他の測定結果を算出するときに使用するフィルタを選択します。選択項目は、None (なし)、cdma2000 (コンプリメンタリ・フィルタ)、cdma2000+EQ (コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザ) です。
- **IQ Swap** : 復調処理を行う前に I データおよび Q データのスワッピングを行うかどうかを設定します。
- **Limits...** : 変調確度測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

ビュー内容の変更

オーバービュー、サブ・ビュー、およびメイン・ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューを表示するには、VIEW: DEFINE キーを押します。

- **Show Views** : スクリーンに表示するビューのスタイルを選択します。選択項目は、Single (選択したビューのみを表示) または Multi (複数のビューを表示) です。
- **Overview Content...** : オーバービューに表示するビューを選択します。選択項目は、Spectrogram (スペクトログラム) または Waveform (電力 vs. 時間) です。
- **Subview Content...** : サブ・ビューに表示するビューを選択します。
 - **Spectrum** : 測定信号のスペクトラムを表示します。
 - **EVM** : エラー・ベクトル振幅の変化を表示します。
 - **MagErr** : 振幅誤差の変化を表示します。
 - **PhaseErr** : 位相誤差の変化を表示します。
 - **IQ Power Graph** : I 信号および Q 信号の電力の時間的変化を表示します。
2-18 ページの「IQ パワー・グラフ表示」を参照してください。
 - **Constellation** : 信号を I-Q コンスタレーションとして表示します。
- **Mainview Content...** : メイン・ビューに表示するビューを選択します。選択項目は、Modulation Accuracy、EVM、MagErr、PhaseErr、または Symbol です。各ビューの詳しい説明については、2-7 ページの「メイン・ビューのスケールとフォーマット」を参照してください。
- **Menu Off** : サイド・メニューを隠します。サイド・メニューを再び表示するには、MENU サイド・キーまたは VIEW: DEFINE キーを押します。

メイン・ビューのスケールとフォーマット

このサブセクションでは、メイン・ビューのスケール設定と表示フォーマットについて説明します。

変調確度表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で Modulation Accuracy を選択すると、IQ 直交座標グラフおよび測定結果が表示されます(図 2-3 参照)。

測定結果

- 波形品質 (ρ : rho)
- ピーク・コード・ドメイン・エラー
- EVM (エラー・ベクトル振幅)
(ピーク / rms)
- 振幅誤差 (rms)
- 位相誤差 (rms)
- 周波数誤差
- 原点オフセット
- 時間誤差 (τ : tau)

Rho: 0.99994
PeakCDE: ----
EVM (peak): 2.49 %
(rms): 0.79 %
Mag Error (rms): 0.56 %
Phase Error (rms): 9.22 deg
Frequency Error: -27.638 Hz
Origin Offset: -58.01 dB
Tau: ----

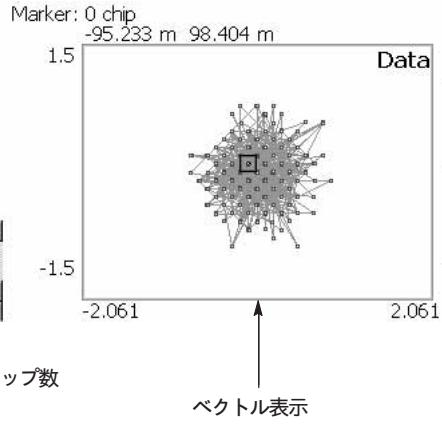


図 2-3：変調確度表示

測定結果のうち、ピーク・コード・ドメイン・エラーは測定レベルとしてシンボルが選択されているとき、また、時間誤差 (Tau) は外部トリガ信号が入力されているときにのみ表示されます。

VIEW SCALE メニューを使用すると、ビューの表示内容を変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Measurement Content...** : ベクトル表示またはコンスタレーション表示を選択します。
- **Vector** : ベクトル表示を選択します。位相と振幅で表される信号を直交(I-Q)座標で表示します。赤色の点は、測定信号のシンボル・ポジションを表し、黄色のトレースは、シンボル間の信号の軌跡を表します。
- **Constellation** : コンスタレーション表示を選択します。基本的にベクトル表示と同じですが、測定信号のシンボルだけを赤色で表示し、シンボル間の軌跡は表示しません。

注 : I 信号および Q 信号は、信号の振幅が変化したときにスケールが変化しないように正規化されています。

EVM 表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で EVM を選択すると、各チップまたはシンボルに対する EVM の時間的変化が表示されます (図 2-4 参照)。

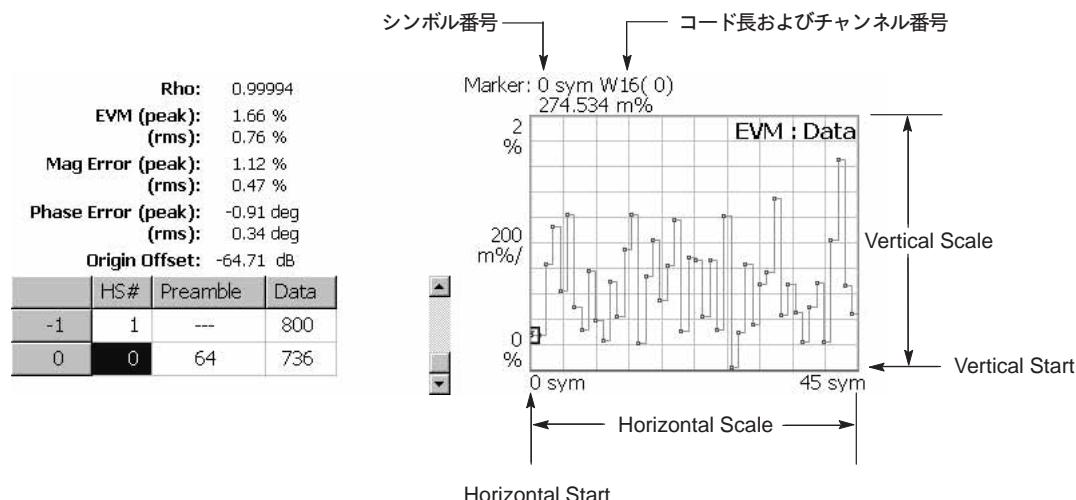


図 2-4 : EVM 表示

VIEW SCALE メニューを使用すると、EVM 表示のスケールを変更することができます。

VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Auto Scale** : オート・スケールを実行します。オート・スケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動設定されます。
- **Horizontal Scale** : 水平軸スケール (チップ数またはシンボル数) を設定します。
- **Horizontal Start** : 水平軸の開始値を設定します。
- **Vertical Scale** : 垂直軸スケールを設定します。
- **Vertical Start** : 垂直軸の開始値を設定します。
- **Full Scale** : 垂直軸スケールをデフォルトのフルスケール値に設定します。
- **Measurement Control...** : メイン・ビューに表示する内容を選択します。選択項目は、EVM、MagErr、またはPhaseErrです。この設定は、VIEW DEFINE メニューの Mainview Content 項目でも行うことができます。

振幅誤差表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で MagErr を選択すると、各チップまたはシンボルに対する振幅誤差の時間的変化が表示されます(図 2-5 参照)。

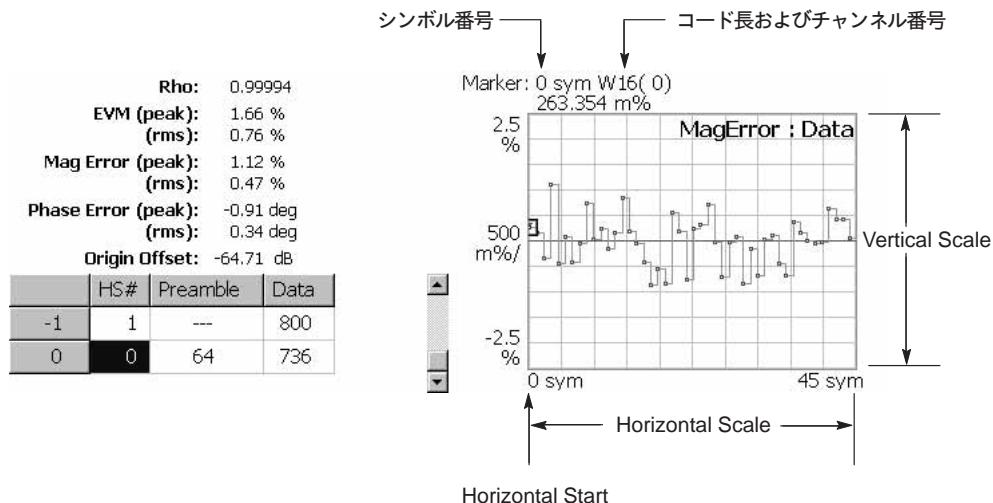


図 2-5：振幅誤差表示

VIEW SCALE メニューを使用すると、振幅誤差表示のスケールを変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Auto Scale** : オート・スケールを実行します。オート・スケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動設定されます。
- **Horizontal Scale** : 水平軸スケール(チップ数またはシンボル数)を設定します。
- **Horizontal Start** : 水平軸の開始値を設定します。
- **Vertical Scale** : 垂直軸スケールを設定します。
- **Vertical Offset** : 垂直軸のオフセット値を設定します。設定範囲は、-200 ~ 200%です。
- **Full Scale** : 垂直軸スケールをデフォルトのフルスケール値に設定します。
- **Measurement Control...** : メイン・ビューに表示する内容を選択します。選択項目は、EVM、MagErr、またはPhaseErrです。この設定は、VIEW DEFINE メニューの Mainview Content 項目でも行うことができます。

位相誤差表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で PhaseErr を選択すると、各チップまたはシンボルに対する位相誤差の時間的变化が表示されます(図 2-6 参照)。

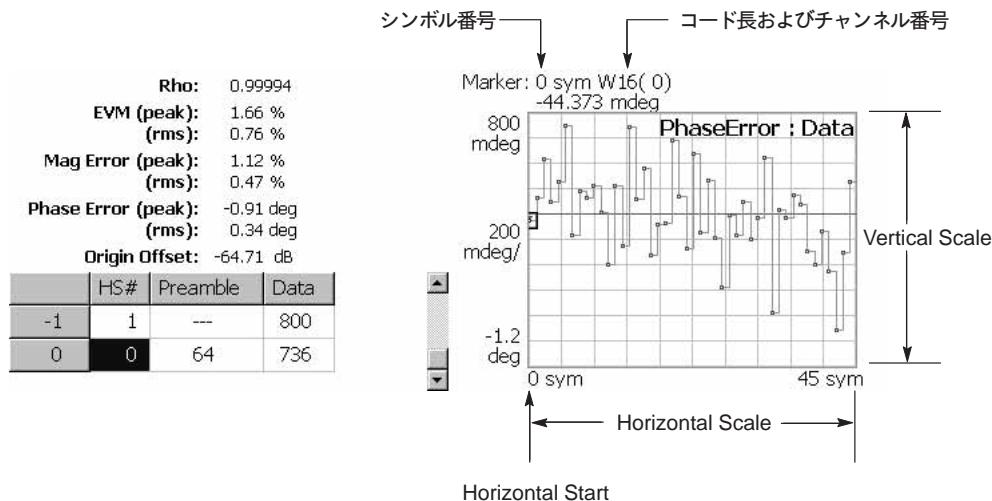


図 2-6：位相誤差表示

VIEW SCALE メニューを使用すると、位相誤差表示のスケールを変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Auto Scale**：オート・スケールを実行します。オート・スケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動設定されます。
- **Horizontal Scale**：水平軸スケール(チップ数またはシンボル数)を設定します。
- **Horizontal Start**：水平軸の開始値を設定します。
- **Vertical Scale**：垂直軸スケールを設定します。
- **Vertical Offset**：垂直軸のオフセット値を設定します。設定範囲は、 $-450 \sim 450^\circ$ です。
- **Full Scale**：垂直軸スケールをデフォルトのフルスケール値に設定します。
- **Measurement Control...**：メイン・ビューに表示する内容を選択します。選択項目は、EVM、MagErr、またはPhaseErr です。この設定は、VIEW DEFINE メニューの Mainview Content 項目でも行うことができます。

シンボル・テーブル表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で Symbol Table を選択すると、シンボル・テーブルが表示されます(図 2-7 参照)。この表示は、Measurement Level メニュー項目が Symbol に設定されているときのみ有効です。

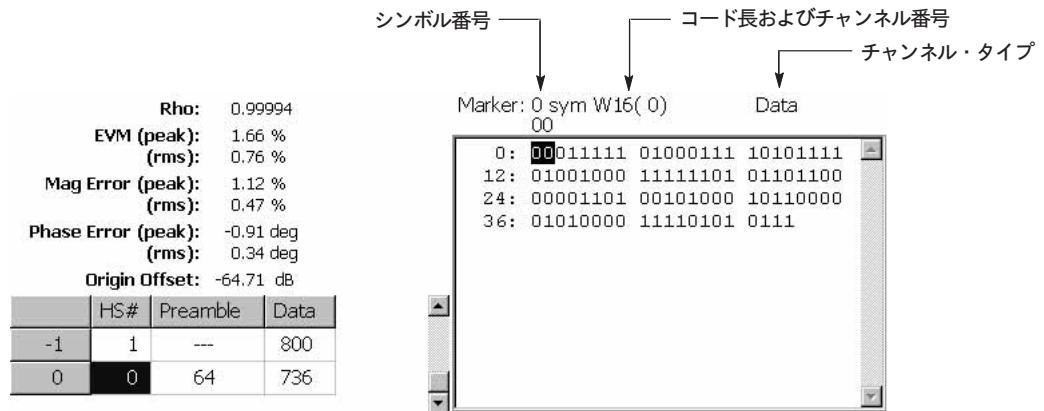


図 2-7：シンボル・テーブル表示

VIEW SCALE メニューを使用すると、シンボル・テーブル表示の基數を変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Radix...** : シンボル・テーブルの表示基數を設定します。選択項目は、Hex (16 進)、Oct (8 進)、または Bin (2 進) です。

コード・ドメイン・パワー (Code Domain Power) 測定

コード・ドメイン・パワー測定は、総信号電力に対して正規化された、一連のコード・チャンネル信号電力の分布を測定します。この測定を使用すると、各コード・チャンネルが適正なレベルで動作しているかどうかを確認することができます。図 2-8 に、コード・ドメイン・パワー測定の例を示します。

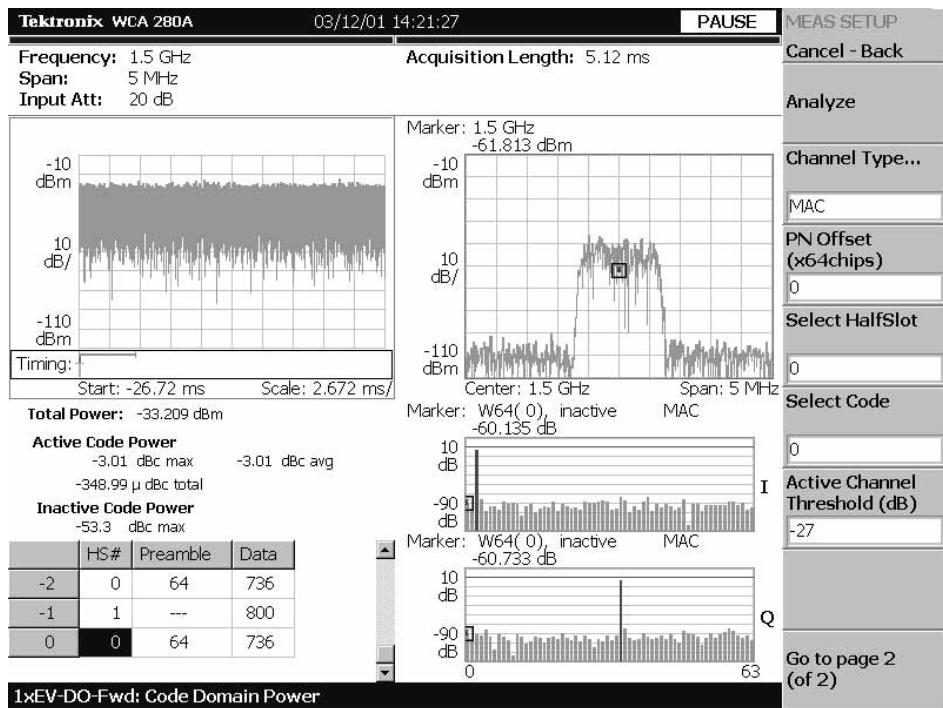


図 2-8：コード・ドメイン・パワー測定

表示内容

コード・ドメイン・パワー測定では、各ビューに次の情報が表示されます。

- **オーバービュー**：このビューには、振幅 vs. 時間またはスペクトログラムを表示することができます。
- **サブ・ビュー**：このビューには、スペクトラム、EVM、振幅誤差、位相誤差、IQ パワー・グラフ、またはコンスタレーションを表示することができます。
- **メイン・ビュー**：このビューには、コード・ドメイン・パワー、パワー・コードグラム、または IQ パワー・グラフを表示することができます。

各ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューについては、2-14 ページの「ビュー内容の変更」を参照してください。

時間パラメータの設定

TIMING メニューを使用すると、次に示す時間パラメータを設定することができます。TIMING メニューを表示するには、**TIMING** キーを押します。

- **Acquisition Length (chips)** : 1 ブロックの取り込み時間をチップ単位で設定します。設定範囲は、機器のアクイジョン・メモリ容量とスパン設定により変わります。
- **Acquisition Length (s)** : 取り込み時間を時間単位で表示します。
- **Acquisition History** : データ解析および表示を行うブロック番号を指定します。最新のブロック番号は、0 です。古いブロックほど、大きい負の番号が付けられます。
- **Analysis Interval** : 解析間隔をハーフ・スロット単位で設定します。設定範囲は、Acquisition Length の設定により変わります。
- **Analysis Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点をハーフ・スロット単位で設定します。
- **Spectrum Length** : サブ・ビューに表示するスペクトラムの FFT 処理範囲を示します。この値は、1 フレームの取り込み時間と同等です。
- **Spectrum Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点を設定します。

注 : 時間パラメータの詳しい説明については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Analyze** : 解析範囲のタイム・スロットについて、解析を実行します。
- **Measurement Level** : 測定レベルを選択します。Chip (チップ・レベル) または Symbol (シンボル・レベル) を選択することができます。
- **Channel Type...** : 測定するチャンネルのタイプを選択します。Measurement Level で Symbol が選択されている場合は、MAC、Pilot (パイロット)、Data (データ)、または Preamble (プリアンブル) を選択することができます。また、Measurement Level で Chip が選択されている場合は、Overall (すべてのチャンネル)、MAC、Pilot (パイロット)、Data (データ)、または Preamble (プリアンブル) を選択することができます。
- **PN Offset** : PN オフセットを 64 チップ単位で設定します。設定範囲は、0 ~ 511 です。
- **Select HalfSlot** : 測定するハーフ・スロットを設定します。
- **Select Code** : 測定するハーフ・スロット内のコードを設定します。この項目は、Measurement Level が Symbol に設定されているときにのみ有効です。

- **Active Channel Threshold** : コード・チャンネルがアクティブになるかインアクティブになるかどうかを決めるスレッショルド・レベルを設定します。設定範囲は、-100 ~ 0 dB です。
- **Measurement Filter...** : 測定結果を算出するときに使用するフィルタを選択します。選択項目は、None (なし)、cdma2000 (コンプリメンタリ・フィルタ)、cdma2000+EQ (コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザ) です。
- **IQ Swap** : 復調処理を行う前に I データおよび Q データのスワッピングを行うかどうかを設定します。
- **Limits...** : コード・ドメイン・パワー測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

ビュー内容の変更

オーバービュー、サブ・ビュー、およびメイン・ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューを表示するには、VIEW: DEFINE キーを押します。

- **Show Views** : スクリーンに表示するビューのスタイルを選択します。選択項目は、Single (選択したビューのみを表示) または Multi (複数のビューを表示) です。
- **Overview Content...** : オーバービューに表示するビューを選択します。選択項目は、Spectrogram (スペクトログラム) または Waveform (電力 vs. 時間) です。
- **Subview Content...** : サブ・ビューに表示するビューを選択します。
 - **Spectrum** : 測定信号のスペクトラムを表示します。
 - **EVM** : エラー・ベクトル振幅の変化を表示します。
 - **MagErr** : 振幅誤差の変化を表示します。
 - **PhaseErr** : 位相誤差の変化を表示します。
 - **IQ Power Graph** : I 信号および Q 信号の電力の時間的変化を表示します。
2-18 ページの「IQ パワー・グラフ表示」を参照してください。
 - **Constellation** : 信号を I-Q コンステレーションとして表示します。
- **Mainview Content...** : メイン・ビューに表示するビューを選択します。選択項目は、Code Domain Power、Power Codogram、または IQ Power Graph です。各ビューの詳しい説明については、2-15 ページの「メイン・ビューのスケールとフォーマット」を参照してください。
- **Code Order...** : コード・チャンネルの配列方法を設定します。選択項目は、Hadamard または BitReverse (ビット・リバース) です。ビット・リバースでは、2進のコード番号が Hadamard に対して逆になります。
- **Menu Off** : サイド・メニューを隠します。サイド・メニューを再び表示するには、MENU サイド・キーまたは VIEW: DEFINE キーを押します。

メイン・ビューのスケールとフォーマット

このサブセクションでは、メイン・ビューのスケール設定と表示フォーマットについて説明します。

コード・ドメイン・パワー表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で Code Domain Power を選択すると、各コード・チャンネルのコード・ドメイン・パワーが表示されます (図 2-9 参照)。

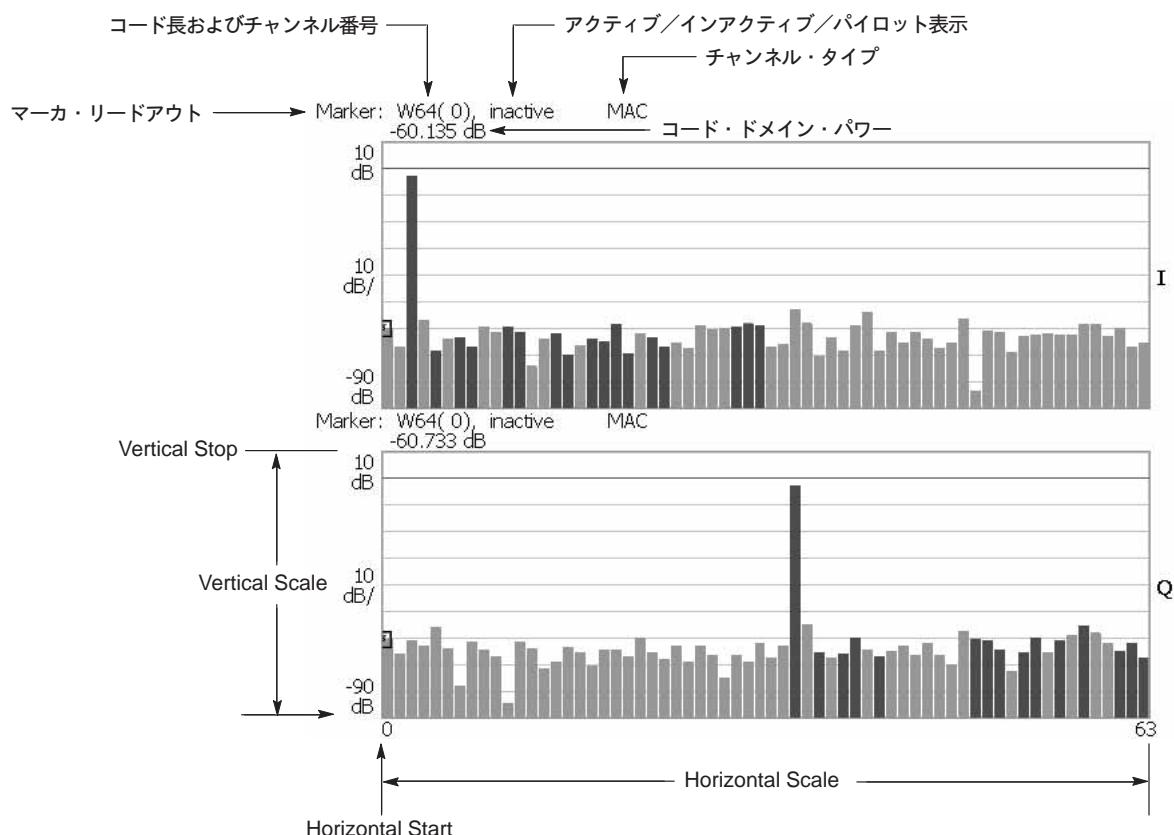


図 2-9：コード・ドメイン・パワー表示

コード・ドメイン・パワー表示では、バーが次のように色分けされています。

- パイロット・チャンネル：青色
- アクティブ・チャンネル：赤色
- インアクティブ・チャンネル：黄色

VIEW SCALE メニューを使用すると、コード・ドメイン・パワー表示のスケールを変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW:SCALE キーを押します。

- **Auto Scale**：オート・スケールを実行します。オート・スケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動設定されます。

- **Horizontal Scale** : 水平軸スケールを設定します。設定範囲は、選択されているチャンネル・タイプにより異なります。
- **Horizontal Start** : 水平軸の開始値(チャンネル番号)を設定します。
- **Vertical Scale** : 垂直軸スケールを設定します。設定範囲は、100 μdB ~ 100 dBです。
- **Vertical Stop** : 垂直軸の最大値を設定します。設定範囲は、-100 ~ 100 dBです。
- **Full Scale** : 垂直軸スケールをデフォルトのフルスケール値に設定します。
- **Y Axis...** : 垂直軸(振幅)を相対値で表すか、絶対値で表すかを選択します。選択項目は、Relative または Absolute です。Relative では、全チャンネルの総電力を基準とした相対電力で表されます。また、Absolute では、各チャンネルの絶対全力で表されます。
- **Graph Number** : スクリーンに表示するグラフ数を選択します。選択項目は、1 または 2 です。
- **View Data...** : Graph Number メニュー項目で 1 を選択した場合、表示するチャンネルを設定します。選択項目は、I、Q、または IandQ です。

パワー・コードグラム表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で Power Codogram を選択すると、コード・ドメイン・パワーがスペクトログラムとして表示されます(図 2-10 参照)。

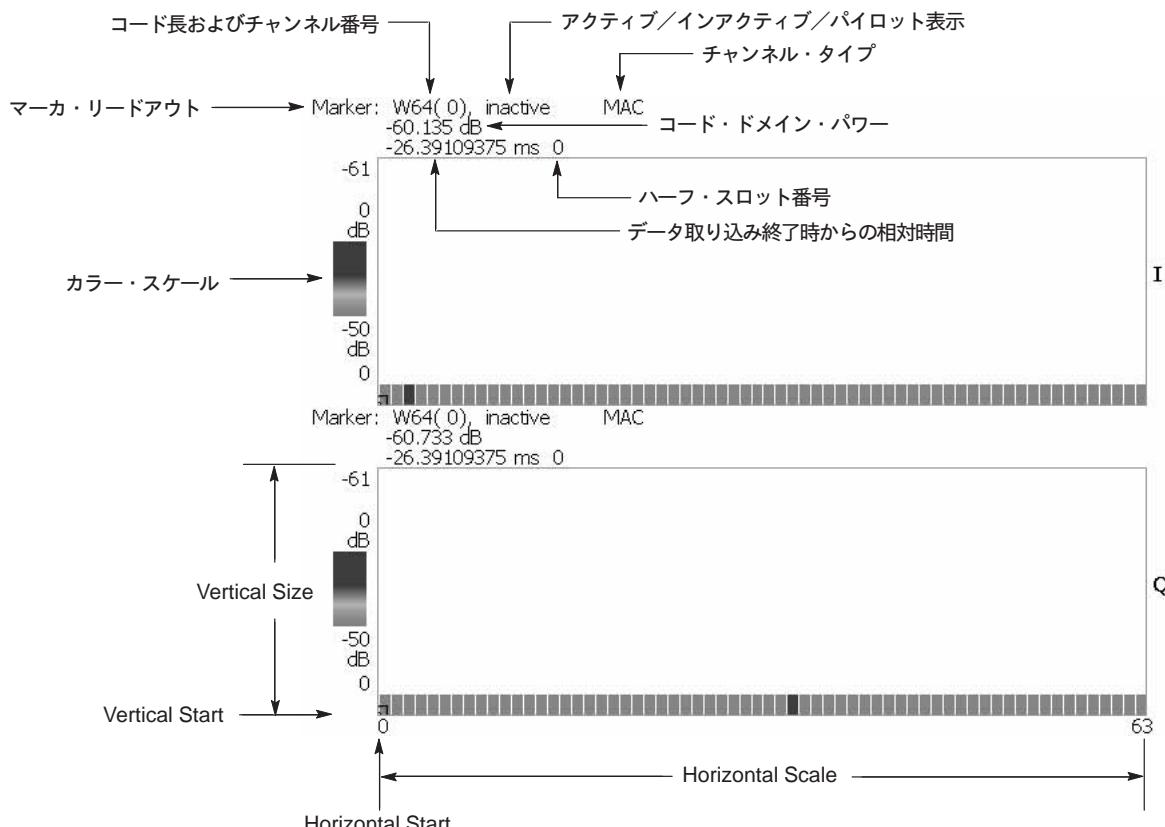


図 2-10 : パワー・コードグラム表示

VIEW SCALE メニューを使用すると、パワー・コードグラム表示のスケールを変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Auto Scale** : オート・スケールを実行します。オート・スケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動設定されます。
- **Horizontal Scale** : 水平軸スケールを設定します。設定範囲は、選択されているチャンネル・タイプにより異なります。
- **Horizontal Start** : 水平軸の開始値 (チャンネル番号) を設定します。
- **Vertical Size** : 垂直軸スケールを設定します。
- **Vertical Start** : 垂直軸の開始値 (フレーム番号) を設定します。
- **Color Scale** : 色軸のスケール (電力の最大値から最小値を引いた値) を設定します。設定値は、10、20、50、または 100 dB です。
- **Color Stop** : 色軸の最大値を設定します。
- **Full Scale** : 色軸の上端の値をリファレンス・レベルに設定します。
- **Y Axis...** : 垂直 (色) 軸を相対値で表すか、絶対値で表すかを選択します。選択項目は、Relative または Absolute です。Relative では、全チャンネルの総電力を基準とした相対電力で表されます。また、Absolute では、各チャンネルの絶対全力で表されます。
- **Graph Number** : スクリーンに表示するグラフ数を選択します。選択項目は、1 または 2 です。
- **View Data...** : Graph Number メニュー項目で 1 を選択した場合、表示するチャンネルを設定します。選択項目は、I、Q、または IandQ です。

IQ パワー・グラフ表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で IQ Power Graph を選択すると、各シンボルまたはチップに対する I 信号および Q 信号の電力の時間的変化が表示されます(図 2-11 参照)。

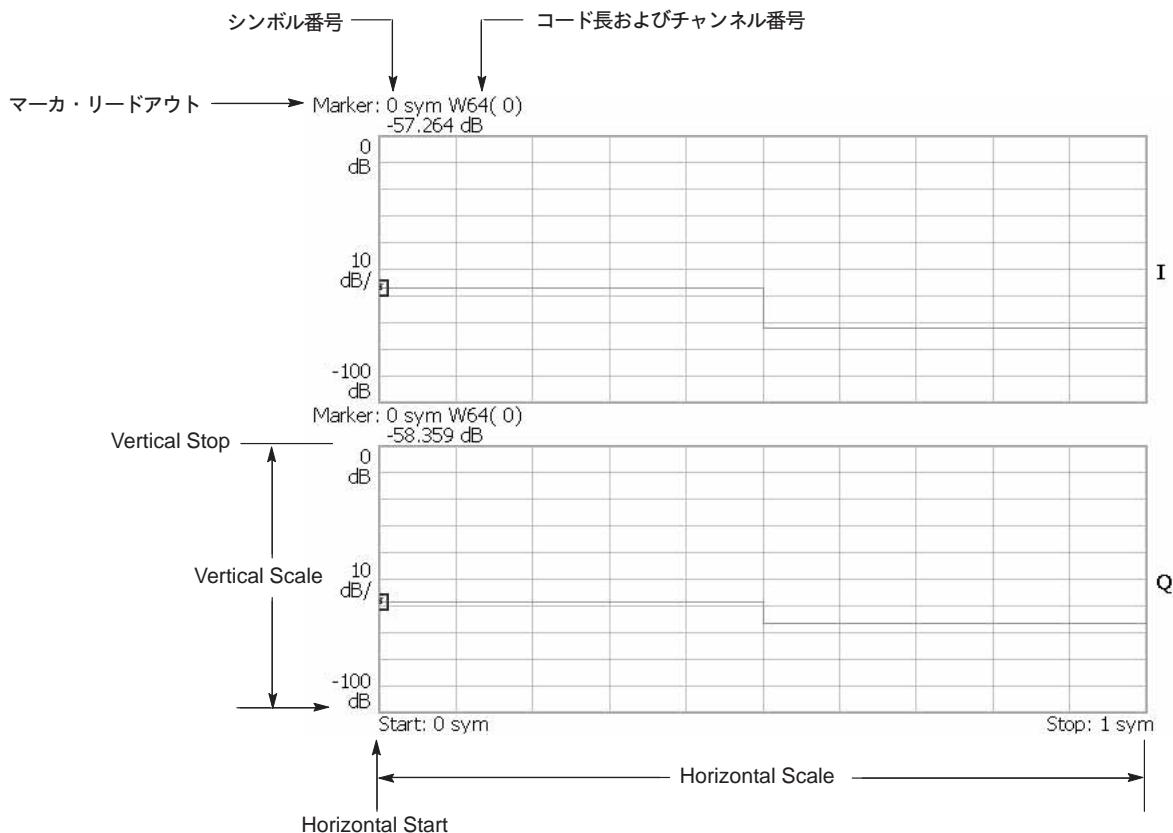


図 2-11 : IQ パワー・グラフ表示

VIEW SCALE メニューを使用すると、コード・ドメイン・パワー表示のスケールを変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW:SCALE キーを押します。

- **Auto Scale** : オート・スケールを実行します。オート・スケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動設定されます。
- **Horizontal Scale** : 水平軸スケール(チップ数またはシンボル数)を設定します。
- **Horizontal Start** : 水平軸の開始値(チップ番号またはシンボル番号)を設定します。
- **Vertical Scale** : 垂直軸スケールを設定します。設定範囲は、100 µdB ~ 100 dB です。
- **Vertical Stop** : 垂直軸の最大値を設定します。設定範囲は、-100 ~ 100 dB です。
- **Full Scale** : 垂直軸スケールをデフォルトのフルスケール値に設定します。
- **Y Axis...** : 垂直軸(振幅)を相対値で表すか、絶対値で表すかを選択します。選択項目は、Relative または Absolute です。Relative では、全チャンネルの総電力を基準とした相対電力で表されます。また、Absolute では、各チャンネルの絶対全力で表されます。

- **Graph Number** : スクリーンに表示するグラフ数を選択します。選択項目は、1 または 2 です。
- **View Data...** : Graph Number メニュー項目で 1 を選択した場合、表示するチャンネルを設定します。選択項目は、I、Q、または IandQ です。

チャンネル電力 (Channel Power) 測定

チャンネル電力測定は、指定された帯域内のチャンネル電力とパワー・スペクトラム密度 (dBm/Hz) を測定します。図 2-12 に、チャンネル電力測定の例を示します。

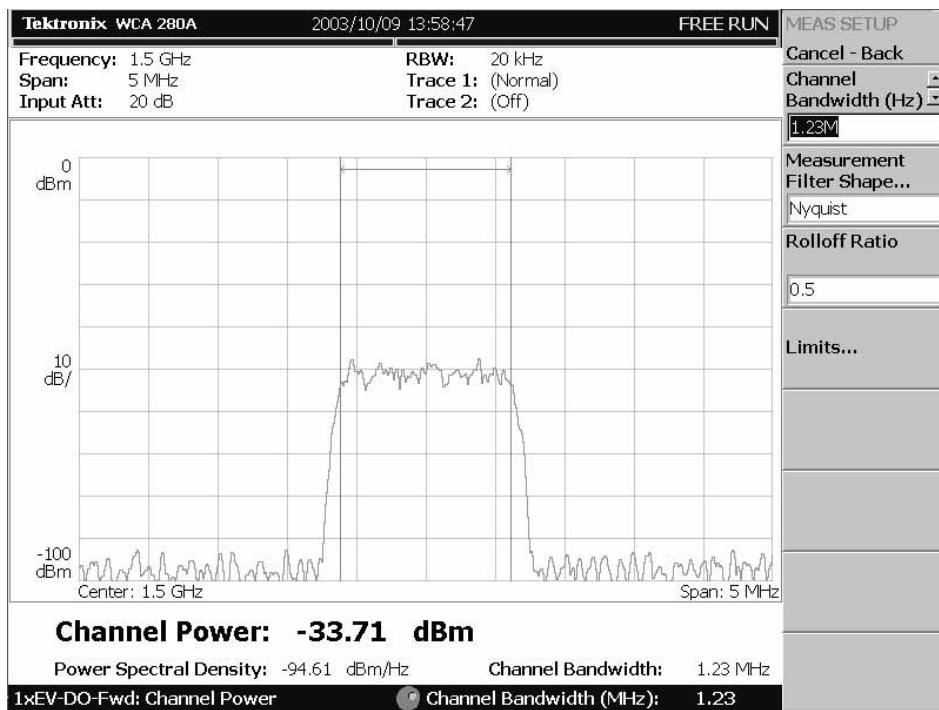


図 2-12：チャンネル電力測定

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Channel Bandwidth** : 電力測定の周波数範囲を設定します。
- **Measurement Filter Shape** : 測定に使用するフィルタの形状を選択します。選択項目は、Rect (矩形)、Gaussian (ガウス)、Nyquist (ナイキスト)、または Root Nyquist (ルート・ナイキスト) です。
- **Rolloff Ratio** : フィルタとしてナイキストまたはルート・ナイキストを選択したときのロール・オフ値を設定します。設定範囲は、0.0001 ~ 1 です。
- **Limits...** : チャンネル電力測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

注：ビューアのスケール設定については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

OBW 測定

OBW (Occupied Bandwidth : 占有帯域幅) 測定は、スパン周波数領域の全電力に対して、キャリア信号の電力が指定の割合になる周波数帯域を測定します。図 2-13 に、OBW 測定の例を示します。

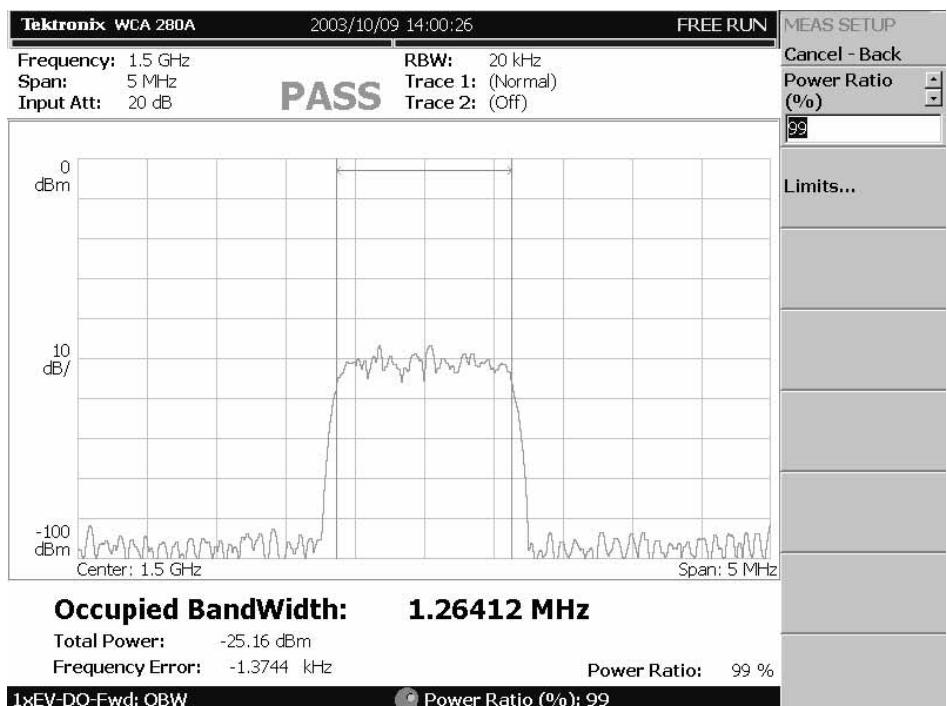


図 2-13 : OBW 測定

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、MEAS SETUP キーを押します。

- **Power Ratio :** OBW を算出するときのキャリア領域とスパン領域の電力比を指定します。設定範囲は、80% ~ 99% です。
- **Limits... :** OBW 測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

注 : ビューのスケール設定については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

ACPR 測定

ACPR (Adjacent Channel Leakage Ratio : 隣接チャンネル漏洩電力比) 測定は、キャリア信号と測定リミットで指定された周波数領域に現れる信号との電力比 (dB) を測定します。図 2-14 に、ACPR 測定の例を示します。

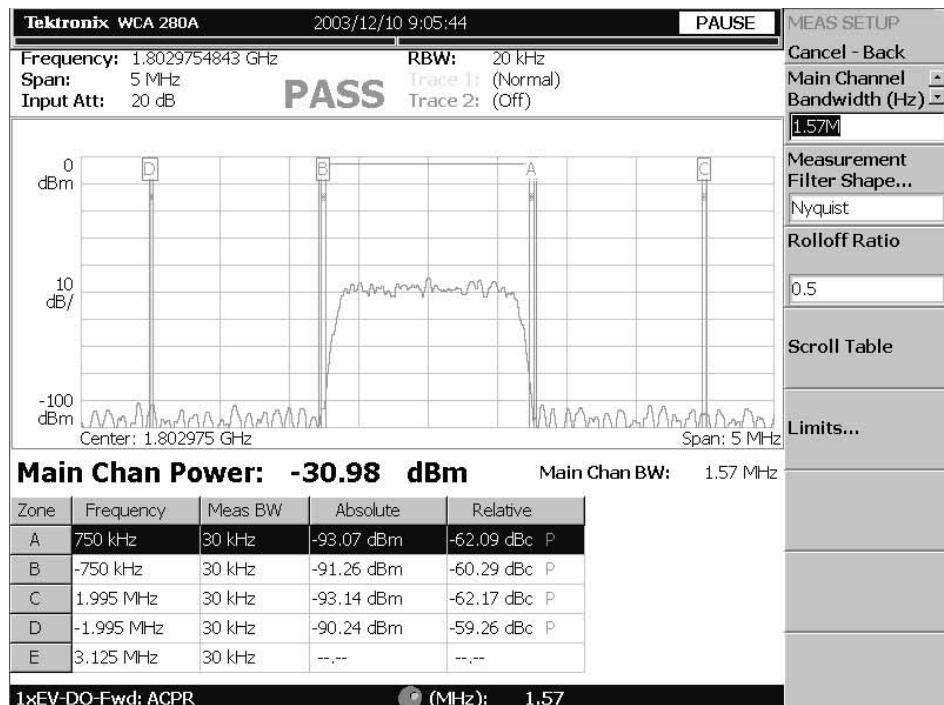


図 2-14 : ACPR 測定

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Main Channel Bandwidth** : 主チャンネルの周波数範囲を設定します。
- **Measurement Filter Shape** : 測定に使用するフィルタの形状を選択します。選択項目は、Rect (矩形)、Gaussian (ガウス)、Nyquist (ナイキスト)、または Root Nyquist (ルート・ナイキスト) です。
- **Rolloff Ratio** : フィルタとしてナイキストまたはルート・ナイキストを選択したときのロール・オフ値を設定します。設定範囲は、0.0001 ~ 1 です。
- **Scroll Table** : スクリーンに表示されている表をスクロールします。

- **Limits...** : ACPR 測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

注：ビューのスケール設定については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

スペクトラム・エミッション・マスク(Spectrum Emission Mask)測定

スペクトラム・エミッション・マスク測定は、ベース・ステーションが、指定されたチャネル外に不要な電力を伝送していないかを確認します。オプション 26 型では、各バンド・クラスに対応した測定リミット・テーブルがあらかじめ用意されているため、パス/フェイル・テストを簡単に実行することができます。図 2-15 に、スペクトラム・エミッション・マスク測定の例を示します。

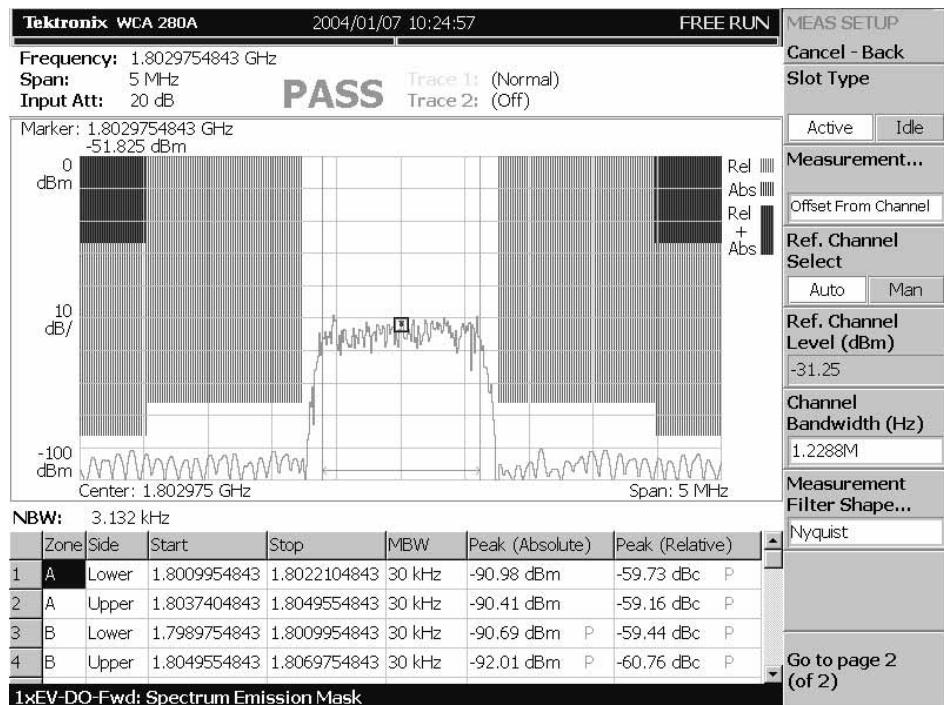


図 2-15：スペクトラム・エミッション・マスク測定

注：スペクトラム・エミッション・マスク測定を実行する場合には、アクティブ・スロット信号またはアイドル・スロット信号が連続して入力されている必要があります。

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Slot Type** : 測定するスロット・タイプを選択します。選択項目は、Active (アクティブ) または Idle (アイドル) です。アクティブでは、パイロット・チャンネル、MAC チャンネル、およびデータ・チャンネルの総電力が測定されます。また、アイドルでは、パイロット・チャンネルと MAC チャンネルのバースト電力が測定されます。

MEAS SETUP メニューに表示されるメニュー項目は、選択するスロット・タイプにより変わります。

Active を選択した場合 :

- **Measurement...** : リミット・テストに使用するリミット・テーブルを設定します。選択項目は、Offset From Channel または Inband Spurious です。Offset From Channel では、周波数ゾーンが中心周波数からの差により指定されます。また、Inband Spurious では、周波数ゾーンが周波数の絶対値により指定されます。
- **Ref.Channel Select** : スペクトラム・エミッション・レベルを測定するためのリファレンス・モードを選択します。選択項目は、Auto または Man (manual) です。Auto では、指定されたチャンネル帯域に対して、リファレンス・チャンネル・レベルが入力信号をもとに設定されます。また、Man では、リファレンス・チャンネル・レベルを Ref. Channel Level メニュー項目で設定します。
- **Ref. Channel Level** : スペクトラム・エミッション・レベルを測定するためのリファレンス・レベルを設定します。設定範囲は、-150 ~ 30 dBm です。この項目は、Ref. Channel Select が Man に設定されているときにのみ有効です。
- **Channel Bandwidth** : 測定するチャンネルの周波数範囲を設定します。この項目は、Ref. Channel Select が Auto に設定されているときにのみ有効です。
- **Measurement Filter Shape** : 測定に使用するフィルタの形状を選択します。選択項目は、Rect (矩形)、Gaussian (ガウス)、Nyquist (ナイキスト)、または Root Nyquist (ルート・ナイキスト) です。この項目は、Ref. Channel Select が Man に設定されているときにのみ有効です。
- **Rolloff Ratio** : フィルタとしてナイキストまたはルート・ナイキストを選択したときのロール・オフ値を設定します。設定範囲は、0.0001 ~ 1 です。
- **Limits...** : スペクトラム・エミッション・マスク測定のためのパス／フェイル／リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。
- **Scroll Table** : スクリーンに表示されている表をスクロールします。

Idle を選択した場合 :

注: スペクトラム・エミッション・マスク測定では、周波数マスクを編集することはできません。

- **Measurement...** : リミット・テストに使用するリミット・テーブルを設定します。選択項目は、Offset From Channel または Inband Spurious です。Offset From Channel では、周波数ゾーンが中心周波数からの差により指定されます。また、Inband Spurious では、周波数ゾーンが周波数の絶対値により指定されます。
- **Gate Length** : 測定するゲート長を設定します。設定範囲は、180 ~ 840 μs です。
- **Burst Sync...** : 測定するバースト・ポイントを選択します。選択項目は、Rising Edge (立ち上がりエッジ)、Mid Point (中間点)、または Trigger Position (トリガ・ポジション) です。

- **Ref.Channel Select** : スペクトラム・エミッション・レベルを測定するためのリファレンス・モードを選択します。選択項目は、Auto または Man (manual) です。Auto では、指定されたチャンネル帯域に対して、リファレンス・チャンネル・レベルが入力信号をもとに設定されます。また、Man では、リファレンス・チャンネル・レベルを Ref. Channel Level メニュー項目で設定します。
- **Ref. Channel Level** : スペクトラム・エミッション・レベルを測定するためのリファレンス・レベルを設定します。設定範囲は、-150 ~ 30 dBm です。この項目は、Ref. Channel Select が Man に設定されているときにのみ有効です。
- **Analyze** : 解析範囲のタイム・スロットについて、解析を実行します。
- **Limits...** : スペクトラム・エミッション・マスク測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。
- **Scroll Table** : スクリーンに表示されているテーブルをスクロールします。

注：ビューワーのスケール設定については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

時間パラメータの設定

スロット・タイプとしてアイドル・スロットが選択されている場合、TIMING メニューを使用すると、次のタイミング・パラメータを設定することができます。TIMING メニューを表示するには、TIMING キーを押します。

- **Acquisition History** : データ解析・表示を行うブロック番号を指定します。最新のブロック番号は、0 です。古いブロックほど、大きい負の番号が付けられます。

表示内容

スロット・タイプとしてアイドル・スロットが選択されている場合、スペクトラム・エミッション・マスク測定では、各ビューワーに次の情報を表示することができます。

- **オーバービュー** : このビューワーには、振幅 vs. 時間またはスペクトログラムを表示することができます。
- **メイン・ビュー** : このビューワーには、スペクトラムを表示することができます。

各ビューワーに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューについては、2-27 ページの「ビューワー内容の変更」を参照してください。

ビュー内容の変更

スロット・タイプとしてアイドル・スロットが選択されている場合、オーバービューに表示される内容を、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューを表示するには、VIEW: DEFINE キーを押します。

- **Show Views** : スクリーンに表示するビューのスタイルを選択します。選択項目は、Single (選択したビューのみを表示) または Multi (複数のビューを表示) です。
- **Overview Content...** : オーバービューに表示するビューを選択します。選択項目は、Spectrogram (スペクトログラム) または Waveform (電力 vs. 時間) です。
- **Menu Off** : サイド・メニューを隠します。サイド・メニューを再び表示するには、MENU サイド・キーまたは VIEW: DEFINE キーを押します。

ゲーテッド・アウトプット・パワー (Gated Output Power) 測定

ゲーテッド・アウトプット・パワー測定は、選択されたチャンネルにおける総 RF 電力を測定します。図 2-16 に、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の例を示します。

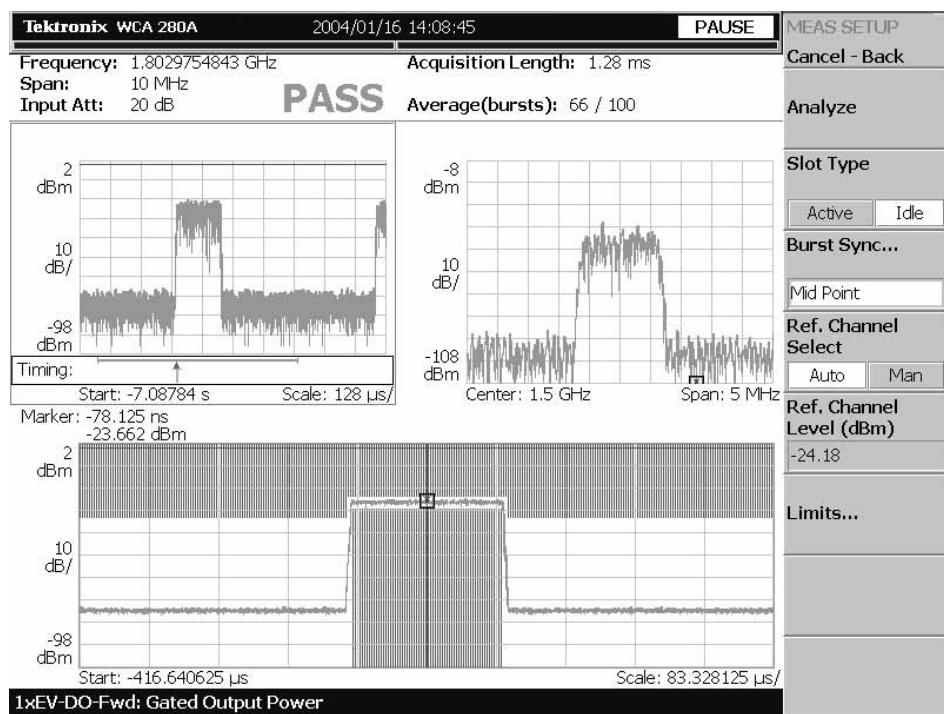


図 2-16：ゲーテッド・アウトプット・パワー測定

表示内容

ゲーテッド・アウトプット・パワー測定では、各ビューに次の情報が表示されます。

- **オーバービュー**：このビューには、振幅 vs. 時間またはスペクトログラムを表示することができます。
- **サブ・ビュー**：このビューには、スペクトラムを表示することができます。
- **メイン・ビュー**：このビューには、振幅 vs. 時間を表示することができます。

オーバービューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューについては、2-29ページの「ビュー内容の変更」を参照してください。

時間パラメータの設定

TIMING メニューを使用すると、次のタイミング・パラメータを設定することができます。TIMING メニューを表示するには、TIMING キーを押します。

- **Acquisition History**：データ解析・表示を行うブロック番号を指定します。最新のブロック番号は、0 です。古いブロックほど、大きい負の番号が付けられます。

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Analyze** : 解析範囲のタイム・スロットについて、解析を実行します。
- **Slot Type** : 測定するスロット・タイプを選択します。選択項目は、Active (アクティブ) または Idle (アイドル) です。アクティブでは、パイロット・チャンネル、MAC チャンネル、およびデータ・チャンネルの総電力が測定されます。また、アイドルでは、パイロット・チャンネルと MAC チャンネルのバースト電力が測定されます。

注 : Idle を選択した場合は、トリガ・ソースが Level に設定されている必要があります。

- **Burst Sync...** : 測定するバースト・ポイントを選択します。選択項目は、Rising Edge (立ち上がりエッジ)、Mid Point (中間点)、または Trigger Position (トリガ・ポジション) です。
- **Burst Offset** : トリガ・ポジションとバースト・ポジション間のオフセットを設定します。設定範囲は、-1 ~ 1 ms です。この項目は、Burst Sync が Trigger Position に設定されているときにのみ有効です。
- **Ref.Channel Select** : 電力レベルを測定するためのリファレンス・モードを選択します。選択項目は、Auto または Man (manual) です。Auto では、指定されたチャンネル帯域に対して、リファレンス・チャンネル・レベルが入力信号をもとに設定されます。また、Man では、リファレンス・チャンネル・レベルを Ref. Channel Level メニュー項目で設定します。
- **Ref. Channel Level** : 電力レベルを測定するためのリファレンス・チャンネル・レベルを設定します。設定範囲は、-150 ~ 30 dBm です。この項目は、Ref. Channel Select が Man に設定されているときにのみ有効です。
- **Limits...** : ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

ビュー内容の変更

オーバービューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューを表示するには、**VIEW: DEFINE** キーを押します。

- **Show Views** : スクリーンに表示するビューのスタイルを選択します。選択項目は、Single (選択したビューのみを表示) または Multi (複数のビューを表示) です。
- **Overview Content...** : オーバービューに表示するビューを選択します。選択項目は、Spectrogram (スペクトログラム) または Waveform (電力 vs. 時間) です。
- **Menu Off** : サイド・メニューを隠します。サイド・メニューを再び表示するには、**MENU** サイド・キーまたは **VIEW: DEFINE** キーを押します。

メイン・ビューのスケール

メイン・ビューのスケールは、VIEW SCALE メニューを使用して設定することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、SCALE キーを押します。

- **Horizontal Scale** : 水平軸のスケールを設定します。
- **Horizontal Start** : 水平軸の開始値を設定します。
- **Vertical Scale** : 垂直軸のスケールを設定します。
- **Vertical Stop** : 垂直軸の最大値を設定します。
- **Full Scale** : 垂直軸スケールをデフォルトのフル・スケールに設定します。

相互変調 (Intermodulation) 測定

相互変調測定は、変調信号の3次および5次の高調波歪み成分を測定します。図 2-17 に相互変調測定の例を示します。

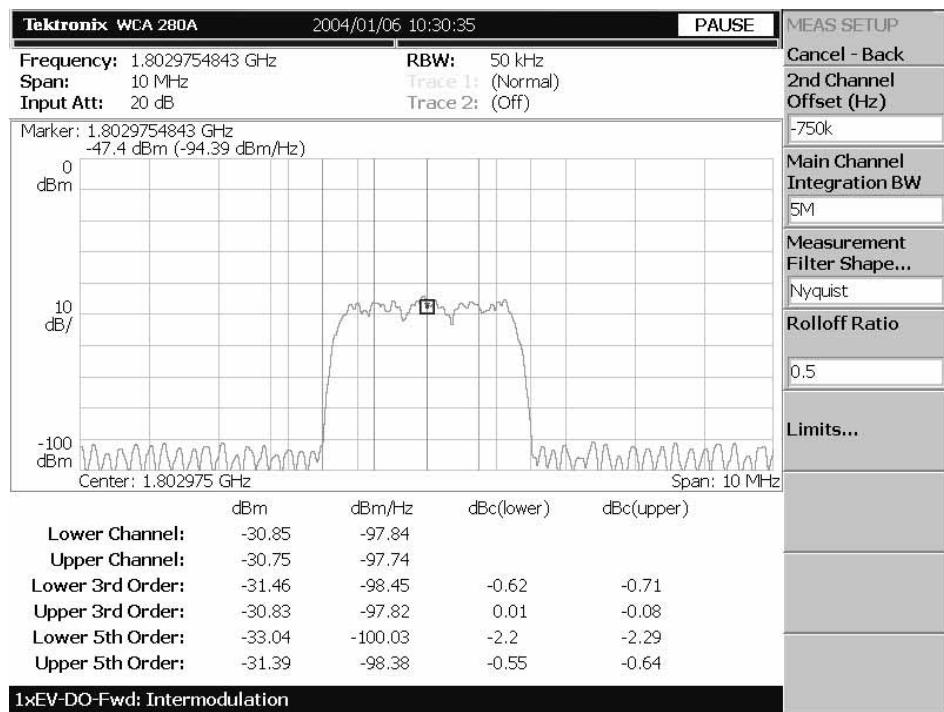


図 2-17：相互変調測定

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **2nd Channel Offset** : 第 2 チャンネルの中心周波数を設定します。
- **Main Channel Integration BW** : 主チャネルのインテグレーション帯域幅を設定します。設定範囲は、500 kHz ~ 5 MHz です。
- **Measurement Filter Shape** : 測定に使用するフィルタの形状を選択します。選択項目は、Rect (矩形)、Gaussian (ガウス)、Nyquist (ナイキスト)、または Root Nyquist (ルート・ナイキスト) です。
- **Rolloff Ratio** : フィルタとしてナイキストまたはルート・ナイキストを選択したときのロール・オフ値を設定します。設定範囲は、0.0001 ~ 1 です。
- **Limits...** : 相互変調測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

注 : ビューのスケール設定については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

CCDF 測定

CCDF (Complementary Cumulative Distribution Function) 測定は、水平軸にピーク電力と平均電力の比をとり、垂直軸にその比の値を超える確立を表示します。この表示は、デジタル・コミュニケーション・システムなどの設計に役立ちます。図 2-18 に、CCDF 表示の例を示します。

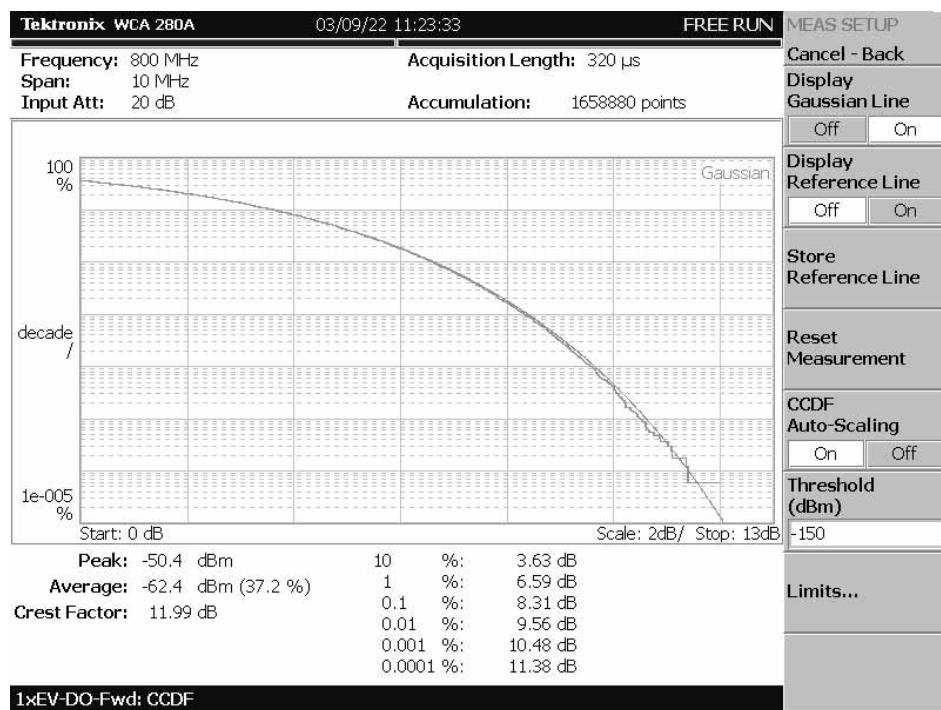


図 2-18 : CCDF 測定 (シングル・ビュー)

時間パラメータの設定

TIMING メニューを使用すると、次に示す時間パラメータを設定することができます。TIMING メニューを表示するには、**TIMING** キーを押します。

- **Acquisition Length** : 取り込み時間を時間単位で設定します。
- **Acquisition History** : データ解析および表示を行うブロック番号を指定します。最新のブロック番号は、0 です。古いブロックほど、大きい負の番号が付けられます。
- **Spectrum Length** : サブ・ビューに表示するスペクトラムの FFT 処理範囲を示します。この値は、1 フレームの取り込み時間と同等です。
- **Spectrum Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点を設定します。
- **Output Trigger Indicator** : 出力トリガ・インジケータのオンまたはオフを設定します。

注：時間パラメータの詳しい説明については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Display Gaussian Line**：ガウシャン・ラインを表示するかどうかを設定します。
- **Display Reference Line**：最後に保存されたリファレンス・ラインを表示するかどうかを設定します。
- **Store Reference Line**：新しいリファレンス・ラインを保存します。
- **Reset Measurement**：CCDF の計算処理を最初から実行します。このボタンを押すと、スクリーン右上の Accumulation カウンタの値が 0 にリセットされます。
- **CCDF Auto-Scaling**：水平軸のスケールを自動設定するかどうかを設定します。On に設定すると、信号のピーク値が水平軸の最大値としてグラフに表示されます。また、Off に設定すると、水平軸のスケールは、CCDF Scale メニュー項目で設定された固定値になります。
- **CCDF Scale**：CCDF Auto-Scaling が Off に設定されているときの水平軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、1 ~ 100 dB です。
- **Threshold**：CCDF の計算処理に含めるサンプルを定義するスレッショルドを設定します。設定範囲は、-250 ~ 130 dBm です。
- **Limits...**：このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

ビュー内容の変更

オーバービューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューを表示するには、**VIEW: DEFINE** キーを押します。

- **Show Views**：スクリーンに表示するビューのスタイルを選択します。選択項目は、Single (選択したビューのみを表示) または Multi (複数のビューを表示) です。Multi に設定すると、CCDF、スペクトラム、および電力 vs. 時間を同時に表示することができます。
- **Overview Content...**：オーバービューに表示するビューを選択します。選択項目は、Spectrogram (スペクトログラム) または Waveform (電力 vs. 時間) です。
- **Menu Off**：サイド・メニューを隠します。サイド・メニューを再び表示するには、**MENU** サイド・キーまたは **VIEW: DEFINE** キーを押します。

メイン・ビューのスケール

メイン・ビューのスケールは、VIEW SCALE メニューを使用して設定することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、SCALE キーを押します。

- **Auto Scale** : オート・スケールを実行します。オート・スケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動設定されます。
- **Horizontal Scale** : 水平軸のスケールを設定します。
- **Horizontal Start** : 水平軸の開始値を設定します。
- **Vertical Stop** : 垂直軸の最大値を設定します。設定範囲は、Vertical Start 値の 2 倍～100% です (1-2-5 ステップ)。
- **Vertical Start** : 垂直軸の最小値を設定します。設定範囲は、 10^{-5} ～Vertical Stop 値の 1/2 (1-2-5 ステップ)。
- **Full Scale** : 垂直軸スケールをデフォルトのフル・スケールに設定します。
- **Sub Grid** : 目盛上に補助目盛を表示するかどうかを設定します。

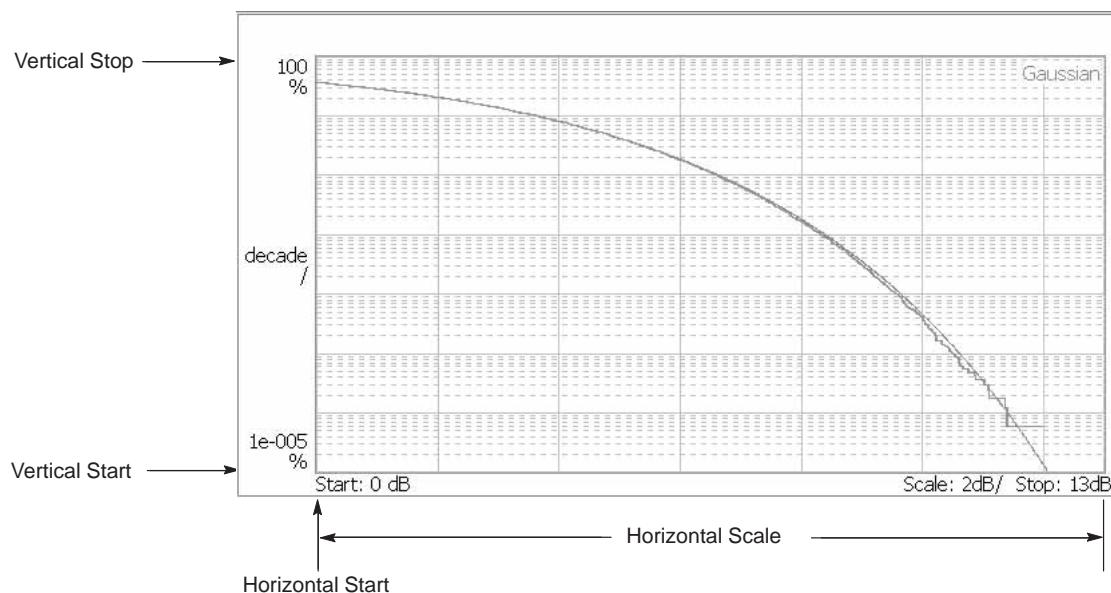


図 2-19 : CCDF 表示のスケール設定

パイロット／コード・チャンネル (Pilot to Code Channel) 測定

パイロット／コード・チャンネル測定は、受信された信号内で検出されたパイロット・チャンネルと他のコード・チャンネル間との時間差を測定します。図 2-20 に、パイロット／コード・チャンネル測定の例を示します。

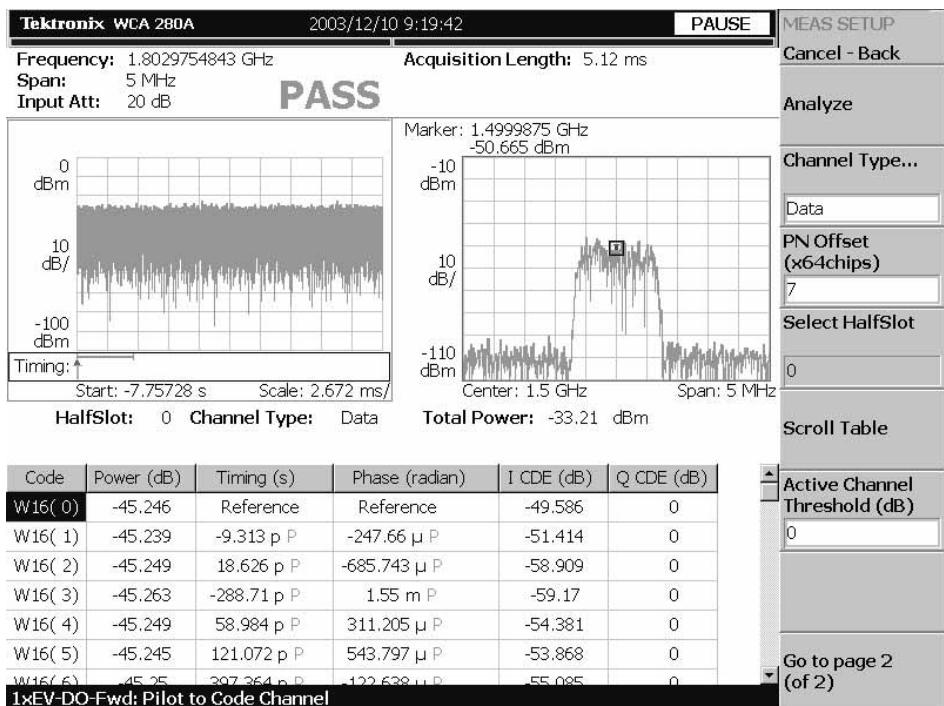


図 2-20：パイロット／コード・チャンネル測定

表示内容

パイロット／コード・チャンネル測定では、各ビューに次の情報が表示されます。

- **オーバービュー**：このビューには、振幅 vs. 時間またはスペクトrogramを表示することができます。
- **サブ・ビュー**：このビューには、スペクトラム、EVM、振幅誤差、位相誤差、またはコンスタレーションを表示することができます。
- **メイン・ビュー**：このビューには、アクティブ・チャンネルに対する次の測定結果が表示されます。
 - 電力レベル
 - パイロット・チャンネルを基準とした時間差
 - パイロット・チャンネルを基準とした位相差
 - コード・ドメイン・エラー

サブ・ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューについては、2-37ページの「ビュー内容の変更」を参照してください。

時間パラメータの設定

TIMING メニューを使用すると、次に示す時間パラメータを設定することができます。TIMING メニューを表示するには、**TIMING** キーを押します。

- **Acquisition Length (chips)** : 1 ブロックの取り込み時間をチップ単位で設定します。設定範囲は、機器のアクイジション・メモリ容量とスパン設定により変わります。
- **Acquisition Length (s)** : 取り込み時間を時間単位で表示します。
- **Acquisition History** : データ解析・表示を行うブロック番号を指定します。最新のブロック番号は、0 です。古いブロックほど、大きい負の番号が付けられます。
- **Analysis Interval** : 解析間隔をハーフ・スロット単位で設定します。設定範囲は、Acquisition Length の設定により変わります。
- **Analysis Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点をハーフ・スロット単位で設定します。
- **Spectrum Length** : サブ・ビューに表示するスペクトラムの FFT 処理範囲を示します。この値は、1 フレームの取り込み時間と同等です。
- **Spectrum Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点を設定します。

注 : 時間パラメータの詳しい説明については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Analyze** : 解析範囲のタイム・スロットについて、解析を実行します。
- **Channel Type...** : 測定するチャンネルのタイプを選択します。選択項目は、MAC、Data (データ)、または Preamble (プリアンブル) です。
- **PN Offset** : PN オフセットを 64 チップ単位で設定します。設定範囲は、0 ~ 511 です。
- **Select HalfSlot** : 測定するハーフ・スロットを設定します。
- **Scroll Table** : スクリーンに表示されている表をスクロールします。
- **Active Channel Threshold** : コード・チャンネルがアクティブになるかインアクティブになるかどうかを決めるスレッショルド・レベルを設定します。設定範囲は、-100 dB ~ 0 dB です。
- **Measurement Filter...** : 測定結果を算出するときに使用するフィルタを選択します。選択項目は、None (なし)、cdma2000 (コンプリメンタリ・フィルタ)、cdma2000+EQ (コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザ) です。

- **IQ Swap** : 復調処理を行う前に I データおよび Q データのスワッピングを行うかどうかを設定します。
- **Limits...** : パイロット／コード・チャンネル測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

ビュー内容の変更

オーバービューおよびサブ・ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューを表示するには、VIEW: DEFINE キーを押します。

- **Overview Content...** : オーバービューに表示するビューを選択します。選択項目は、Spectrogram (スペクトログラム) または Waveform (電力 vs. 時間) です。
- **Subview Content...** : サブ・ビューに表示するビューを選択します。
 - **Spectrum** : 測定信号のスペクトラムを表示します。
 - **EVM** : エラー・ベクトル振幅の変化を表示します。
 - **MagErr** : 振幅誤差の変化を表示します。
 - **PhaseErr** : 位相誤差の変化を表示します。
 - **Constellation** : 信号を I-Q コンスタレーションとして表示します。

1xEV-DO リバース・リンク測定

このセクションでは、1xEV-DO リバース・リンク測定について測定項目ごとに説明します。各測定項目では、測定の概要、各ビューの表示、およびメニューから設定できる機能について説明しています。

このセクションは、次の項目により構成されています。

- 変調確度 (Modulation Accuracy) 測定
- コード・ドメイン・パワー (Code Domain Power) 測定
- スペクトラム・エミッション・マスク (Spectrum Emission Mask) 測定
- パイロット／コード・チャンネル (Pilot to Code Channel) 測定

1xEV-DO リバース・リンク測定に含まれる次の測定項目は 1xEV-DO フォワード・リンク測定と共に通です。これらの測定項目の説明については、2-3 ページから始まる「1xEV-DO フォワード・リンク測定」を参照してください。

- チャンネル電力 (Channel Power) 測定
- OBW 測定
- ACPR 測定
- 相互変調 (Intermodulation) 測定
- CCDF 測定

注：WCA230A 型/WCA280A 型 の詳しい操作方法については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

変調確度 (Modulation Accuracy) 測定

変調確度測定は、 ρ (ロー)、EVM(エラー・ベクトル振幅)、振幅誤差、位相誤差、周波数誤差、および原点オフセットを測定します。図 2-21 に、変調確度測定の例を示します。

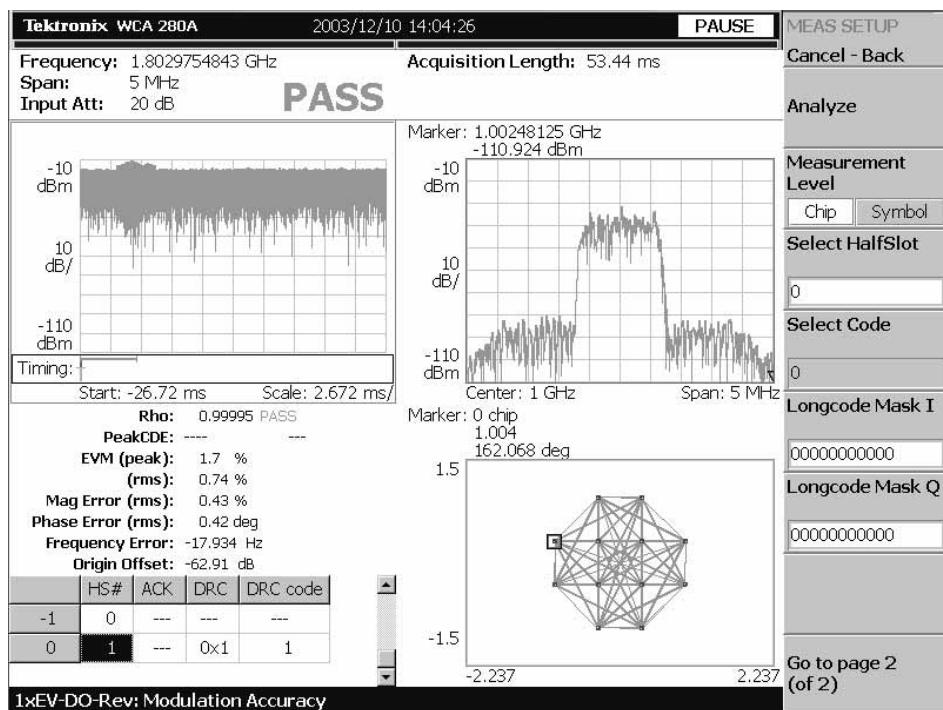


図 2-21：変調確度測定 – リバース・リンク

表示内容

変調確度測定では、各ビューに次の情報が表示されます。

- **オーバービュー**：このビューには、振幅 vs. 時間またはスペクトログラムを表示することができます。
- **サブ・ビュー**：このビューには、スペクトラム、EVM、振幅誤差、位相誤差、IQ パワー・グラフ、またはコンスタレーションを表示することができます。
- **メイン・ビュー**：このビューには、変調確度、EVM、振幅誤差、位相誤差、またはシンボル・テーブルを表示することができます。

各ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューについては、2-42 ページの「ビュー内容の変更」を参照してください。

時間パラメータの設定

TIMING メニューを使用すると、次に示す時間パラメータを設定することができます。TIMING メニューを表示するには、**TIMING** キーを押します。

- **Acquisition Length (chips)** : 1 ブロックの取り込み時間をチップ単位で設定します。設定範囲は、機器のアクイジョン・メモリ容量とスパン設定により変わります。
- **Acquisition Length (s)** : 取り込み時間を時間単位で表示します。
- **Acquisition History** : データ解析および表示を行うブロック番号を指定します。最新のブロック番号は、0 です。古いブロックほど、大きい負の番号が付けられます。
- **Analysis Interval** : 解析間隔をハーフ・スロット単位で設定します。設定範囲は、Acquisition Length の設定により変わります。
- **Analysis Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点をハーフ・スロット単位で設定します。
- **Spectrum Length** : サブ・ビューに表示するスペクトラムの FFT 処理範囲を示します。この値は、1 フレームの取り込み時間と同等です。
- **Spectrum Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点を設定します。

注 : 時間パラメータの詳しい説明については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Analyze** : 解析範囲のタイム・スロットについて、解析を実行します。
- **Measurement Level** : 測定レベルを選択します。選択項目は、Chip (チップ・レベル) または Symbol (シンボル・レベル) です。
- **Select HalfSlot** : 測定するハーフ・スロットを設定します。
- **Select Code** : 測定する、ハーフ・スロット内のコードを設定します。この項目は、Measurement Level が Symbol に設定されているときにのみ有効です。
- **Longcode Mask I** : I 信号のロング・コード・マスク値を設定します。設定範囲は、0 ~ 3FFFFFFFFF (16 進) です。
- **Longcode Mask Q** : Q 信号のロング・コード・マスク値を設定します。設定範囲は、0 ~ 3FFFFFFFFF (16 進) です。
- **Active Channel Threshold** : コード・チャンネルがアクティブになるかインアクティブになるかどうかを決めるスレッショルド・レベルを設定します。設定範囲は、-100 ~ 0 dB です。

- **Measurement Filter...** : EVM や他の測定結果を算出するときに使用するフィルタを選択します。選択項目は、None (なし)、cdma2000 (コンプリメンタリ・フィルタ)、cdma2000+EQ (コンプリメンタリ・フィルタ+EQ) です。
- **IQ Swap** : 復調処理を行う前に I データおよび Q データのスワッピングを行うかどうかを設定します。
- **Limits...** : 変調確度測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

ビュー内容の変更

オーバービュー、サブ・ビュー、およびメイン・ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューを表示するには、VIEW: DEFINE キーを押します。

- **Show Views** : スクリーンに表示するビューのスタイルを選択します。選択項目は、Single (選択したビューのみを表示) または Multi (複数のビューを表示) です。
- **Overview Content...** : オーバービューに表示するビューを選択します。選択項目は、Spectrogram (スペクトログラム) または Waveform (電力 vs. 時間) です。
- **Subview Content...** : サブ・ビューに表示するビューを選択します。
 - **Spectrum** : 測定信号のスペクトラムを表示します。
 - **EVM** : エラー・ベクトル振幅の変化を表示します。
 - **MagErr** : 振幅誤差の変化を表示します。
 - **PhaseErr** : 位相誤差の変化を表示します。
 - **IQ Power Graph** : I 信号および Q 信号の電力の時間的変化を表示します。
2-18 ページの「IQ パワー・グラフ表示」を参照してください。
 - **Constellation** : 信号を I-Q コンスタレーションとして表示します。
- **Mainview Content...** : メイン・ビューに表示するビューを選択します。選択項目は、Modulation Accuracy、EVM、MagErr、PhaseErr、または Symbol です。各ビューの詳しい説明については、2-43 ページの「メイン・ビューのスケールとフォーマット」を参照してください。
- **Menu Off** : サイド・メニューを隠します。サイド・メニューを再び表示するには、MENU サイド・キーまたは VIEW: DEFINE キーを押します。

メイン・ビューのスケールとフォーマット

このサブセクションでは、メイン・ビューのスケール設定と表示フォーマットについて説明します。

変調確度表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で Modulation Accuracy を選択すると、IQ 直交座標グラフおよび測定結果が表示されます (図 2-22 参照)。

測定結果

- 波形品質 (ρ : rho)
- ピーク・コード・ドメイン・エラー
- EVM (エラー・ベクトル振幅)
(ピーク / rms)
- 振幅誤差 (rms)
- 位相誤差 (rms)
- 周波数誤差
- 原点オフセット

Rho: 0.99995 PASS
PeakCDE: ----
EVM (peak): 1.7 %
(rms): 0.74 %
Mag Error (rms): 0.43 %
Phase Error (rms): 0.42 deg
Frequency Error: -17.934 Hz
Origin Offset: -62.91 dB

Marker: 0 chip
1.004
162.068 deg

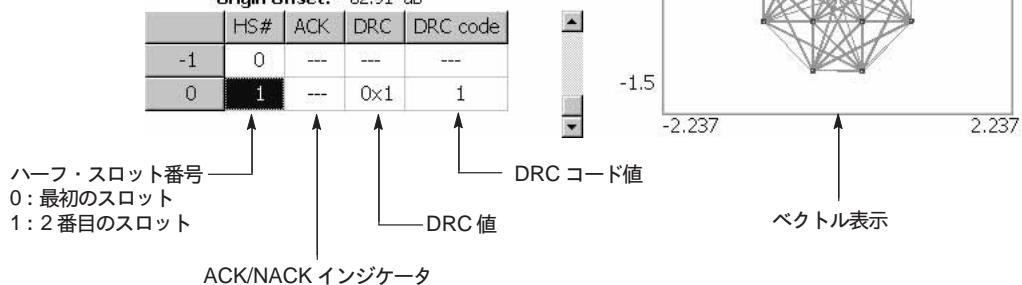


図 2-22：変調確度表示 – リバース・リンク

測定結果のうち、ピーク・コード・ドメイン・エラーは測定レベルとしてシンボルが選択されているときにのみ表示されます。

VIEW SCALE メニューを使用すると、ビューの表示内容を変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Measurement Content...** : ベクトル表示またはコンスタレーション表示を選択します。
 - **Vector** : ベクトル表示を選択します。位相と振幅で表される信号を直交 (I-Q) 座標で表示します。赤色の点は、測定信号のシンボル・ポジションを表し、黄色のトレースは、シンボル間の信号の軌跡を表します。
 - **Constellation** : コンスタレーション表示を選択します。基本的にベクトル表示と同じですが、測定信号のシンボルだけを赤色で表示し、シンボル間の軌跡は表示しません。

注 : I 信号および Q 信号は、信号の振幅が変化したときにスケールが変化しないように正規化されています。

EVM 表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で EVM を選択すると、各チップまたはシンボルに対する EVM の時間的変化が表示されます (図 2-23 参照)。

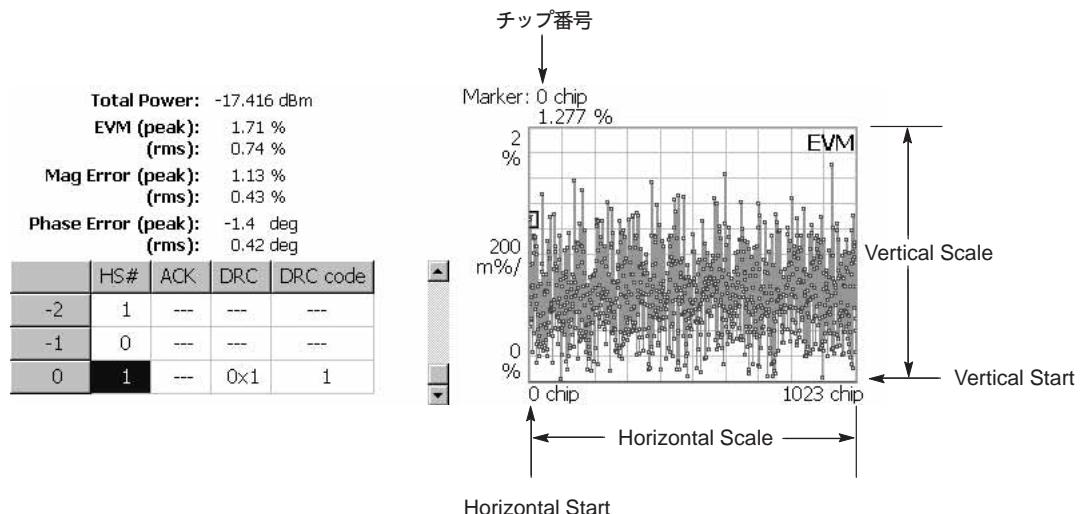


図 2-23 : EVM 表示 – リバース・リンク

VIEW SCALE メニューを使用すると、EVM 表示のスケールを変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Auto Scale** : オート・スケールを実行します。オート・スケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動設定されます。
- **Horizontal Scale** : 水平軸スケール (チップ数またはシンボル数) を設定します。
- **Horizontal Start** : 水平軸の開始値を設定します。
- **Vertical Scale** : 垂直軸スケールを設定します。
- **Vertical Start** : 垂直軸の開始値を設定します。
- **Full Scale** : 垂直軸スケールをデフォルトのフルスケール値に設定します。
- **Measurement Control...** : メイン・ビューに表示する内容を選択します。選択項目は、EVM、MagErr、または PhaseErr です。この設定は、VIEW DEFINE メニューの Mainview Content 項目でも行うことができます。

振幅誤差表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で MagErr を選択すると、各チップまたはシンボルに対する振幅誤差の時間的変化が表示されます (図 2-24 参照)。

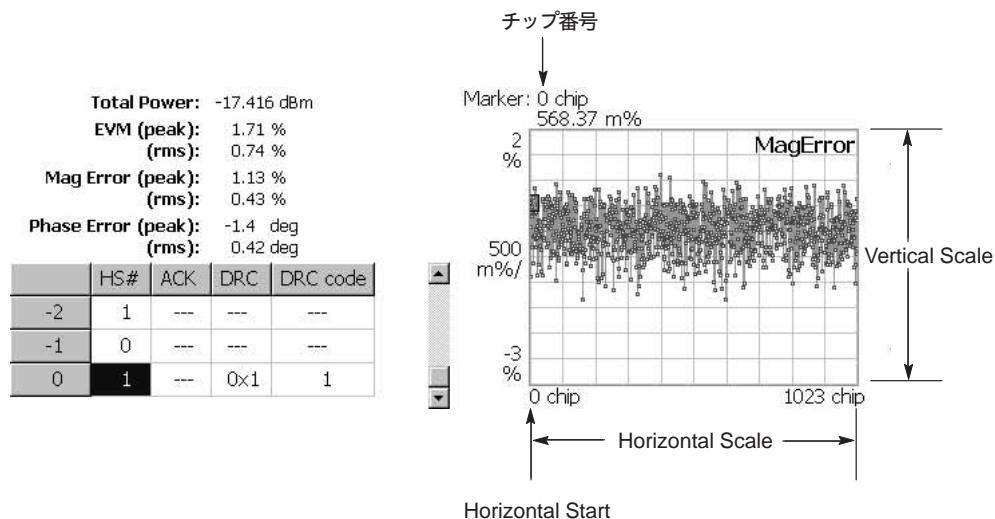


図 2-24 : 振幅誤差表示 – リバース・リンク

VIEW SCALE メニューを使用すると、振幅誤差表示のスケールを変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Auto Scale** : オート・スケールを実行します。オート・スケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動設定されます。
- **Horizontal Scale** : 水平軸スケール (チップ数またはシンボル数) を設定します。
- **Horizontal Start** : 水平軸の開始値を設定します。
- **Vertical Scale** : 垂直軸スケールを設定します。
- **Vertical Offset** : 垂直軸のオフセット値を設定します。設定範囲は、-200 ~ 200% です。
- **Full Scale** : 垂直軸スケールをデフォルトのフルスケール値に設定します。
- **Measurement Control...** : メイン・ビューに表示する内容を選択します。選択項目は、EVM、MagErr、またはPhaseErrです。この設定は、VIEW DEFINE メニューの Mainview Content 項目でも行うことができます。

位相誤差表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で PhaseErr を選択すると、各チップまたはシンボルに対する位相誤差の時間的变化が表示されます(図 2-25 参照)。

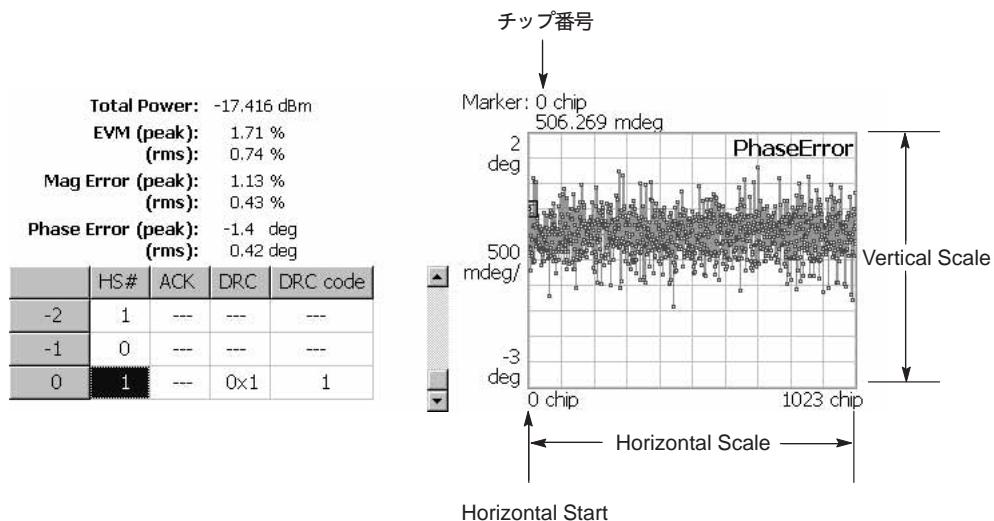


図 2-25：位相誤差表示 – リバース・リンク

VIEW SCALE メニューを使用すると、位相誤差表示のスケールを変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Auto Scale** : オート・スケールを実行します。オート・スケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動設定されます。
- **Horizontal Scale** : 水平軸スケール(チップ数またはシンボル数)を設定します。
- **Horizontal Start** : 水平軸の開始値を設定します。
- **Vertical Scale** : 垂直軸スケールを設定します。
- **Vertical Offset** : 垂直軸のオフセット値を設定します。設定範囲は、 $-450 \sim 450^\circ$ です。
- **Full Scale** : 垂直軸スケールをデフォルトのフルスケール値に設定します。
- **Measurement Control...** : メイン・ビューに表示する内容を選択します。選択項目は、EVM、MagErr、またはPhaseErr です。この設定は、VIEW DEFINE メニューの Mainview Content 項目でも行うことができます。

シンボル・テーブル表示

VIEW DEFINE メニューの Mainview Content で Symbol Table を選択すると、シンボル・テーブルが表示されます(図 2-26 参照)。この表示は、Measurement Level メニュー項目が Symbol に設定されているときのみ有効です。

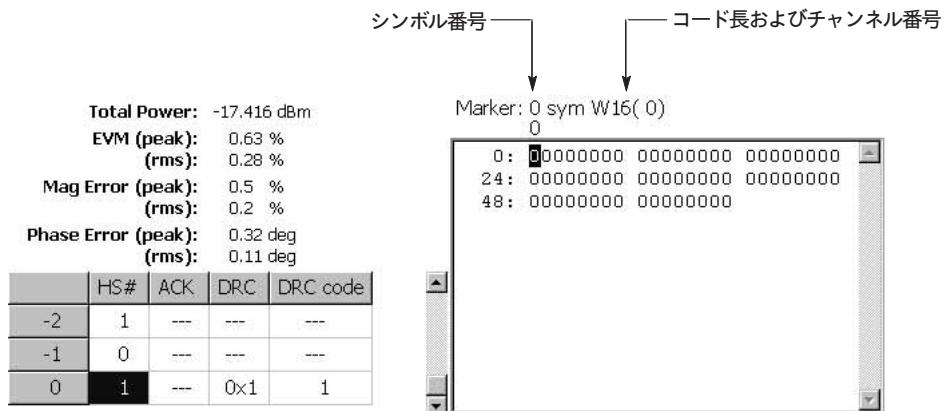


図 2-26 : シンボル・テーブル表示 – リバース・リンク

VIEW SCALE メニューを使用すると、シンボル・テーブル表示の基数を変更することができます。VIEW SCALE メニューを表示するには、VIEW: SCALE キーを押します。

- **Radix...** : シンボル・テーブルの表示基数を設定します。選択項目は、Hex (16 進)、Oct (8 進)、または Bin (2 進) です。

コード・ドメイン・パワー (Code Domain Power) 測定

コード・ドメイン・パワー測定は、総信号電力に対して正規化された、一連のコード・チャンネル信号電力の分布を測定します。この測定を使用すると、各コード・チャンネルが適正なレベルで動作しているかどうかを確認することができます。図 2-27 に、コード・ドメイン・パワー測定の例を示します。

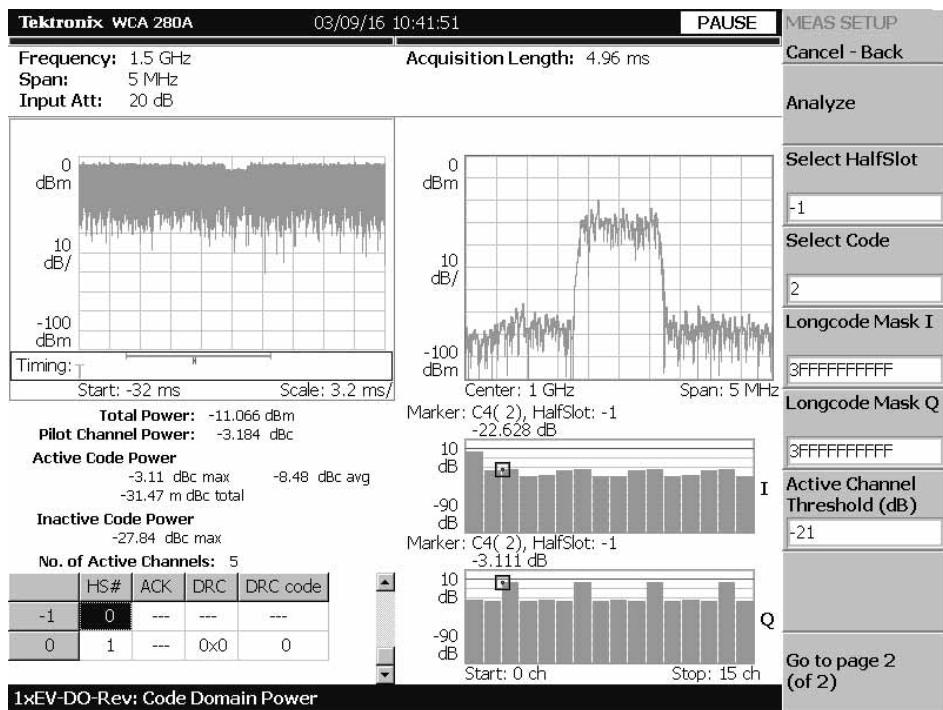


図 2-27：コード・ドメイン・パワー測定 – リバース・リンク

表示内容

コード・ドメイン・パワー測定では、各ビューに次の情報が表示されます。

- オーバービュー：**このビューには、振幅 vs. 時間またはスペクトログラムを表示することができます。
- サブ・ビュー：**このビューには、スペクトラム、EVM、振幅誤差、位相誤差、IQ パワー・グラフ、またはコンスタレーションを表示することができます。
- メイン・ビュー：**このビューには、コード・ドメイン・パワー、パワー・コードグラム、または IQ パワー・グラフを表示することができます。

各ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューについては、2-50 ページの「ビュー内容の変更」を参照してください。

時間パラメータの設定

TIMING メニューを使用すると、次に示す時間パラメータを設定することができます。TIMING メニューを表示するには、**TIMING** キーを押します。

- **Acquisition Length (chips)** : 1 ブロックの取り込み時間をチップ単位で設定します。設定範囲は、機器のアクイジョン・メモリ容量とスパン設定により変わります。
- **Acquisition Length (s)** : 取り込み時間を時間単位で表示します。
- **Acquisition History** : データ解析・表示を行うブロック番号を指定します。最新のブロック番号は、0 です。古いブロックほど、大きい負の番号が付けられます。
- **Analysis Interval** : 解析間隔をハーフ・スロット単位で設定します。設定範囲は、Acquisition Length の設定により変わります。
- **Analysis Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点をハーフ・スロット単位で設定します。
- **Spectrum Length** : サブ・ビューに表示するスペクトラムの FFT 処理範囲を示します。この値は、1 フレームの取り込み時間と同等です。
- **Spectrum Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点を設定します。

注 : 時間パラメータの詳しい説明については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Analyze** : 解析範囲のタイム・スロットについて、解析を実行します。
- **Measurement Level** : 測定レベルを選択します。Chip (チップ・レベル) または Symbol (シンボル・レベル) を選択することができます。この項目は、VIEW DEFINE メニューの Mainview Content が IQ Power Graph に設定されているときにのみ有効です。
- **Select HalfSlot** : 測定するハーフ・スロットを設定します。
- **Select Code** : 測定する、ハーフ・スロット内のコードを設定します。この設定は、Measurement Level メニューで Symbol が選択されている場合にのみ有効です。
- **Longcode Mask I** : I 信号のロング・コード・マスク値を設定します。設定範囲は、0x0 ~ 0x3FFFFFFFFF です。
- **Longcode Mask Q** : Q 信号のロング・コード・マスク値を設定します。設定範囲は、0x0 ~ 0x3FFFFFFFFF です。
- **Active Channel Threshold** : コード・チャンネルがアクティブになるかインアクティブになるかどうかを決めるスレッショルド・レベルを設定します。設定範囲は、-100 ~ 0 dB です。

- **Measurement Filter...** : 測定結果を算出するときに使用するフィルタを選択します。選択項目は、None (なし)、cdma2000 (コンプリメンタリ・フィルタ)、cdma2000+EQ (コンプリメンタリ・フィルタ+EQ) です。
- **IQ Swap** : 復調処理を行う前に I データおよび Q データのスワッピングを行うかどうかを設定します。
- **Limits...** : コード・ドメイン・パワー測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

ビュー内容の変更

オーバービュー、サブ・ビュー、およびメイン・ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューを表示するには、VIEW: DEFINE キーを押します。

- **Show Views** : スクリーンに表示するビューのスタイルを選択します。選択項目は、Single (選択したビューのみを表示) または Multi (複数のビューを表示) です。
- **Overview Content...** : オーバービューに表示するビューを選択します。選択項目は、Spectrogram (スペクトログラム) または Waveform (電力 vs. 時間) です。
- **Subview Content...** : サブ・ビューに表示するビューを選択します。
 - **Spectrum** : 測定信号のスペクトラムを表示します。
 - **EVM** : エラー・ベクトル振幅の変化を表示します。
 - **MagErr** : 振幅誤差の変化を表示します。
 - **PhaseErr** : 位相誤差の変化を表示します。
 - **IQ Power Graph** : I 信号および Q 信号の電力の時間的変化を表示します。
2-18 ページの「IQ パワー・グラフ表示」を参照してください。
 - **Constellation** : 信号を I-Q コンスタレーションとして表示します。
- **Mainview Content...** : メイン・ビューに表示するビューを選択します。選択項目は、Code Domain Power、Power Codogram、または IQ Power Graph です。各ビューの詳しい説明については、2-15 ページの「メイン・ビューのスケールとフォーマット」を参照してください。
- **Code Order...** : コード・チャンネルの配列方法を設定します。選択項目は、Hadamard または BitReverse (ビット・リバース) です。ビット・リバースでは、2 進のコード番号が Hadamard に対して逆になります。
- **Menu Off** : サイド・メニューを隠します。サイド・メニューを再び表示するには、MENU サイド・キーまたは VIEW: DEFINE キーを押します。

スペクトラム・エミッション・マスク(Spectrum Emission Mask)測定

スペクトラム・エミッション・マスク測定は、ベース・ステーションが、指定されたチャネル外に不要な電力を伝送していないかを確認します。オプション 26 型では、各バンド・クラスに対応した測定リミット・テーブルがあらかじめ用意されているため、パス／フェイル・テストを簡単に実行することができます。図 2-28 に、スペクトラム・エミッション・マスク測定の例を示します。

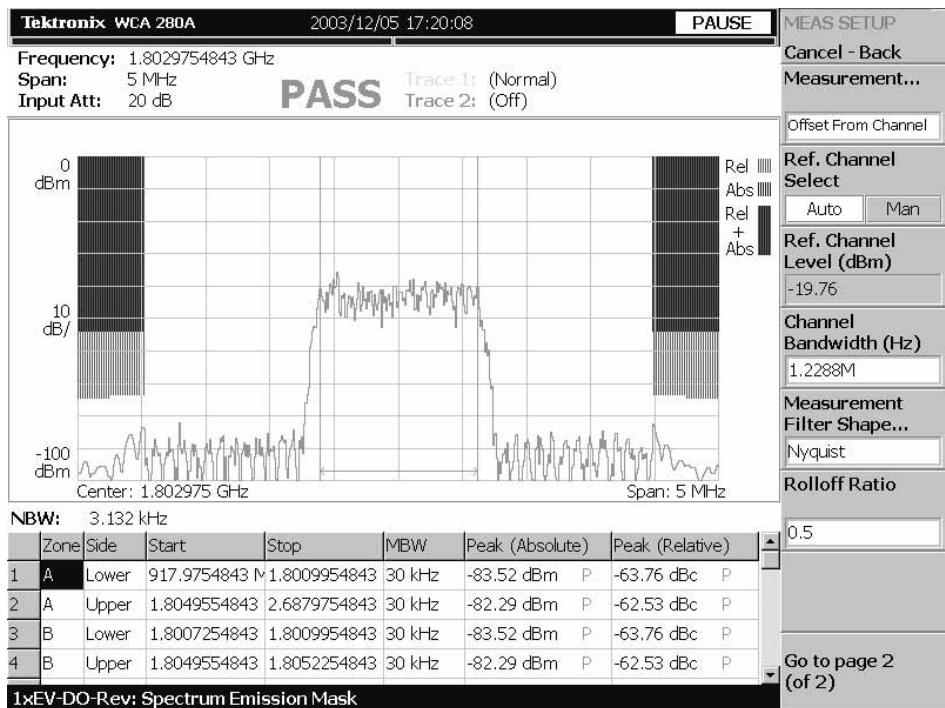


図 2-28：スペクトラム・エミッション・マスク測定 – リバース・リンク

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Measurement...** : リミット・テストに使用するリミット・テーブルを設定します。選択項目は、Offset From Channel または Inband Spurious です。Offset From Channel では、周波数ゾーンが中心周波数からの差により指定されます。また、Inband Spurious では、周波数ゾーンが絶対値により指定されます。
- **Ref.Channel Select** : スペクトラム・エミッション・レベルを測定するためのリファレンス・モードを選択します。選択項目は、Auto または Man (manual) です。Auto では、指定されたチャンネル帯域に対して、リファレンス・チャンネル・レベルが入力信号をもとに設定されます。また、Man では、リファレンス・チャンネル・レベルを Ref. Channel Level メニュー項目で設定します。
- **Ref. Channel Level** : スペクトラム・エミッション・レベルを測定するためのリファレンス・レベルを設定します。設定範囲は、-150 ~ 30 dBm です。この項目は、Ref. Channel Select が Auto に設定されているときにのみ有効です。

- **Channel Bandwidth** : 測定するチャンネルの周波数範囲を設定します。この項目は、Ref. Channel Select が Auto に設定されているときにのみ有効です。
- **Measurement Filter Shape** : 測定に使用するフィルタの形状を選択します。選択項目は、Rect (矩形)、Gaussian (ガウス)、Nyquist (ナイキスト)、または Root Nyquist (ルート・ナイキスト) です。この項目は、Ref. Channel Select が Auto に設定されているときにのみ有効です。
- **Rolloff Ratio** : フィルタとしてナイキストまたはルート・ナイキストを選択したときのロール・オフ値を設定します。設定範囲は、0.0001 ~ 1 です。
- **Limits...** : スペクトラム・エミッション・マスク測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。
- **Scroll Table** : スクリーンに表示されているテーブルをスクロールします。

注: ビューのスケール設定については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

パイロット／コード・チャンネル (Pilot to Code Channel) 測定

パイロット／コード・チャンネル測定は、受信された信号内で検出されたパイロット・チャンネルと他のコード・チャンネル間との時間差を測定します。図 2-29 に、パイロット／コード・チャンネル測定の例を示します。

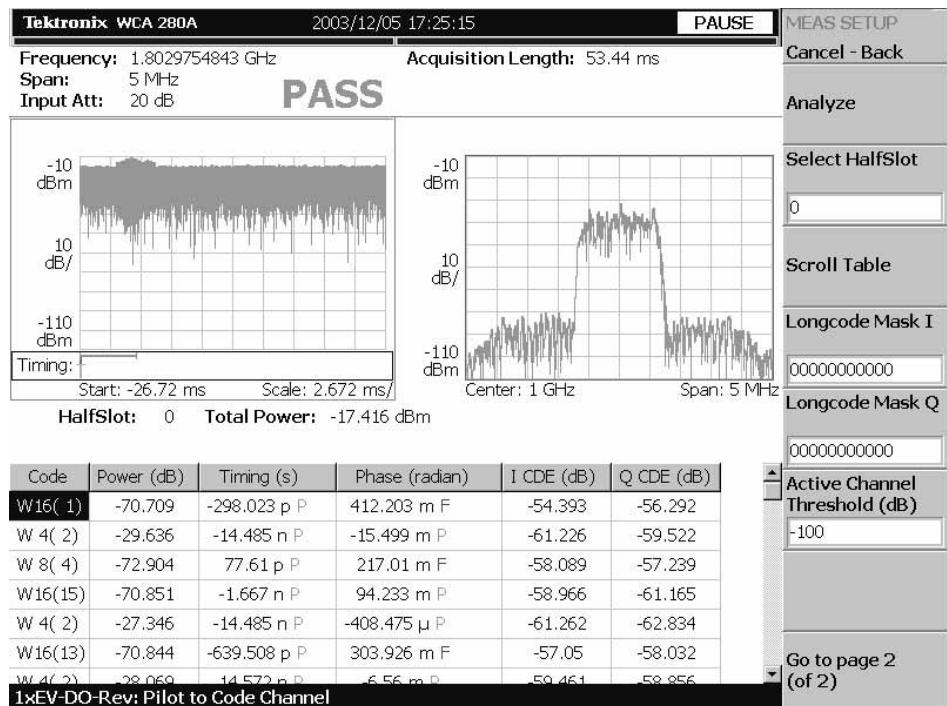


図 2-29：パイロット／コード・チャンネル測定 – リバース・リンク

表示内容

パイロット／コード・チャンネル測定では、各ビューに次の情報が表示されます。

- **オーバービュー**：このビューには、振幅 vs. 時間またはスペクトログラムを表示することができます。
- **サブ・ビュー**：このビューには、スペクトラム、EVM、振幅誤差、位相誤差、またはコンスタレーションを表示することができます。
- **メイン・ビュー**：このビューには、アクティブ・チャンネルに対する次の測定結果が表示されます。
 - 電力レベル
 - パイロット・チャンネルを基準とした時間差
 - パイロット・チャンネルを基準とした位相差
 - コード・ドメイン・エラー

サブ・ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューについては、2-55 ページの「ビュー内容の変更」を参照してください。

時間パラメータの設定

TIMING メニューを使用すると、次に示す時間パラメータを設定することができます。TIMING メニューを表示するには、**TIMING** キーを押します。

- **Acquisition Length (chips)** : 1 ブロックの取り込み時間をチップ単位で設定します。設定範囲は、機器のアクイジション・メモリ容量とスパン設定により変わります。
- **Acquisition Length (s)** : 取り込み時間を時間単位で表示します。
- **Acquisition History** : データ解析および表示を行うブロック番号を指定します。最新のブロック番号は、0 です。古いブロックほど、大きい負の番号が付けられます。
- **Analysis Interval** : 解析間隔をハーフ・スロット単位で設定します。設定範囲は、Acquisition Length の設定により変わります。
- **Analysis Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点をハーフ・スロット単位で設定します。
- **Spectrum Length** : サブ・ビューに表示するスペクトラムの FFT 処理範囲を示します。この値は、1 フレームの取り込み時間と同等です。
- **Spectrum Offset** : 取り込み開始時間を基準として、解析範囲の始点を設定します。

注 : 時間パラメータの詳しい説明については、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

測定パラメータの設定

MEAS SETUP メニューを使用すると、次に示す測定パラメータを設定することができます。MEAS SETUP メニューを表示するには、**MEAS SETUP** キーを押します。

- **Analyze** : 解析範囲のタイム・スロットについて、解析を実行します。
- **Select HalfSlot** : 測定するハーフ・スロットを設定します。
- **Select Code** : 測定する、ハーフ・スロット内のコードを設定します。
- **Longcode Mask I** : I 信号のロング・コード・マスク値を設定します。設定範囲は、0 ~ 3FFFFFFFFF (16 進) です。
- **Longcode Mask Q** : Q 信号のロング・コード・マスク値を設定します。設定範囲は、0 ~ 3FFFFFFFFF (16 進) です。
- **Active Channel Threshold** : コード・チャンネルがアクティブになるかインアクティブになるかどうかを決めるスレッショルド・レベルを設定します。設定範囲は、-100 dB ~ 0 dB です。
- **Measurement Filter...** : 測定結果を算出するときに使用するフィルタを選択します。選択項目は、None (なし)、cdma2000 (コンプリメンタリ・フィルタ)、cdma2000+EQ (コンプリメンタリ・フィルタ+EQ) です。

- **IQ Swap** : 復調処理を行う前に I データおよび Q データのスワッピングを行うかどうかを設定します。
- **Limits...** : パイロット／コード・チャンネル測定のためのパス／フェイル・リミットを設定します。このサイド・キーを押すと、測定リミット・エディタが表示されます。測定リミット・エディタの詳しい説明については、2-57 ページから始まる「測定リミットの編集」を参照してください。

ビュー内容の変更

オーバービューおよびサブ・ビューに表示される内容は、VIEW DEFINE メニューを使用して変更することができます。VIEW DEFINE メニューを表示するには、VIEW: DEFINE キーを押します。

- **Overview Content...** : オーバービューに表示するビューを選択します。選択項目は、Spectrogram (スペクトログラム) または Waveform (電力 vs. 時間) です。
- **Subview Content...** : サブ・ビューに表示するビューを選択します。
 - **Spectrum** : 測定信号のスペクトラムを表示します。
 - **EVM** : エラー・ベクトル振幅の変化を表示します。
 - **MagErr** : 振幅誤差の変化を表示します。
 - **PhaseErr** : 位相誤差の変化を表示します。
 - **Constellation** : 信号を I-Q コンスタレーションとして表示します。

測定リミットの編集

このセクションでは、1xEV-DO フォワード・リンク測定およびリバース・リンク測定のリミット・テストで使用する測定リミットの設定方法について説明します。

測定リミットのデフォルト設定については、2-67 ページの「測定リミットのデフォルト設定」を参照してください。

測定リミット・エディタの使用

各測定で使用する測定リミットは、MEAS SETUP メニューの Limits... メニュー項目を選択して表示される測定リミット・エディタにより編集することができます。

図 2-30 に、1xEV-DO フォワード・リンク測定で使用する測定リミット・エディタを示します。

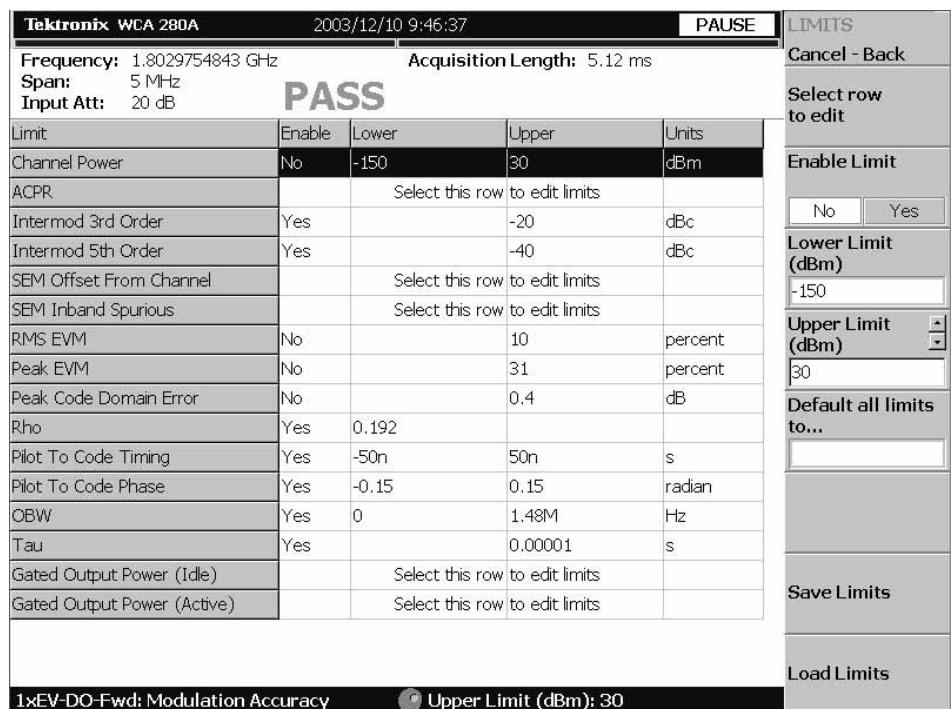


図 2-30 : 測定リミット・エディタ

表 2-1 に、測定リミット・エディタで設定できる測定リミットについて説明します。

表 2-1 : 測定リミット項目

項目名	説明	下限リミット範囲	上限リミット範囲
Channel Power	チャンネル電力測定のための下限／上限リミットを設定します。	-200 ~ 200 dBm	-200 ~ 200 dBm
ACPR	この項目を選択すると、ACPR 測定のための測定リミット・エディタが表示されます。	_____	_____
Intermod 3rd Order	相互変調測定のための 3 次高調波歪みの上限リミットを設定します。	設定不可	-200 ~ 200 dBc
Intermod 5th Order	相互変調測定のための 5 次高調波歪みの上限リミットを設定します。	設定不可	-200 ~ 200 dBc
SEM Offset From Channel	この項目を選択すると、スペクトラム・エミッション・マスクの周波数オフセット測定のための測定リミット・エディタが表示されます。	_____	_____
SEM Inband Spurious	この項目を選択すると、スペクトラム・エミッション・マスクのインバンド・スブリアス測定のための測定リミット・エディタが表示されます。	_____	_____
RMS EVM	RMS EVM 測定のための上限リミットを設定します。	設定不可	0 ~ 100%
Peak EVM	ピーク EVM 測定のための上限リミットを設定します。	設定不可	0 ~ 100%
Peak Code Domain Error	ピーク・コード・ドメイン・エラー測定のための上限リミットを設定します。	設定不可	-200 ~ 200 dB
Rho	変調確度測定のためのロー (ρ) の下限リミットを設定します。	0 ~ 1	設定不可
Pilot To Code Timing	パイロット／コード・チャンネルのタイミング測定のための下限／上限リミットを設定します。	-1 ~ 1 s	-1 ~ 1 s
Pilot To Code Phase	パイロット／コード・チャンネルの位相測定のための下限／上限リミットを設定します。	-100 ~ 100°	-100 ~ 100°
OBW	OBW 測定のための下限／上限リミットを設定します。	0 ~ 30 MHz	0 ~ 30 MHz
Tau	変調確度測定のためのタウ (τ) の上限リミットを設定します。	0 ~ 1 s	設定不可
Gated Output Power (Idle)*	この項目を選択すると、ゲーテッド・アウトプットパワー測定(アイドル・スロット)のための測定リミット・エディタが表示されます。	_____	_____
Gated Output Power (Active)*	この項目を選択すると、ゲーテッド・アウトプットパワー測定(アクティブ・スロット)のための測定リミット・エディタが表示されます。	_____	_____

* これらの項目は、1xEV-DO フォワード・リンク測定でのみ有効です。

測定リミットの編集

次に、測定リミットの編集方法について説明します。

1. **MEAS SETUP** キーを押して、MEAS SETUP メニューを表示します。
2. **Limits...** サイド・キーを押して、測定リミット・エディタと LIMITS メニューを表示します。
3. **Select row to edit** サイド・キーを押します。
4. ロータリ・ノブまたは矢印キーを使用して、編集したい測定項目を選択します。
5. **Enable Limit** サイド・キーを押して、選択した測定項目に対するパス／フェイル・テストの有効 (Yes) または無効 (No) を設定します。
6. **Lower Limit** サイド・キーまたは **Upper Limit** サイド・キーを押して、選択した測定項目に対する下限リミットまたは上限リミットを設定します。

ACPR 測定、スペクトラム・エミッション・マスク測定、またはゲーテッド・アウトプット・パワー測定のための測定リミットを設定したい場合は、次の手順により、別の測定リミット・エディタを表示します。

1. **Select row to edit** キーを押します。
2. ロータリ・ノブまたは矢印キーを使用して、**ACPR**、**SEM Offset From Channel**、**SEM Inband Spurious**、**Gated Output Power (Idle)**、または **Gated Output Power (Active)** を選択します。
3. **Edit ACPR Limits...**、**Edit SEM Offset Limits...**、**Edit SEM Inband Limits...**、**Edit Gated Output Power (Idle) Limits...**、または **Edit Gated Output Power (Active) Limits...** サイド・キーを押します。これにより、ACPR 測定、スペクトラム・エミッション・マスク測定、またはゲーテッド・アウトプット・パワー測定のためのより複雑なリミット・エディタが表示されます。図 2-31 に、ACPR 測定のための測定リミット・エディタを示します。

ACPR リミットの設定

測定リミット・エディタで ACPR 行を選択すると、ACPR 測定のリミットを設定するための測定リミット・エディタが表示されます。図 2-31 に、ACPR 測定のための測定リミット・エディタを示します。

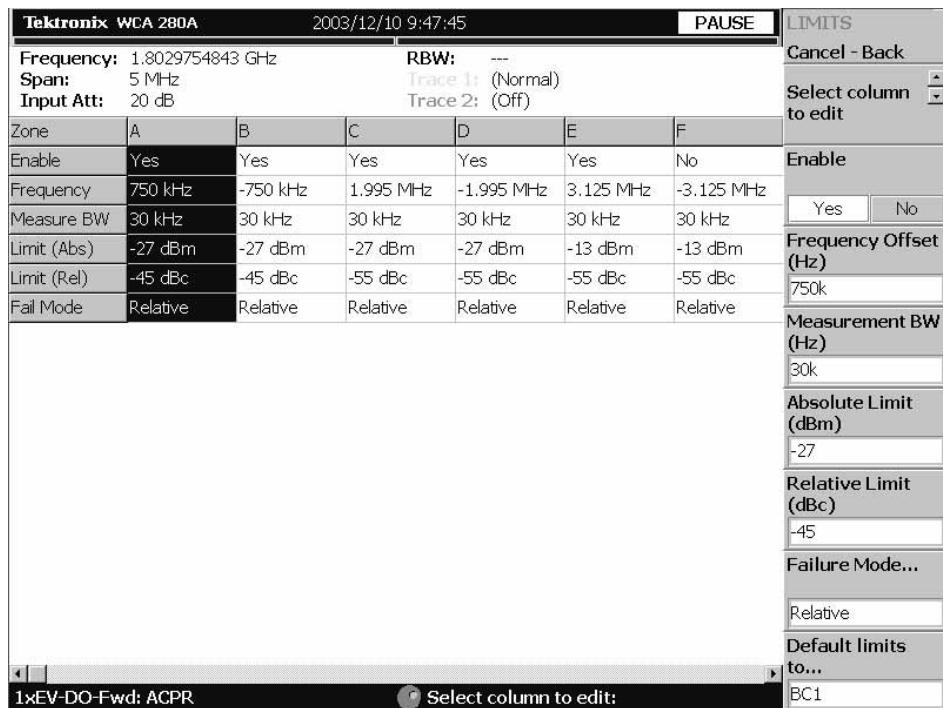


図 2-31 : ACPR 測定のためのリミット・エディタ

表 2-2 に、ACPR 測定のリミット・エディタで設定できる測定リミット項目について説明します。

表 2-2 : ACPR 測定のための測定リミット項目

項目名	説明	リミット範囲
Enable	指定されたゾーン (A ~ L) のリミット設定の有効または無効を設定します。	_____
Frequency	各ゾーンの周波数オフセットを設定します。	-3 ~ 3 GHz (WCA230A 型) -8 ~ 8 GHz (WCA230A 型)
Measurement BW	各ゾーンの測定周波数帯域を設定します。	-3 ~ 3 GHz (WCA230A 型) -8 ~ 8 GHz (WCA230A 型)
Limit (Abs)	各ゾーンの絶対レベルのリミットを設定します。	-200 ~ 200 dBm
Limit (Rel)	各ゾーンの相対レベルのリミットを設定します。	-200 ~ 200 dBc
Fail Mode	測定結果とテスト・リミット間でのフェイル状態を検出するためのモードを選択します。次の選択項目があります。 Absolute : 絶対測定の結果が Limit (Abs) のリミットを超えたときにフェイルが検出されます。 Relative : 相対測定の結果が Limit (Rel) のリミットを超えたときにフェイルが検出されます。	_____

次に、ACPR 測定での測定リミットを設定する方法を示します。

1. **Select column to edit** サイド・キーを押します。
2. ロータリ・ノブまたは矢印キーを使用して、リミットを編集したい列 (A ~ L) を選択します。
3. **Enable** サイド・キーを押し、選択したゾーンのリミット設定の有効または無効を設定します。
4. 設定したいリミット項目に対応したサイド・キーを押し、ロータリ・ノブまたは矢印キーを使用して、値を設定します。
5. あらかじめ設定されている測定リミットを使用したい場合は、**Default limits to...** サイド・キーを押します。バンド・クラス (BC) 名に対応したメニュー項目が表示されます。

各バンド・クラスのデフォルト設定については、2-67 ページの「測定リミットのデフォルト設定」を参照してください。

スペクトラム・エミッション・マスク・リミットの設定

測定リミット・エディタで SEM Offset From Channel 行または SEM Inband Spurious 行を選択すると、スペクトラム・エミッション・マスク測定のリミットを設定するための測定リミット・エディタが表示されます。図 2-32 に、スペクトラム・エミッション・マスク測定のための測定リミット・エディタを示します。

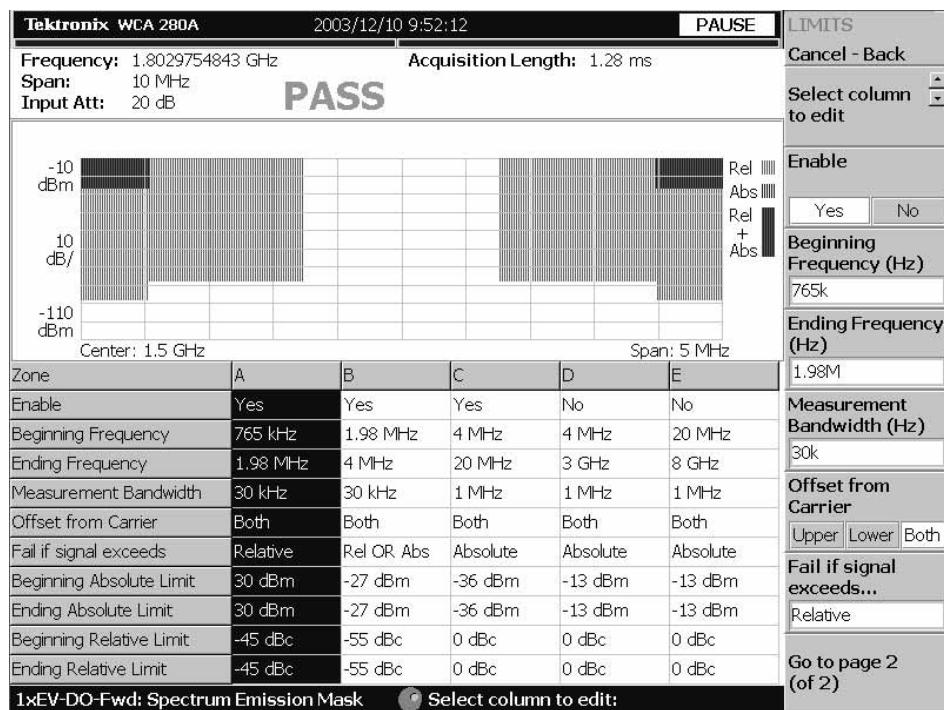


図 2-32：スペクトラム・エミッション・マスク測定のためのリミット・エディタ

表 2-3 に、スペクトラム・エミッション・マスク測定のリミット・エディタで設定できる測定リミット項目について説明します。

表 2-3：スペクトラム・エミッション・マスク測定のための測定リミット項目

項目名	説明	リミット範囲
Enable	指定されたゾーン (A、B、C、D、または E) のマスクの有効または無効を設定します。	_____
Beginning Frequency	各ゾーンの開始周波数を設定します。	-3 ~ 3 GHz (WCA230A 型) -8 ~ 8 GHz (WCA230A 型)
Ending Frequency	各ゾーンの終了周波数を設定します。	-3 ~ 3 GHz (WCA230A 型) -8 ~ 8 GHz (WCA230A 型)
Measurement Bandwidth	測定周波数帯域を設定します。	-3 ~ 3 GHz (WCA230A 型) -8 ~ 8 GHz (WCA230A 型)
Offset from Carrier *	各ゾーンにおいて、有効にする領域を指定します。選択項目は、Upper (右側)、Lower (左側)、または Both (両側) です。	_____

表 2-3：スペクトラム・エミッション・マスク測定のための測定リミット項目（続き）

項目名	説明	リミット範囲
Fail if signal exceeds	<p>測定結果とテスト・リミット間でのフェイル状態を検出するためのモードを選択します。次の選択項目があります。</p> <p>Absolute：絶対測定の結果のいずれかが Beginning Absolute Limit および／または Ending Absolute Limit のリミットを超えたときにフェイルが検出されます。</p> <p>Relative：相対測定の結果のいずれかが Beginning Relative Limit および／または Ending Relative Limit のリミットを超えたときにフェイルが検出されます。</p> <p>Rel OR Abs：絶対測定の結果のいずれかが Beginning Absolute Limit および Ending Absolute Limit のリミットを超えたとき、または相対測定の結果のいずれかが Beginning Relative Limit および Ending Relative Limit のリミットを超えたときにフェイルが検出されます。</p> <p>Rel AND Abs：絶対測定の結果のいずれかが Beginning Absolute Limit および Ending Absolute Limit のリミットを超えたとき、および相対測定の結果のいずれかが Beginning Relative Limit および Ending Relative Limit のリミットを超えたときにフェイルが検出されます。</p>	—————
Beginning Absolute Limit	開始周波数における絶対レベルのリミットを設定します。	-200 ~ 200 dBm
Ending Absolute Limit	終了周波数における絶対レベルのリミットを設定します。	-200 ~ 200 dBm
Beginning Relative Limit	開始周波数における相対レベルのリミットを設定します。	-200 ~ 200 dBc
Ending Relative Limit	終了周波数における相対レベルのリミットを設定します。	-200 ~ 200 dBc

* この項目は、SEM Offset From Channel を選択した場合にのみ有効です。

次に、スペクトラム・エミッション・マスク測定での測定リミットを設定する方法を示します。

1. Select column to edit サイド・キーを押します。
2. ロータリ・ノブまたは矢印キーを使用して、リミットを編集したい列 (A ~ L) を選択します。
3. Enable サイド・キーを押し、選択したゾーンのリミット設定の有効または無効を設定します。
4. 設定したいリミット項目に対応したサイド・キーを押し、ロータリ・ノブまたは矢印キーを使用して、値を設定します。
5. あらかじめ設定されている測定リミットを使用したい場合は、Default limits to... サイド・キーを押します。バンド・クラス (BC) 名に対応したメニュー項目が表示されます。各バンド・クラスのデフォルト設定については、2-67 ページの「測定リミットのデフォルト設定」を参照してください。
6. Rescale Graph サイド・キーを押すと、設定された測定リミットに対応してグラフが再設定されます。

ゲーテッド・アウトプット・パワー・リミットの設定

測定リミット・エディタで Gated Output Power (Idle) 行または Gated Output Power (Active) 行を選択すると、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のリミットを設定するための測定リミット・エディタが表示されます。図 2-33 に、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のための測定リミット・エディタを示します。

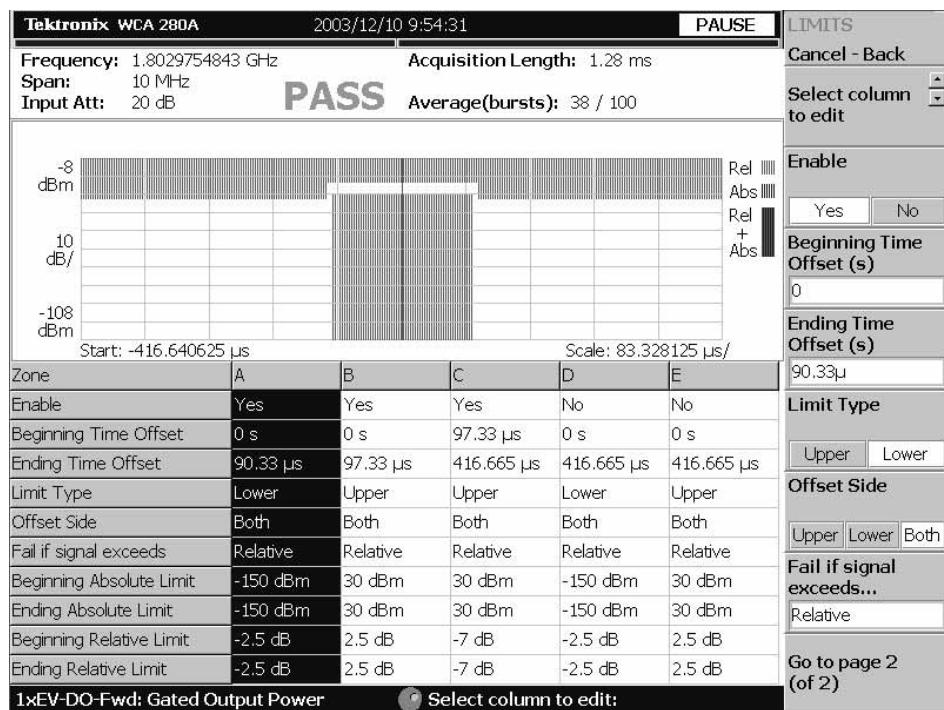


図 2-33：ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のためのリミット・エディタ

表 2-4 に、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のリミット・エディタで設定できる測定リミット項目について説明します。

表 2-4：ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のための測定リミット項目

項目名	説明	リミット範囲
Enable	指定されたゾーン (A、B、C、D、または E) のマスクの有効または無効を設定します。	_____
Beginning Time Offset	各ゾーンの開始時間を設定します。	-10 ~ 10 s
Ending Time Offset	各ゾーンの終了時間を設定します。	-10 ~ 10 s
Limit Type	各ゾーンにおいて、使用するリミットの種類を選択します。Upper では、設定値が上限リミットになります。また、Lower では、設定値が下限リミットになります。	_____
Offset Side	各ゾーンにおいて、有効にする領域を指定します。選択項目は、Upper (右側)、Lower (左側)、または Both (両側) です。	_____

表 2-4：ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のための測定リミット項目(続き)

項目名	説明	リミット範囲
Fail if signal exceeds	測定結果とテスト・リミット間でのフェイル状態を検出するためのモードを選択します。次の選択項目があります。 Absolute ：絶対測定の結果のいずれかが Beginning Absolute Limit および／または Ending Absolute Limit のリミットを超えたときにフェイルが検出されます。 Relative ：相対測定の結果のいずれかが Beginning Relative Limit および／または Ending Relative Limit のリミットを超えたときにフェイルが検出されます。 Rel OR Abs ：絶対測定の結果のいずれかが Beginning Absolute Limit および Ending Absolute Limit のリミットを超えたとき、または相対測定の結果のいずれかが Beginning Relative Limit および Ending Relative Limit のリミットを超えたときにフェイルが検出されます。 Rel AND Abs ：絶対測定の結果のいずれかが Beginning Absolute Limit および Ending Absolute Limit のリミットを超えたとき、および相対測定の結果のいずれかが Beginning Relative Limit および Ending Relative Limit のリミットを超えたときにフェイルが検出されます。	—————
Beginning Absolute Limit	開始時間における絶対レベルのリミットを設定します。	-200 ~ 200 dBm
Ending Absolute Limit	終了時間における絶対レベルのリミットを設定します。	-200 ~ 200 dBm
Beginning Relative Limit	開始時間における相対レベルのリミットを設定します。	-200 ~ 200 dBc
Ending Relative Limit	終了時間における相対レベルのリミットを設定します。	-200 ~ 200 dBc

次に、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定での測定リミットを設定する方法を示します。

1. **Select column to edit** サイド・キーを押します。
2. ロータリ・ノブまたは矢印キーを使用して、リミットを編集したい列(A ~ L)を選択します。
3. **Enable** サイド・キーを押し、選択したゾーンのリミット設定の有効または無効を設定します。
4. 設定したいリミット項目に対応したサイド・キーを押し、ロータリ・ノブまたは矢印キーを使用して、値を設定します。
5. あらかじめ設定されている測定リミットを使用したい場合は、**Default limits to...** サイド・キーを押します。バンド・クラス(BC)名に対応したメニュー項目が表示されます。

各バンド・クラスのデフォルト設定については、2-67 ページの「測定リミットのデフォルト設定」を参照してください。

6. **Rescale Graph** サイド・キーを押すと、設定された測定リミットに対応してグラフが再設定されます。

測定リミットの保存と読み出し

測定リミット・エディタ内で設定した測定リミットは、ファイルとして保存したり、ファイルから読み出したりすることができます。このサブセクションでは、測定リミットの保存方法と読み出し方法について説明します。

ファイル名の入力方法やファイルの削除方法などを含むファイル操作の詳しい説明については、「WCA230A型／WCA280A型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

測定リミットの保存

次に、現在の測定リミットをファイルに保存する手順を示します。

1. ACPR測定、スペクトラム・エミッション・マスク測定、またはゲーテッド・アウトプット・パワー測定のためのリミット・エディタが表示されている場合は、**Cancel-Back (MENU)** サイド・キーを押して、図2-30に表示されている測定リミット・エディタを表示します。
 2. **Save Limits** サイド・キーを押して、**Save to File** メニューを表示します。
- 測定リミットは、プリセット・ファイル名を使用するか、または新規のファイル名を入力することにより保存することができます。
3. プリセット・ファイル名を使用するには、**Save to LimitsA**、**Save to LimitsB**、または**Save to LimitsC** のいずれかのサイド・キーを押します。
 4. 新規のファイル名を入力するには、メニュー上部の**Filename** テキスト・ボックスにファイル名を入力し、**Save File Now** サイド・キーを押します。

測定リミット・ファイルには、自動的に拡張子.lmtが追加されます。

測定リミットの読み出し

次に、ファイルから測定リミットを読み出す手順を示します。

1. スペクトラム・エミッション・マスク測定またはゲーテッド・アウトプット・パワー測定のためのリミット・エディタが表示されている場合は、**Cancel-Back (MENU)** サイド・キーを押して、図2-30に表示されている測定リミット・エディタを表示します。
2. **Load Limits** サイド・キーを押して、**Load From File** メニューを表示します。
3. プリセット・ファイルから測定リミットを読み出すには、**Save to LimitsA**、**Save to LimitsB**、または**Save to LimitsC** のいずれかのサイド・キーを押します。
4. 既存のファイルから測定リミットを読み出すには、ファイル・リストからファイルを選択し、**Load File Now** サイド・キーを押します。

測定リミットのデフォルト設定

表 2-5～表 2-21 に、1xEV-DO 測定のパス／フェイル・テストで使用するリミット設定のデフォルト値を示します。測定リミットの編集手順については、2-57 ページの「測定リミット・エディタの使用」を参照してください。

コモン測定リミット

表 2-5 および表 2-6 に、ACPR 測定、スペクトラム・エミッション・マスク測定およびゲーテッド・アウトプット・パワー測定以外の測定で使用するコモン測定リミットを示します。

表 2-5：コモン測定リミット - フォワード・リンク

Limit	Enable	Lower	Upper	Units
Channel Power	No	-150	30	dBm
Intermod 3rd Order	Yes	-----	-20	dBc
Intermod 5th Order	Yes	-----	-40	dBc
RMS EVM	No	-----	10	percent
Peak EVM	No	-----	31	percent
Peak Code Domain Error	No	-----	0.4	dB
Rho	Yes	0.912	-----	-----
Pilot To Code Timing	Yes	-50 n	50n	s
Pilot To Code Phase	Yes	-0.15	0.15	radian
OBW	Yes	-----	1.48M	Hz
Tau	Yes	-----	0.00001	s

表 2-6：コモン測定リミット - リバース・リンク

Limit	Enable	Lower	Upper	Units
Channel Power	No	-150	30	dBm
Intermod 3rd Order	Yes	-----	-18	dBc
Intermod 5th Order	Yes	-----	-36	dBc
RMS EVM	No	-----	10	percent
Peak EVM	No	-----	24	percent
Peak Code Domain Error	No	-----	0.25	dB
Rho	Yes	0.994	-----	-----
Pilot To Code Timing	Yes	-10 n	10n	s
Pilot To Code Phase	Yes	-0.15	0.15	radian
OBW	Yes	-----	1.48M	Hz

ACPR 測定リミット

表 2-7 に、ACPR 測定で使用する測定リミットを示します。なお、測定リミットは、すべてのバンド・クラスに共通です。

表 2-7 : フォワード／リバース・リンク

Zone	Enable	Frequency	Measure BW	Limit (Abs)	Limit (Rel)	Fail Mode
A	Yes	750 kHz	30 kHz	-27 dBm	-45 dBc	Relative
B	Yes	-750 kHz	30 kHz	-27 dBm	-45 dBc	Relative
C	Yes	1.995 MHz	30 kHz	-27 dBm	-55 dBc	Relative
D	Yes	-1.995 MHz	30 kHz	-27 dBm	-55 dBc	Relative
E	Yes	3.125 MHz	30 kHz	-13 dBm	-55 dBc	Relative
F	No	-3.125 MHz	30 kHz	-13 dBm	-55 dBc	Relative
G	No	4 MHz	30 kHz	-13 dBm	-55 dBc	Relative
H	No	-4 MHz	30 kHz	-13 dBm	-55 dBc	Relative
I	No	7.5 MHz	30 kHz	-13 dBm	-55 dBc	Relative
J	No	-7.5 MHz	30 kHz	-13 dBm	-55 dBc	Relative
K	No	0 Hz	30 kHz	-13 dBm	-55 dBc	Relative
L	No	0 Hz	30 kHz	-13 dBm	-55 dBc	Relative

SEM 周波数オフセット・リミット

表 2-8～表 2-16 に、スペクトラム・エミッション・マスク (SEM) の周波数オフセット測定に使用する測定リミットを示します。

表 2-8 : フォワード・リンク : BC (バンド・クラス) 0、2、3、5、および 9

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	No	No
Start Frequency	750 kHz	1.98 MHz	4 MHz	4 MHz	20 MHz
Stop Frequency	1.98 MHz	4.00 MHz	20 MHz	3 GHz	8 GHz
Measurement BW	30 kHz	30 kHz	1 MHz	1 MHz	1 MHz
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Relative	Rel OR Abs	Absolute	Absolute	Absolute
Absolute Start	30 dBm	-27 dBm	-36 dBm	-13 dBm	-13 dBm
Absolute Stop	30 dBm	-27 dBm	-36 dBm	-13 dBm	-13 dBm
Relative Start	-45 dBc	-55 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	-45 dBc	-55 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc

表 2-9：フォワード・リンク : BC (バンド・クラス) 1、4、および 8

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	Yes	No
Start Frequency	885 kHz	1.25 MHz	2.25 MHz	4 MHz	4 MHz
Stop Frequency	1.25 MHz	2.25 MHz	4 MHz	20 MHz	3 GHz
Measurement BW	30 kHz	30 kHz	1 MHz	1 MHz	1 MHz
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Relative	Rel OR Abs	Absolute	Absolute	Absolute
Absolute Start	30 dBm	-9 dBm	-13 dBm	-36 dBm	-13 dBm
Absolute Stop	30 dBm	-9 dBm	-13 dBm	-36 dBm	-13 dBm
Relative Start	-45 dBc	-45 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	-45 dBc	-45 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc

表 2-10：フォワード・リンク : BC (バンド・クラス) 3b

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	No	No
Start Frequency	750 kHz	1.98 MHz	4 MHz	4 MHz	20 MHz
Stop Frequency	1.98 MHz	4 MHz	20 MHz	3 MHz	8 GHz
Measurement BW	30 kHz	30 kHz	1 MHz	1 MHz	1 MHz
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Relative	Relative	Absolute	Absolute	Absolute
Absolute Start	30 dBm	-27 dBm	-36 dBm	-13 dBm	-13 dBm
Absolute Stop	30 dBm	-27 dBm	-36 dBm	-13 dBm	-13 dBm
Relative Start	-45 dBc	-60 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	-45 dBc	-60 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc

表 2-11：フォワード・リンク : BC (バンド・クラス) 6

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Start Frequency	885 kHz	1.25 MHz	1.45 MHz	2.25 MHz	4 MHz
Stop Frequency	1.25 MHz	1.45 MHz	2.25 MHz	4 MHz	20 MHz
Measurement BW	30 kHz	30 kHz	30 kHz	1 MHz	1 MHz
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Relative	Rel OR Abs	Rel OR Abs	Absolute	Absolute
Absolute Start	30 dBm	-13 dBm	-13 dBm	-13 dBm	-36 dBm
Absolute Stop	30 dBm	-13 dBm	-26.6 dBm*	-13 dBm	-36 dBm
Relative Start	-45 dBc	-45 dBc	-45 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	-45 dBc	-45 dBc	-45 dBc	0 dBc	0 dBc

* Δf が 2.25 MHz のとき、 $-[13+17 \times (\Delta f - 1.45 \text{ MHz})]$ dBm を基にしています。

表 2-12 : フォワード・リンク : BC (バンド・クラス) 7

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Start Frequency	750 kHz	1.98 MHz	3.25 MHz	4 MHz	4 MHz
Stop Frequency	1.98 MHz	3.25 MHz	4 MHz	20 MHz	20 MHz
Measurement BW	30 kHz	30 kHz	30 kHz	1 MHz	1 MHz
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Relative	Rel OR Abs	Rel OR Abs	Absolute	Absolute
Absolute Start	30 dBm	-27 dBm	-46 dBm	-36 dBm	-36 dBm
Absolute Stop	30 dBm	-27 dBm	-46 dBm	-36 dBm	-36 dBm
Relative Start	-45 dBc	-55 dBc	-55 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	-45 dBc	-55 dBc	-55 dBc	0 dBc	0 dBc

表 2-13 : リバース・リンク : BC (バンド・クラス) 0、2、3、5、および 9

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	No	No
Start Frequency	885 kHz	1.98 MHz	4 MHz	4 MHz	20 MHz
Stop Frequency	1.98 MHz	4 MHz	20 MHz	3 GHz	8 GHz
Measurement BW	30 kHz	30 kHz	1 MHz	1 MHz	1 MHz
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Rel AND Abs	Rel AND Abs	Absolute	Absolute	Absolute
Absolute Start	-54 dBm	-54 dBm	-36 dBm	-13 dBm	-13 dBm
Absolute Stop	-54 dBm	-54 dBm	-36 dBm	-13 dBm	-13 dBm
Relative Start	-42 dBc	-55 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	-42 dBc	-55 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc

表 2-14 : リバース・リンク : BC (バンド・クラス) 1、4、および 8

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	No	No
Start Frequency	1.25 MHz	1.98 MHz	4 MHz	4 MHz	20 MHz
Stop Frequency	1.98 MHz	4 MHz	20 MHz	3 GHz	8 GHz
Measurement BW	30 kHz	30 kHz	1 MHz	1 MHz	1 MHz
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Relative	Rel OR Abs	Absolute	Absolute	Absolute
Absolute Start	-54 dBm	-54 dBm	-36 dBm	-13 dBm	-13 dBm
Absolute Stop	-54 dBm	-54 dBm	-36 dBm	-13 dBm	-13 dBm
Relative Start	-42 dBc	-50 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	-42 dBc	-50 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc

表 2-15：リバース・リンク：BC（バンド・クラス）6

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	No	No
Start Frequency	1.25 MHz	1.98 MHz	2.25 MHz	2.25 MHz	4 MHz
Stop Frequency	1.98 MHz	2.25 MHz	4 MHz	4 MHz	20 MHz
Measurement BW	30 kHz	30 kHz	1 MHz	1 MHz	1 MHz
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Rel AND Abs	Rel OR Abs	Rel OR Abs	Absolute	Absolute
Absolute Start	-54 dBm	-54 dBm	-13 dBm	-13 dBm	-36 dBm
Absolute Stop	-54 dBm	-54 dBm	-14.75 dBm*	-13 dBm	-36 dBm
Relative Start	-42 dBc	-50 dBc	-45 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	-42 dBc	-50 dBc	-45 dBc	0 dBc	0 dBc

* Δf が 4 MHz のとき、 $-[13+1 \times (\Delta f - 2.25 \text{ MHz})] \text{ dBm}$ を基にしています。

表 2-16：リバース・リンク：BC（バンド・クラス）7

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Start Frequency	885 kHz	1.98 MHz	2.25 MHz	4 MHz	4 MHz
Stop Frequency	1.98 MHz	2.25 MHz	4 MHz	20 MHz	20 MHz
Measurement BW	30 kHz	30 kHz	30 kHz	1 MHz	1 MHz
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Rel AND Abs	Rel AND Abs	Rel AND Abs	Absolute	Absolute
Absolute Start	-54 dBm	-54 dBm	-35 dBm	-36 dBm	-36 dBm
Absolute Stop	-54 dBm	-54 dBm	-35 dBm	-36 dBm	-36 dBm
Relative Start	-42 dBc	-54 dBc	-55 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	-42 dBc	-54 dBc	-55 dBc	0 dBc	0 dBc

SEM インバンド・スプリアス・リミット

表 2-17～表 2-19 に、スペクトラム・エミッション・マスク (SEM) のインバンド・スプリアス・リミット測定に使用する測定リミットを示します。

表 2-17：フォワード／リバース・リンク：BC (バンド・クラス) 0、1、2、3、4、5、7、8、および 9

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	No	No	No
Start Frequency	1 GHz	925 MHz	935 MHz	1.805 GHz	4 MHz
Stop Frequency	3 GHz	935 MHz	960 MHz	1.880 GHz	8 GHz
Measurement BW	1 MHz	100 kHz	100 kHz	100 kHz	1 MHz
Failure Mode	Absolute	Absolute	Absolute	Absolute	Absolute
Absolute Start	-36 dBm	-67 dBm	-79 dBm	-71 dBm	-36 dBm
Absolute Stop	-36 dBm	-67 dBm	-79 dBm	-71 dBm	-36 dBm
Relative Start	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc

表 2-18：フォワード・リンク：BC (バンド・クラス) 6

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	Yes	No
Start Frequency	1.8935 GHz	925 MHz	935 MHz	1.805 GHz	4 MHz
Stop Frequency	1.9196 GHz	935 MHz	960 MHz	1.880 GHz	20 MHz
Measurement BW	300 kHz	100 kHz	100 kHz	100 kHz	1 MHz
Failure Mode	Absolute	Absolute	Absolute	Absolute	Absolute
Absolute Start	-41 dBm	-67 dBm	-79 dBm	-71 dBm	-36 dBm
Absolute Stop	-41 dBm	-67 dBm	-79 dBm	-71 dBm	-36 dBm
Relative Start	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc

表 2-19：リバース・リンク：BC (バンド・クラス) 6

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Start Frequency	1.8935 GHz	876 MHz	921 MHz	1.710 GHz	1.805 GHz
Stop Frequency	1.9196 GHz	915 MHz	960 MHz	1.785 GHz	1.880 GHz
Measurement BW	300 kHz	100 kHz	100 kHz	100 kHz	100 kHz
Failure Mode	Absolute	Absolute	Absolute	Absolute	Absolute
Absolute Start	-41 dBm	-98 dBm	-57 dBm	-98 dBm	-47 dBm
Absolute Stop	-41 dBm	-98 dBm	-57 dBm	-98 dBm	-47 dBm
Relative Start	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc
Relative Stop	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc	0 dBc

ゲーテッド・アウトプット・パワー・リミット

表 2-20～表 2-21 に、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定に使用する測定リミットを示します。なお、測定リミットは、すべてのバンド・クラスに共通です。

表 2-20：フォワード・リンク：アイドル・スロット

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	No	No
Start Time	0 s	0 s	97.33 μs	0 s	0 s
Stop Time	90.33 μs	97.33 μs	416.665 μs	416.665 μs	416.665 μs
Upper/Lower	Lower	Upper	Upper	Lower	Upper
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Relative	Relative	Relative	Relative	Relative
Absolute Start	-150 dBm	30 dBm	30 dBm	-150 dBm	30 dBm
Absolute Stop	-150 dBm	30 dBm	30 dBm	-150 dBm	30 dBm
Relative Start	-2.5 dB	2.5 dB	-7 dB	-2.5 dB	2.5 dBc
Relative Stop	-2.5 dB	2.5 dB	-7 dB	-2.5 dB	2.5 dBc

表 2-21：フォワード・リンク：アクティブ・スロット

Zone	A	B	C	D	E
Enable	Yes	Yes	Yes	No	No
Start Time	0 s	0 s	97.33 μs	0 s	0 s
Stop Time	90.33 μs	97.33 μs	416.665 μs	416.665 μs	416.665 μs
Upper/Lower	Lower	Upper	Upper	Lower	Upper
Offset Side	Both	Both	Both	Both	Both
Failure Mode	Relative	Relative	Relative	Relative	Relative
Absolute Start	-150 dBm	30 dBm	30 dBm	-150 dBm	30 dBm
Absolute Stop	-150 dBm	30 dBm	30 dBm	-150 dBm	30 dBm
Relative Start	-2.5 dB	2.5 dB	-7 dB	-2.5 dB	2.5 dBc
Relative Stop	-2.5 dB	2.5 dB	-7 dB	-2.5 dB	2.5 dBc

第3章 コマンドと構文

コマンド・グループ

このセクションでは、オプション 26 型で使用できるコマンドを機能グループに分類して説明します。

WCA230A 型または WCA280A 型で使用できる他のコマンドの詳細については、「WCA230A 型／WCA280A 型 3GHz/8GHz ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・プログラマ・マニュアル」を参照してください。

説明の中では“(?)”のマークを使用しています。コマンド・ヘッダの後にこのマークが付いている場合、そのコマンドは、問合せコマンドを伴っていることを表します。それ以外のコマンドは、設定コマンドか問合せコマンドのどちらかです。

オプション 26 型のコマンドを実行する場合は、あらかじめ次に示すいずれかの測定モードを選択しておくことが必要です。測定モードを設定するには、:INSTRument[:SElect] コマンドを使用します。:INSTRument コマンドの詳しい説明については、「WCA230A 型／WCA280A 型 3GHz/8GHz ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・プログラマ・マニュアル」を参照してください。

表 3-1: 測定モード

ニーモニック	意味
DEMFL1XEVDO	1xEV-DO フォワード・リンク解析
DEMRL1XEVDO	1xEV-DO リバース・リンク解析

コマンドの記述に使用している表記法について、「WCA230A 型／WCA280A 型 3GHz/8GHz ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・プログラマ・マニュアル」を参照してください。

注：ヘッダ表記に使用されているイタリック体の *Standard* の文字は、オプション 26 型で使用できる 2 つの測定モード FL1XEVDO および RL1XEVDO を総称したものです。

:CONFigure コマンド

:CONFigure コマンドを使用すると、各測定のセットアップを行うことができます。

表 3-2: :CONFigure コマンド

ヘッダ	説明
:CONFigure:Standard:ACPower	ACPR 測定のデフォルト設定を行います。
:CONFigure:Standard:CCDF	CCDF 測定のデフォルト設定を行います。
:CONFigure:Standard:CDPower	コード・ドメイン・パワー測定のデフォルト設定を行います。
:CONFigure:Standard:CHPower	チャンネル電力測定のデフォルト設定を行います。
:CONFigure:Standard:IM	相互変調測定のデフォルト設定を行います。
:CONFigure:Standard:MACAccuracy	変調確度測定のデフォルト設定を行います。
:CONFigure:Standard:OBWidth	OBW (占有帯域幅) 測定のデフォルト設定を行います。
:CONFigure:Standard:PCCPtime	パイロット／コード・チャンネル測定のデフォルト設定を行います。
:CONFigure:FL1XEVD0:PVTime	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のデフォルト設定を行います。
:CONFigure:Standard:SEMask	スペクトラム・エミッション・マスク測定のデフォルト設定を行います。

:DISPlay コマンド

:DISPlay コマンドを使用すると、測定データの表示方法をコントロールすることができます。

表 3-3: :DISPlay コマンド

ヘッダ	説明
:DISPlay:Standard:CCDF サブグループ	
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe] (?)	CCDF ビューにおいて、ガウシャン・ラインを表示するかどうかを設定します。
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REFerence[:STATe] (?)	CCDF ビューにおいて、リファレンス・ラインを表示するかどうかを設定します。
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REFerence:STORe	新しいリファレンス・ラインを保存します。
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALE]:AUTO (?)	CCDF ビューにおいて、水平軸スケールを自動設定するかどうかを決めます。
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALE]:MAXimum (?)	CCDF ビューにおいて、水平軸の最大値(右端)を設定します。
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALE]:OFFSet (?)	CCDF ビューにおいて、水平軸の最小値(左端)を設定します。
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:FIT	CCDF ビューにおいて、オート・スケールを実行します。
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:FULL	CCDF ビューにおいて、垂直軸をデフォルトのフル・スケールに設定します。
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:MAXimum (?)	CCDF ビューにおいて、垂直軸の最大値(上端)を設定します。
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:MINimum (?)	CCDF ビューにおいて、垂直軸の最小値(下端)を設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod サブグループ	
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVlew:CORDer (?)	コードの表示方法を設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVlew:FORMAT (?)	メイン・ビューの表示フォーマットを選択します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVlew:X[:SCALE]:OFFSet (?)	メイン・ビューにおいて、水平軸の最小値(左端)を設定します。

表 3-3: :DISPlay コマンド (続き)

ヘッダ	説明
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVlew:X[:SCALE] :RANGe (?)	メイン・ビューにおいて、水平軸のフルスケールを設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE]:FIT	メイン・ビューにおいて、オート・スケールを実行します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE]:FULL	メイン・ビューにおいて、垂直軸をデフォルトのフル・スケールに設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE] :OFFSet (?)	メイン・ビューにおいて、垂直軸の最小値(下端)を設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE] :PUNit (?)	メイン・ビューにおいて、垂直軸の単位を設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE] :RANGe (?)	メイン・ビューにおいて、水平軸のフルスケールを設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVlew:FORMAT (?)	サブビューの表示フォーマットを選択します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVlew:X[:SCALE] :OFFSet (?)	サブビューにおいて、水平軸の最小値(左端)を設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVlew:X[:SCALE] :RANGe (?)	サブビューにおいて、水平軸のフルスケールを設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVlew:Y[:SCALE]:FIT	サブビューにおいて、オート・スケールを実行します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVlew:Y[:SCALE]:FULL	サブビューにおいて、垂直軸をデフォルトのフル・スケールに設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVlew:Y[:SCALE] :OFFSet (?)	サブビューにおいて、垂直軸の最小値(下端)を設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVlew:Y[:SCALE] :RANGe (?)	サブビューにおいて、水平軸のフルスケールを設定します。
:DISPlay:Standard:SPECtrum サブグループ	
:DISPlay:Standard:SPECtrum:X[:SCALE]:OFFSet (?)	スペクトラム・ビューにおいて、水平軸の最小値(左端)を設定します。
:DISPlay:Standard:SPECtrum:X[:SCALE]:PDIvision (?)	スペクトラム・ビューにおいて、水平軸スケールを設定します。
:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALE]:FIT	スペクトラム・ビューにおいて、オート・スケールを実行します。
:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALE]:FULL	スペクトラム・ビューにおいて、垂直軸をデフォルトのフル・スケールに設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:Y[:SCALE]:OFFSet (?)	スペクトラム・ビューにおいて、垂直軸の最小値(下端)を設定します。
:DISPlay:Standard:DDEMod:Y[:SCALE]:PDIvision (?)	スペクトラム・ビューにおいて、垂直軸スケールを設定します。
:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform サブグループ	
:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:X[:SCALE] :OFFSet (?)	時間領域表示において、水平軸の最小値(左端)を設定します。
:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:X[:SCALE] :PDIvision (?)	時間領域表示において、水平軸スケールを設定します。
:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y[:SCALE]:FIT	時間領域表示において、オート・スケールを実行します。
:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y[:SCALE]:FULL	時間領域表示において、垂直軸をデフォルトのフル・スケールに設定します。
:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y[:SCALE] :OFFSet (?)	時間領域表示において、垂直軸の最小値(下端)を設定します。
:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y[:SCALE] :PDIvision (?)	時間領域表示において、垂直軸スケールを設定します。

:FETCh コマンド

:FETCh コマンドを使用すると、現在メモリ上にあるデータについて測定結果を取得することができます。入力信号の取り込みは行いません。入力信号を取り込んでから、そのデータについて測定結果を取得するときには、:READ コマンドを使用してください。

表 3-4: :FETCh コマンド

ヘッダ	説明
:FETCh:Standard:ACPower?	ACPR 測定の結果を取得します。
:FETCh:Standard:CCDF?	CCDF 測定の結果を取得します。
:FETCh:Standard:CDPower?	コード・ドメイン・パワー測定の結果を取得します。
:FETCh:Standard:CHPower?	チャンネル電力測定の結果を取得します。
:FETCh:Standard:IM?	相互変調測定の結果を取得します。
:FETCh:Standard:MACCuracy?	変調確度測定の結果を取得します。
:FETCh:Standard:OBWidth?	OBW 測定の結果を取得します。
:FETCh:Standard:PCCHannel?	パイロット／コード・チャンネル測定の結果を取得します。
:FETCh:FL1XEVDO:PVTIme?	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。
:FETCh:Standard:SEMask?	スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。
:FETCh:Standard:DISTribution:CCDF?	CCDF 測定のディストリビューション・データを取得します。
:FETCh:FL1XEVDO:TAMplitude:PVTIme?	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の時間振幅を取得します。
:FETCh:Standard:SPECtrum:ACPower?	ACPR 測定のスペクトラム波形データを取得します。
:FETCh:Standard:SPECtrum:CHPower?	チャンネル電力測定のスペクトラム波形データを取得します。
:FETCh:Standard:SPECtrum:IM?	相互変調測定のスペクトラム波形データを取得します。
:FETCh:Standard:SPECtrum:OBWidth?	OBW 測定のスペクトラム波形データを取得します。

:MMEMory コマンド

:MMEMory コマンドを使用すると、ハードディスクまたはフロッピ・ディスク上のファイルを操作することができます。

表 3-5: :MMEMory コマンド

ヘッダ	説明
:MMEMory:LOAD:LIMit	指定されたファイルからリミットをロードします。
:MMEMory:STORe:LIMit	指定されたファイルにリミットを保存します。
:MMEMory:STORe:STABle	指定されたファイルにシンボル・テーブルを保存します。

:READ コマンド

:READ コマンドを使用すると、入力信号を取り込み、そのデータについて測定結果を取得することができます。入力信号を取り込みず、現在メモリ上にあるデータについて測定結果を取得するときは、:FETCh コマンドを使用してください。

表 3-6: :READ コマンド

ヘッダ	説明
:READ:Standard:ACPower?	ACPR 测定の結果を取得します。
:READ:Standard:CCDF?	CCDF 测定の結果を取得します。
:READ:Standard:CHPower?	チャンネル電力測定の結果を取得します。
:READ:Standard:IM?	相互変調測定の結果を取得します。
:READ:Standard:OBWidth?	OBW 测定の結果を取得します。
:READ:FL1XEVDO:PVTIME?	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。
:READ:Standard:SEMask?	スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。
:READ:Standard:DISTRIBUTION:CCDF?	CCDF 测定のディストリビューション・データを取得します。
:READ:FL1XEVDO:TAMPLITUDE:PVTIME?	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の時間振幅を取得します。
:READ:Standard:SPECRUM:ACPOWER?	ACPR 测定のスペクトラム波形データを取得します。
:READ:Standard:SPECRUM:CHPOWER?	チャンネル電力測定のスペクトラム波形データを取得します。
:READ:Standard:SPECRUM:IM?	相互変調測定のスペクトラム波形データを取得します。
:READ:Standard:SPECRUM:OBWIDTH?	OBW 测定のスペクトラム波形データを取得します。

:SENSe コマンド

:SENSe コマンドを使用すると、測定条件の詳細を設定することができます。

表 3-7: :SENSe コマンド

ヘッダ	説明
:SENSe:Standard サブグループ	
[:SENSe]:Standard:ACQuisition:CHIPs (?)	1 ブロックの取り込み時間をチップ単位で設定します。
[:SENSe]:Standard:ACQuisition:HISTory (?)	解析するブロック番号を設定します。
[:SENSe]:Standard:ACQuisition:SEConds (?)	1 ブロックの取り込み時間を秒単位で設定します。
[:SENSe]:Standard:ANALysis:INTerval (?)	解析時間を設定します。
[:SENSe]:Standard:ANALysis:OFFSet (?)	解析範囲の始点を設定します。
[:SENSe]:Standard:BLOCK (?)	測定するブロック数を設定します。
[:SENSe]:Standard[:IMMEDIATE] (?)	取り込んだデータの解析を開始します。
[:SENSe]:Standard:MEASurement (?)	測定項目を選択します。
[:SENSe]:Standard:SPECRUM:OFFSet (?)	スペクトラムの FFT 処理開始位置を設定します。
[:SENSe]:Standard:SPECRUM:TINTerval ?	スペクトラムの FFT 処理範囲を返します。

表 3-7: :SENSe コマンド (続き)

ヘッダ	説明
:SENSe:Standard:ACPower サブグループ	
[:SENSe]:Standard:ACPower:BANDwidth BWIDth :INTegration (?)	メイン・チャンネルの帯域幅を設定します。
[:SENSe]:Standard:ACPower:FILTter:COEFFcient (?)	フィルタのロールオフ係数を設定します。
[:SENSe]:Standard:ACPower:FILTter:TYPE (?)	フィルタを選択します。
[:SENSe]:Standard:ACPower:LIMit :LADJacent[1] 2 3.. 12[:STATe] (?)	隣接チャンネル・リミット・テストの有効／無効を設定します。
:SENSe:Standard:CCDF サブグループ	
[:SENSe]:Standard:CCDF:RMEasurement (?)	累積された測定をクリアし、測定を再開します。
[:SENSe]:Standard:CCDF:THreshold (?)	CCDF 測定のスレッショルドを設定します。
:SENSe:Standard:CDPower サブグループ	
[:SENSe]:Standard:CDPower:ACCThreshold (?)	アクティブ・チャンネルのスレッショルドを設定します。
[:SENSe]:FL1XEVD0:CDPower:CHANnel[:TYPE] (?)	チャンネル・タイプを選択します。
[:SENSe]:Standard:CDPower:FILTter:MEASurement (?)	測定フィルタを選択します。
[:SENSe]:Standard:CDPower:IQSWap (?)	IQ データのスワッピングの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMASK:I (?)	I 信号のロング・コード・マスクを設定します。
[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMASK:Q (?)	Q 信号のロング・コード・マスクを設定します。
[:SENSe]:Standard:CDPower:MLEvel (?)	測定レベルを設定します。
[:SENSe]:FL1XEVD0:CDPower:PNOFFset (?)	PN オフセットを設定します。
[:SENSe]:Standard:CDPower:SElect:CODE (?)	ハーフ・スロット内のコードを設定します。
[:SENSe]:Standard:CDPower:SELECT:HSLot (?)	ハーフ・スロットを設定します。
:SENSe:Standard:CHPower サブグループ	
[:SENSe]:Standard:CHPower:BANDwidth BWIDth :INTegration (?)	チャンネル帯域幅を設定します。
[:SENSe]:Standard:CHPower:FILTter:COEFFcient (?)	フィルタのロール・オフ係数を設定します。
[:SENSe]:Standard:CHPower:FILTter:TYPE (?)	フィルタを選択します。
[:SENSe]:Standard:CHPower:LIMit[:STATe](?)	リミット・テストの有効／無効を設定します。
:SENSe:Standard:IM サブグループ	
[:SENSe]:Standard:IM:BANDwidth BWIDth :INTegration (?)	メイン・チャンネルの帯域幅を設定します。
[:SENSe]:Standard:IM:FILTter:COEFficient (?)	フィルタのロール・オフ係数を設定します。
[:SENSe]:Standard:IM:FILTter:TYPE (?)	フィルタを選択します。
[:SENSe]:Standard:IM:LIMit:FORDer[:STATe](?)	5 次高調波のリミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:Standard:IM:LIMit:TORDer[:STATe](?)	3 次高調波のリミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:Standard:IM:SCOFFset(?)	第 2 チャンネルの周波数を設定します。

表 3-7: :SENSe コマンド（続き）

ヘッダ	説明
:SENSe:Standard:MACCuracy サブグループ	
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:ACCThreshold (?)	コード・チャンネルのアクティブ／インアクティブを決めるためのレベルを設定します。
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:CHANnel[:TYPE] (?)	チャンネル・タイプを選択します。
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:FILTer :MEASurement (?)	測定フィルタを選択します。
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:IQSswap (?)	IQ データのスワッピングの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMASK:I (?)	I 信号のロング・コード・マスクを設定します。
[:SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMASK:Q (?)	Q 信号のロング・コード・マスクを設定します。
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK [:STATe] (?)	ピーク EVM リミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS [:STATe] (?)	RMS EVM リミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:PCDerror [:STATe] (?)	ピーク・コード・ドメイン・エラーのリミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe] (?)	ロー (ρ) のリミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:TAU [:STATe] (?)	タウ (τ) のリミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:MLEvel (?)	測定レベルを設定します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:PNOFFset (?)	PN オフセットを設定します。
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:SElect:CODE (?)	ハーフ・スロット内のコードを設定します。
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:SELECT:HSLot (?)	ハーフ・スロットを設定します。
:SENSe:Standard:OBWidth サブグループ	
[:SENSe]:Standard:OBWidth:LIMit[:STATe] (?)	リミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:Standard:OBWidth:PERcent (?)	占有帯域幅を設定します。
:SENSe:Standard:PCCHannel サブグループ	
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:ACCThreshold (?)	コード・チャンネルのアクティブ／インアクティブを決めるためのレベルを設定します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:CHANnel [:TYPE] (?)	チャンネル・タイプを選択します。
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:FILTer :MEASurement (?)	測定フィルタを選択します。
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:IQSswap (?)	IQ データのスワッピングの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:RL1XEVDO:PCCHannel:LCMASK:I (?)	I 信号のロング・コード・マスクを設定します。
[:SENSe]:RL1XEVDO:PCCHannel:LCMASK:Q (?)	Q 信号のロング・コード・マスクを設定します。
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:LIMit:PHASE [:STATe] (?)	位相リミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe] (?)	時間リミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:PNOFFset (?)	PN オフセットを設定します。
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:SElect:CODE (?)	ハーフ・スロット内のコードを設定します。
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:SELECT:HSLot (?)	ハーフ・スロットを設定します。

表 3-7: :SENSe コマンド（続き）

ヘッダ	説明
:SENSe:FL1XEVDO:PVTIme サブグループ	
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:BURSt:OFFSet (?)	トリガ位置とバースト位置間のオフセットを選択します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:BURSt:SYNC (?)	バースト・シンクを選択します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:LIMit :ZONE[1] 2 3 4 5[:STATe] (?)	ゾーン・リミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RCHannel:LEVel (?)	リファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RCHannel:MODE (?)	リファレンス・チャンネル・レベルのモードを選択します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:SLOT[:TYPE] (?)	スロット・タイプを選択します。
:SENSe:Standard:SEMask サブグループ	
[:SENSe]:Standard:SEMask:BWIDth :INTegration (?)	チャンネル帯域幅を設定します。
[:SENSe]:Standard:SEMask:BURSt:OFFSet (?)	トリガ位置とバースト位置間のオフセットを選択します。
[:SENSe]:Standard:SEMask:BURSt:SYNC (?)	バースト・シンクを選択します。
[:SENSe]:Standard:SEMask:FILTer:COEFFicient (?)	フィルタのロールオフ係数を設定します。
[:SENSe]:Standard:SEMask:FILTer:TYPE (?)	フィルタを選択します。
[:SENSe]:Standard:SEMask:LIMit:ISPuriuos :ZONE[1] 2 3 4 5[:STATe] (?)	インバンド・スプリアス・リミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:Standard:SEMask:LIMit:OFCHannel :ZONE[1] 2 3 4 5[:STATe] (?)	周波数オフセット・リミット・テストの有効／無効を設定します。
[:SENSe]:Standard:SEMask:MEASurement(?)	リミット・テーブルを選択します。
[:SENSe]:Standard:SEMask:RCHannel:LEVel (?)	スプリアス・エミッション・レベルを測定するためのリファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
[:SENSe]:Standard:SEMask:RCHannel:MODE (?)	スプリアス・エミッション・レベルを測定するためのリファレンス・チャンネル・レベル・モードを設定します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:SLOT:GATE (?)	スロット・ゲート時間を設定します。
[:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:SLOT[:TYPE] (?)	スロット・タイプ（アイドルまたはアクティブ）を設定します。

:CONFigure コマンド

:CONFigure コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードの各測定に対して、基本設定を行います。

注：ヘッダ表記に使用されているイタリック体の *Standard* の文字は、オプション 26 型で使用できる 2 つの測定モード FL1XEVDO および RL1XEVDO を総称したものです。

コマンド一覧

```
:CONFigure
  :FL1XEVDO|RL1XEVDO
  :ACPower
  :CCDF
  :CDPower
  :CHPower
  :IM
  :MACCuracy
  :OBWidth
  :PCCChannel
  :PVTime
  :SEMask
```

:CONFigure:Standard:ACPower

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、機器を ACPR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定のデフォルト設定状態にします。

構 文 : :CONFigure:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ACPower

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器を ACPR 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:ACPower

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:CONFigure:Standard:CCDF

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、機器を CCDF 測定のデフォルト設定状態にします。

構 文 : :CONFigure:FL1XEVD0|RL1XEVD0:CCDF

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器を CCDF 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:CCDF

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:CONFigure:Standard:CDPower

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、機器を コード・ドメイン・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

構 文 : :CONFigure:FL1XEVD0|RL1XEVD0:CDPower

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器をコード・ドメイン・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:CDPower

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:CONFigure:Standard:CHPower

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、機器をチャンネル電力測定のデフォルト設定状態にします。

構 文 : :CONFigure:FL1XEVD0|RL1XEVD0:CHPower

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器をチャンネル電力測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:CHPower

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:CONFigure:Standard:IM

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、機器を相互変調測定のデフォルト設定状態にします。

構 文 : :CONFigure:FL1XEVD0|RL1XEVD0:IM

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器を相互変調測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:IM

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:CONFigure:Standard:MACCuracy

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、機器を変調確度測定のデフォルト設定状態にします。

構 文 : :CONFigure:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器を変調確度測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVDO:MACCuracy

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:CONFigure:Standard:OBWidth

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、機器を OBW (占有帯域幅) 測定のデフォルト設定状態にします。

構 文 : :CONFigure:FL1XEVDO|RL1XEVDO:OBWidth

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器を OBW 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVDO:OBWidth

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:CONFigure:Standard:PCCHannel

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、機器をパイロット／コード・チャンネル測定のデフォルト設定状態にします。

構 文 : :CONFigure:FL1XEVD0|RL1XEVD0:PCCHannel

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器をパイロット／コード・チャンネル測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:PCCHannel

関連コマンド : :INSTrument[:SELect]

:CONFigure:FL1XEVD0:PVTime

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器をゲーテッド・アウトプット・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

構 文 : :CONFigure:FL1XEVD0:PVTime

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器をゲーテッド・アウトプット・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:PVTime

関連コマンド : :INSTrument[:SELect]

:CONFigure:Standard:SEMask

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、機器をスペクトラム・エミッション・マスク測定のデフォルト設定状態にします。

構 文 : :CONFigure:FL1XEVD0|RL1XEVD0:SEMask

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、機器をスペクトラム・エミッション・マスク測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:SEMask

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:DISPlay コマンド

注：ヘッダ表記に使用されているイタリック体の *Standard* の文字は、オプション 26 型で使用できる 2 つの測定モード FL1XEVDO および RL1XEVDO を総称したものです。

:DISPlay コマンドは、スクリーン上の測定データの表示方法をコントロールします。
:DISPlay コマンドは、次のサブグループに分けられます。

表 3-8: :DISPlay コマンドのサブグループ

コマンド・ヘッダ	機能	ページ
:DISPlay: <i>Standard</i> :CCDF	CCDF 測定の表示をコントロールします。	3-16 ページ
:DISPlay: <i>Standard</i> :DDEMod	デジタル変調信号解析に関連した表示をコントロールします。	3-22 ページ
:DISPlay: <i>Standard</i> :SPECTrum	スペクトラム表示をコントロールします。	3-32 ページ
:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform	時間領域表示をコントロールします。	3-36 ページ

:DISPlay:Standard:CCDF サブグループ

:DISPlay:Standard:CCDF コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定の表示をコントロールします。

コマンド一覧

```
:DISPlay
  : FL1XEVD0|RL1XEVD0
  :CCDF
  :LINE
    :GAUSSian
      [:STATE]      <boolean>
    :REFerence
      [:STATE]      <boolean>
  :X
    [:SCALe]
      :AUTO        <boolean>
      :MAXimum     <relative_amplitude>
      :OFFSet      <relative_amplitude>
  :Y
    [:SCALe]
      :FIT
      :FULL
      :MAXimum     <percent>
      :MINimum     <percent>
```

:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe]

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューにガウシャン・ラインを表示するかどうかを決めます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe] <boolean>

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe]?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}

{ON|1} ガウシャン・ラインを表示します。

{OFF|0} ガウシャン・ラインを表示しません。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューにガウシャン・ラインを表示します。

:DISPlay:FL1XEVDO:CCDF:LINE:GAUSSian ON

:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REFerence[:STATe]

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューにリファレンス・ラインを表示するかどうかを決めます。なお、このコマンドは、機器メモリにリファレンス・ラインが保存されているときにのみ有効です。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:LINE:REFerence[:STATe] <boolean>

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:LINE:REFerence[:STATe]?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}

{ON|1} リファレンス・ラインを表示します。

{OFF|0} リファレンス・ラインを表示しません。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューにリファレンス・ラインを表示します。

:DISPlay:FL1XEVDO:CCDF:LINE:REFerence ON

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:LINE:REFerence:STORe

:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REference:STORe

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューに表示されているラインをリファレンス・ラインとして保存します。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:LINE:REference:STORe

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:LINE:REference:STORe

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューに表示されているラインをリファレンス・ラインとして保存します。

:DISPlay:FL1XEVDO:CCDF:LINE:REference:STORe

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:LINE:REference[:STATE]

:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:AUTO (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの水平軸(電力)スケールを自動設定するかどうかを設定します。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:X[:SCALe]:AUTO <boolean>

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:X[:SCALe]:AUTO?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}

{ON|1} 水平軸スケールを自動設定します。

{OFF|0} 水平軸スケールを手動で設定します。

水平軸スケールを設定するには、:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum コマンドおよび:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet コマンドを使用してください。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの水平軸スケールを自動設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:CCDF:X:SCALe:AUTO ON

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum
:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet

:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの水平軸(電力)スケールの最大値を設定または問い合わせます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum?

引 数 : <numeric_value>::=<numeric_value> — 水平軸の最大値を設定します。

設定範囲: 0 ~ 15.01 dB

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの水平軸の最大値を 15 dB に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:CCDF:X:SCALe:MAXimum 15dB

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:X[:SCALe]:AUTO

:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの水平軸の開始値を設定または問い合わせます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet?

引 数 : <numeric_value>::=<numeric_value> — 水平軸の開始値を設定します。

設定範囲: 0 ~ 15.01 dB

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの水平軸の開始値を 10 dB に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:CCDF:X:SCALe:OFFSet 10dB

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:X[:SCALe]:AUTO

:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:FIT

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるよう、垂直軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:Y[:SCALe]:FIT

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューでオートスケールを実行します。

:DISPlay:FL1XEVDO:CCDF:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:FULL

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの垂直軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:Y[:SCALe]:FULL

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの垂直軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:CCDF:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの垂直軸の最大値(上端)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — 垂直軸の最大値を設定します。

設定範囲：10 E-9 ~ 100%

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの垂直軸の最大値を90%に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:CCDF:Y:SCALe:MAXimum 90PCT

:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの垂直軸の最小値(下端)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — 垂直軸の最小値を設定します。

設定範囲：10 E-9 ~ 100%

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの垂直軸の最小値を20%に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:CCDF:Y:SCALe:MINimum 20PCT

:DISPlay:Standard:DDEMod サブグループ

:DISPlay:Standard:DDEMod コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のメイン・ビューとサブ・ビューの表示をコントロールします。

コマンド一覧

```
:DISPlay
  :FL1XEVDO|RL1XEVDO
    :DDEMod
      :MView
        :CORDER          HADamard|BREVerse
        :FORMAT          CDPower|MACAccuracy|EVM|MERRor|
                          PERRor|PCGRam|STABle|IQPower
        :X
          [:SCALE]
            :OFFSET     <numeric_value>
            :RANGE      <numeric_value>
        :Y
          [:SCALE]
            :FIT
            :FULL
            :OFFSET     <numeric_value>
            :PUNIT      RELative|ABSolute
            :RANGE      <numeric_value>
      :SVIew
        :FORMAT          SPECtrum|IQPower|CONSta|EVM|
                          MERRor|PERRor
        :X
          [:SCALE]
            :OFFSET     <numeric_value>
            :RANGE      <numeric_value>
        :Y
          [:SCALE]
            :FIT
            :FULL
            :OFFSET     <numeric_value>
            :RANGE      <numeric_value>
```

:DISPlay:Standard:DDEMod:MVView:CORDer (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析に関連したメイン・ビューのコード・オーダを設定または問い合わせます。このコマンドは、コード・ドメイン・パワー測定が選択され、:DISPlay:Standard:DDEMod:MVView:FORMat コマンドが CDPower または PCGram に設定されているときに有効です。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:MVView:CORDer {HADamard|BREVerse}

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:MVView:CORDer?

引 数 : HADamard ハadamard・コード・オーダを指定します。
BREVerse ビット・リバースを指定します。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定でハダマード・コード・オーダを選択します。

:DISPlay:FL1XEVDO:DDEMod:MVView:CORDer HADamard

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:MVView:FORMat

:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:FORMat (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析に関するメイン・ビューの表示フォーマットを設定または問い合わせます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVIEw:FORMat {CDPower|MACCuracy|EVM|MERRor|PERRor|PCGRam|STABle|IQPower}

:DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVIEw:FORMat?

引 数 : 引数と表示フォーマットの関係は、次のとおりです。

引数	表示形式
CDPower	コード・ドメイン・パワー
MACCuracy	変調確度
EVM	EVM (エラー・ベクトル・マグニチュード)
MERRor	振幅誤差
PERRor	位相誤差
PCGRam	パワー・コードグラム
STABle	シンボル・テーブル
IQPower	IQ パワー・グラフ

注 : 引数 CDPower、PCGram、および IQPower は、[:SENSe]:Standard:MEASurement コマンドが CDPower に設定されているときにのみ有効です。また、引数 MACCuracy、EVM、MERRor、PERRor、および STABle は、[:SENSe]:Standard:MEASurement コマンドが MACCuracy に設定されているときにのみ有効です。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定を選択します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVIEw:FORMat CDPower

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVIEw:FORMat
[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:MEASurement

:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:X[:SCALe]:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のメイン・ビューの水平軸の最小値(左端)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:X[:SCALe]:OFFSet <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:X[:SCALe]:OFFSet?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — 水平軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示フォーマットにより異なります。付録 C の表 C-1 を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、メイン・ビューに EVM が表示されているときの水平軸の最小値を 10 chip に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVView:X:SCALe:OFFSet 10

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:X[:SCALe]:RANGe (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のメイン・ビューの水平軸フルスケールを設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:X[:SCALe]:RANGE <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:X[:SCALe]:RANGE?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — メイン・ビューの水平軸フルスケールを設定します。設定範囲は、表示フォーマットにより異なります。付録 C の表 C-1 を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、メイン・ビューに EVM が表示されているときの水平軸フルスケールを 512 chip に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVView:X:SCALe:RANGE 512

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:FIT

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のメイン・ビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、垂直軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:FIT

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のメイン・ビューでオートスケールを実行します。

:DISPlay:FL1XEVDO:DDEMod:MView:Y:SCALe:FIT

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:MView:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:FULL

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のメイン・ビューの垂直軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:FULL

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のメイン・ビューの垂直軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:DDEMod:MView:Y:SCALe:FULL

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:MView:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のメイン・ビューの垂直軸の最小値(下端)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:Y[:SCALe]:OFFSet <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:Y[:SCALe]:OFFSet?

引 数 : <numeric_value> ::= <NRF> — メイン・ビューの垂直軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示フォーマットにより異なります。付録 C の表 C-1 を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、メイン・ビューに EVM が表示されているときの垂直軸の最小値を 10% に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVView:Y:SCALe:OFFSet 10PCT

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:PUNit (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析でのメイン・ビューの垂直軸(電力)単位を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:Y[:SCALe]:PUNit
{RELative|ABSolute}

:DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:Y[:SCALe]:PUNit?

引 数 : RELative 総電力に対する相対チャンネル電力(dB)を表します。
ABSolute 各チャンネルの絶対電力(dBm)を表します。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、メイン・ビューの垂直軸単位を絶対電力(dBm)に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVView:Y:SCALe:PUnit ABSolute

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVView:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:RANGe (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析でのメイン・ビューの垂直軸フルスケールを設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:RANGe <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:RANGe?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — メイン・ビューの垂直軸フルスケールを設定します。設定範囲は、表示フォーマットにより異なります。付録 C の表 C-1 を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、メイン・ビューに EVM が表示されているときの垂直軸フルスケールを 10% に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:DDEMod:MView:Y:SCALe:RANGe 10PCT

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:MView:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIEW:FORMAT (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析に関連したサブビューの表示フォーマットを設定または問い合わせます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:SVIEW:FORMAT {SPECTrum|IQPower|CONStance|EVM|MERRor|PERRor}

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:SVIEW:FORMAT?

引 数 : 引数と表示フォーマットの関係は、次のとおりです。

引数	表示形式
SPECTrum	スペクトラム
IQPower	IQ パワー・グラフ
CONStance	コンスタレーション
EVM	EVM (エラー・ベクトル・マグニチュード)
MERRor	振幅誤差
PERRor	位相誤差

注 : 引数 IQPower は、[:SENSe]:Standard:MEASurement コマンドが CDpower または MACCuracy に設定されているときにのみ有効です。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、サブビューにスペクトラムを表示します。

```
:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIEW:FORMat SPECTrum
```

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVIEw:FORMat
[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:MEASurement

:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIEW:X[:SCALe]:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のサブビューの水平軸の最小値(左端)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:SVIEW:X[:SCALe]:OFFSet <numeric_value>
:DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:SVIEW:X[:SCALe]:OFFSet?

引 数 : <numeric_value> ::= <NRf> — サブビューの水平軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示フォーマットにより異なります。付録 C の表 C-1 を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、サブビューに EVM が表示されているときの水平軸の最小値を 10 chip に設定します。

```
:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIEW:X:SCALe:OFFSet 10
```

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:MVIEw:FORMat

:DISPlay:Standard:DDEMod:SView:X[:SCALe]:RANGe (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のサブビューの水平軸フルスケールを設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:SVIEW:X[:SCALe]:RANGE <numeric_value>
:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:SVIEW:X[:SCALe]:RANGE?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — サブビューの水平軸フルスケールを設定します。設定範囲は、表示フォーマットにより異なります。付録 C の表 C-1 を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、サブビューに EVM が表示されているときの水平軸フルスケールを 512 chip に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:DDEMod:SVIEW:X:SCALe:RANGE 512

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:SVIEW:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:SView:Y[:SCALe]:FIT

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のサブビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、垂直軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:SVIEW:Y[:SCALe]:FIT
引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のサブビューでオートスケールを実行します。

:DISPlay:FL1XEVDO:DDEMod:SVIEW:Y:SCALe:FIT

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:SVIEW:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FULL

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のサブビューの垂直軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FULL

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のサブビューの垂直軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:FULL

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析のサブビューの垂直軸の最小値(下端)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <numeric_value>
:DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — サブビューの垂直軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示フォーマットにより異なります。付録 C の表 C-1 を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、サブビューに EVM が表示されているときの垂直軸の最小値を 10% に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:OFFSet 10PCT

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMAT

:DISPlay:Standard:DDEMod:SView:Y[:SCALe]:RANGe (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、デジタル変調信号解析でのサブビューの垂直軸フルスケールを設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — サブビューの垂直軸フルスケールを設定します。設定範囲は、表示フォーマットにより異なります。付録 C の表 C-1 を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、サブビューに EVM が表示されているときの垂直軸フルスケールを 10% に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:RANGe 10PCT

関連コマンド : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMod:SVIew:FORMAT

:DISPlay:Standard:SPECtrum サブグループ

:DISPlay:Standard:SPECtrum コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定、相互変調測定、スペクトラム・エミッション・マスク測定、および OBW(占有帯域幅)測定でのスペクトラム表示をコントロールします。

コマンド一覧

```
:DISPlay
:FL1XEVDO|RL1XEVDO
:SPECtrum
:X
[:SCALe]
:OFFSet      <numeric_value>
:PDIVsion    <numeric_value>
:Y
[:SCALe]
:FIT
:FULL
:OFFSet      <numeric_value>
:PDIVsion    <numeric_value>
```

:DISPlay:Standard:SPECtrum:X[:SCALe]:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの水平軸の最小値(左端)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:SPECtrum:X[:SCALe]:OFFSet <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:SPECtrum:X[:SCALe]:OFFSet?

引 数 : <numeric_value> ::= <NRf> — スペクトラム・ビューの水平軸の最小値を設定します。設定範囲は、[:SENSe]:FREQuency:BAND コマンドの測定周波数帯の設定によります。詳しくは、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・プログラマ・マニュアル」を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの水平軸の最小値を 100 MHz に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:SPECtrum:X:SCALe:OFFSet 100MHz

:DISPlay:Standard:SPECtrum:X[:SCALe]:PDIvision (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの水平軸スケール(/div)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:SPECtrum:X[:SCALe]:PDIvision <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVD0|RL1XEVD0:SPECtrum:X[:SCALe]:PDIvision?

引 数 : <numeric_value> ::= <NRf> — スペクトラム・ビューの水平軸スケールを設定します。設定範囲は、[:SENSe]:FREQuency:BAND コマンドの測定周波数帯の設定によります。詳しくは、「WCA230A 型／WCA280A 型 ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・プログラマ・マニュアル」を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの水平軸スケールを 100 kHz/div に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:SPECtrum:X:SCALe:PDIvision 100kHz

:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALe]:FIT

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、垂直軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:Y[:SCALe]:FIT

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューでオートスケールを実行します。

```
:DISPlay:FL1XEVDO:SPECtrum:Y:SCALe:FIT
```

:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALe]:FULL

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの垂直軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:Y[:SCALe]:FULL

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの垂直軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

```
:DISPlay:FL1XEVDO:SPECtrum:Y:SCALe:FULL
```

:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALe]:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの垂直軸の最小値(下端)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:Y[:SCALe]:OFFSet <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:Y[:SCALe]:OFFSet?

引 数 : <numeric_value> ::= <NRf> — 垂直軸の最小値を設定します。
設定範囲: -200 dBm ~ 100 dBm

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの垂直軸の最小値を -100 dBm に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:SPECtrum:Y:SCALe:OFFSet -100dBm

:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALe]:PDIvision (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの垂直軸スケール (/div) を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:Y[:SCALe]:PDIvision <numeric_value>
:DISPlay:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:Y[:SCALe]:PDIvision?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — スペクトラム・ビューの水平軸スケールを設定します。
設定範囲 : 0 ~ 10 dB/div

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの垂直軸スケールを 10 dB/div に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:SPECtrum:Y:SCALe:PDIvision 10dB

:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform サブグループ

:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform コマンドでは、1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定での時間領域表示をコントロールします。

コマンド一覧

```
:DISPlay
  :FL1XEVDO
    :WAVeform
      :X
        [:SCALe]
          :OFFSet      <numeric_value>
          :PDIVison   <numeric_value>
      :Y
        [:SCALe]
          :FIT
          :FULL
          :OFFSet      <numeric_value>
          :PDIVison   <numeric_value>
```

:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示の水平軸の最小値(左端)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — 水平軸の最小値を設定します。

設定範囲：約 -416.67 μs ~ 約 415 μs (スパンの設定により時間軸の分解能が変わるため、上限値および下限値はその分解能の倍数で一番近い値になります)

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示の水平軸の最小値を 100 μs に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:X:SCALe:OFFSet -100us

:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:X[:SCALe]:PDIvision (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示の水平軸スケール (/div) を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:X[:SCALe]:PDIvision <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:X[:SCALe]:PDIvision?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — 水平軸スケールを設定します。

設定範囲：約 -0.1627 μs ~ 約 833.33 μs (スパンの設定により時間軸の分解能が変わるために、上限値および下限値はその分解能の倍数で一番近い値になります)

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・ビューの水平軸スケールを 10 μs/div に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:X:SCALe:PDIvision 10us

:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y[:SCALe]:FIT

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示でオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、垂直軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y[:SCALe]:FIT

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示でオートスケールを実行します。

:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示の垂直軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示の垂直軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示の垂直軸の最小値(下端)を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — 垂直軸の最小値を設定します。設定範囲については、付録 C の表 C-1 を参照してください。

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示の垂直軸の最小値を -100 dBm に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:WAVeform:Y:SCALe:OFFSet -100dBm

:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y[:SCALe]:PDIvision (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示の垂直軸スケール (/div) を設定または問合せます。

構 文 : :DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y[:SCALe]:PDIvision <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y[:SCALe]:PDIvision?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — 垂直軸スケールを設定します。

設定範囲 : 10 ~ 1.0E-5 dB

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、時間領域表示の垂直軸スケールを 10 dB/div に設定します。

:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y:SCALe:PDIvision 10dB

:FETCh コマンド

:FETCh コマンドは、測定結果を取得します。入力信号の取り込みは行いません。現在メモリ上にあるデータについて測定結果を算出します。

新たに入力信号を取り込んで、そのデータについて測定結果を取得する場合には、:READ コマンドを使用してください。

注：ヘッダ表記に使用されているイタリック体の *Standard* の文字は、オプション 26 型で使用できる 2 つの測定モード FL1XEVDO および RL1XEVDO を総称したものです。

コマンド一覧

```
:FETCh
  :FL1XEVDO|RL1XEVDO
    :ACPower?
    :CCDF?
    :CDPower?      RESUlt|CDPower|IQPower
    :CHPower?
    :IM?
    :MACCuracy?    RESUlt|MACCuracy|EVM|MERRor|PERRor|STABle
    :OBWidth?
    :PCCChannel?
    :PVTime?
    :SEMask?
    :Distribution
      :CCDF?
    :SPECtrum
      :ACPower?
      :CHPower?
      :IM?
      :OBWidth?
    :TAMPLitude
      :PVTime?
```

:FETCh:Standard:ACPower?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定の結果を取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ACPower?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>,<Chpower>,<Acpr1>,<Acpr2>,<Acpr3>,<Acpr4>,<Acpr5>,<Acpr6>,<Acpr7>,<Acpr8>,<Acpr9>,<Acpr10>,<Acpr11>,<Acpr12>

ここで

<Pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル。

<Chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Acpr1>::=<NRf> — 1 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr2>::=<NRf> — 2 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr3>::=<NRf> — 3 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

.

.

<Acpr10>::=<NRf> — 10 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr11>::=<NRf> — 11 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr12>::=<NRf> — 12 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:ACPower?

次は応答例です。

```
0,-2.045E+001,-6.461E+001,-4.379E+001,-6.576E+001,-6.753E+001,
-6.79E+001,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,
-1.0E+038,-1.0E+038
```

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:Standard:CCDF?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定の結果を取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF?

引 数 : なし

応 答 : <Mean_power>, <Peak_power>, <Crest_factor>

ここで

<Mean_power>::=<NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]

<Peak_power>::=<NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]

<Crest_factor>::=<NRf> — クレスト・ファクタ、単位 [dB]

測定モード : DEMFL1XEVDO, DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:CCDF?

次は応答例です。

-1.757E+001,-9.53E+000,8.04E+000

関連コマンド : :INSTRument[:SElect]

:FETCh:Standard:CDPower?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定の結果を取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower? {RESUlt|CDPower|IQPower}

引 数 :	RESUlt	測定結果
	CDPower	各コードの相対／絶対電力値
	IQPower	選択されたコードの I/Q シンボル電力

応 答 : FL1XEVDO の場合

■ RESUlt:

```
<Pass_fail>,<Total_power>,<ACP_max>,<ACP_avg>,<ACP_total>,<ICP>,
<EVM_peak>,<EVM_rms>,<Merror_peak>,<Merror_rms>,<Perror_peak>,
<Perror_rms>
```

ここで

```
<Pass_fail>::={1|0}—リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル
<Total_power>::=<NRf>—総チャンネル電力測定値、単位 [dBm]
<ACP_max>::=<NRf>—最大アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]
<ACP_avg>::=<NRf>—平均アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]
<ACP_total>::=<NRf>—総アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]
<ICP>::=<NRf>—最大インアクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]
<EVM_peak>::=<NRf>—EVM ピーク測定値、単位 [%]
<EVM_rms>::=<NRf>—EVM rms 測定値、単位 [%]
<Merror_peak>::=<NRf>—振幅誤差ピーク測定値、単位 [%]
<Merror_rms>::=<NRf>—振幅誤差 rms 測定値、単位 [%]
<Perror_peak>::=<NRf>—位相誤差ピーク測定値、単位 [degree]
<Perror_rms>::=<NRf>—位相誤差 rms 測定値、単位 [degree]
```

■ CDPower:

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<ICpower(1)>,<QCpower(1)>,...<ICpower(n)>,
<QCpower(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte>—後に続くデータのバイト数

<ICpower(n)> および <QCpower(n)>—各コードの相対電力値または絶対電力値。メイン・ビューの垂直軸単位が RELative に設定されているときは相対電力値が選択されます。また、メイン・ビューの垂直軸単位が ABSolute に設定されているときは絶対電力値が選択されます。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n：最大 640。

チャンネル・タイプ MAC : n=64、パイロット : n=32、データ : n= 最大 16,
プリアンブル : n= 最大 32

■ IQPower:

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<Ipower(1)>,<Qpower(1)>,...<Ipower(n)>,
<Qpower(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ipower(n)> および <Qpower(n)> — 選択されたコードでの各 I/Q シンボル電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 1024。

チャンネル	チップ	シンボル
すべてを含む	1024	0
MAC	128	2
パイロット	96	3
データ	最大 800	最大 50
プリアンブル	最大 800	最大 25

RL1XEVDO の場合

■ RESult:

```
<Pass_fail>,<Total_power>,<ACP_max>,<ACP_avg>,<ACP_total>,<ICP>,
<Num_AC>,<EVM_peak>,<EVM_rms>,<Merror_peak>,<Merror_rms>,<Perror_peak>,
<Perror_rms>,<PCP2>,<RRI_CP>,<ACK_CP>,<DRC_CP>,<Data_CP>
```

ここで

<Pass_fail>::={1|0}—リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル。

<Total_power>::=<NRf> — 総チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<ACP_max>::=<NRf> — 最大アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<ACP_avg>::=<NRf> — 平均アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<ACP_total>::=<NRf> — 総アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<ICP>::=<NRf> — 最大インアクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<Num_AC>::=<NR1> — アクティブ・チャンネル数

<EVM_peak>::=<NRf> — EVM ピーク測定値、単位 [%]

<EVM_rms>::=<NRf> — EVM rms 測定値、単位 [%]

<Merror_peak>::=<NRf> — 振幅誤差ピーク測定値、単位 [%]

<Merror_rms>::=<NRf> — 振幅誤差 rms 測定値、単位 [%]

<Perror_peak>::=<NRf> — 位相誤差ピーク測定値、単位 [degree]

<Perror_rms>::=<NRf> — 位相誤差 rms 測定値、単位 [degree]

<PCP2>::=<NRf> — RRI チャンネルを除いたパイロット・チャンネル電力測定値、
単位 [dBc]

<RRI_CP>::=<NRf> — パイロット・チャンネルを除いた RRI チャンネル電力測定値、
単位 [dB]

<ACK_CP>::=<NRf> — ACK チャンネル電力測定値、単位 [dB]

<DRC_CP>::=<NRf> — DRC チャンネル電力測定値、単位 [dB]

<Data_CP>::=<NRf> — データ・チャンネル電力測定値、単位 [dB]

■ CDPower:

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<ICpower(1)>,<QCpower(1)>,...<ICpower(n)>,
<QCpower(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<ICpower(n)> および <QCpower(n)> — 各コードの相対電力値または絶対電力値。メイン・ビューの垂直軸単位が RELative に設定されているときは相対電力値が選択されます。また、メイン・ビューの垂直軸単位が ABSolute に設定されているときは絶対電力値が選択されます。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 16。

■ IQPower:

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<Ipower(1)>,<Qpower(1)>,...<Ipower(n)>,
<Qpower(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ipower(n)> および <Qpower(n)> — 選択されたコードでの各 I/Q シンボル電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 1024。チップ : n=1024、シンボル : n=256

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定の結果を取得します。

```
:FETCh:FL1XEVD0:CDPower? REsult
```

次は応答例です。

```
0,-3.32076616615568E+001,-2.33279216292314E-004,
-2.33279216292314E-004,-2.33279216292314E-004,-5.53129098248105E+001,
1.05323582245638E-001,9.3576108554992E-002,-9.71313482041643E-002,
7.27630326866468E-002,4.19705794596374E-002,3.37042668803851E-002
```

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:Standard:CHPower?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定の結果を取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CHPower?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>,<Chpower>,<Power_density>

ここで

<Pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果：1はパス、0はフェイル

<Chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Power_density>::=<NRf> — 電力密度測定値、単位 [dBm/Hz]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:CHPower?

次は応答例です。

1,-2.0339E+001,-8.1238E+001

関連コマンド : :INSTrument[:SELect]

:FETCh:Standard:IM?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定の結果を取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>,<L_channel>,<U_channel>,<L3_lower>,<L3_upper>,<U3_lower>,<U3_upper>,<L5_lower>,<L5_upper>,<U5_lower>,<U5_upper>

ここで

<Pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル

<L_channel>::=<NRf> — 下側チャンネル測定値、単位 [dB]

<U_channel>::=<NRf> — 上側チャンネル測定値、単位 [dB]

<L3_lower>::=<NRf> — 下側 3 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<L3_upper>::=<NRf> — 下側 3 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<U3_lower>::=<NRf> — 上側 3 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<U3_upper>::=<NRf> — 上側 3 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<L5_lower>::=<NRf> — 下側 5 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<L5_upper>::=<NRf> — 下側 5 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<U5_lower>::=<NRf> — 上側 5 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<U5_upper>::=<NRf> — 上側 5 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:IM?

次は応答例です。

```
1,-2.061E+001,-5.501E+001,-1.66E+001,1.78E+001,-4.76E+001,-1.32E+001,
-4.73E+001,-1.29E+001,-5.1E+001,-1.66E+001
```

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:Standard:MACCuracy?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定の結果を取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy? {RESUlt|MACCuracy|EVM|MERRor|PERRor|STABle}

引 数 :	RESUlt	測定結果
	MACCuracy	各シンボルの I/Q 位置
	EVM	各シンボルの EVM
	MERRor	各シンボルの振幅誤差
	PERRor	各シンボルの位相誤差
	STABle	各シンボル・データ

応 答 : **FL1XEVDO の場合**

■ RESUlt:

```
<Pass_fail>,<Rho>,<Rho2>,<Peak_CDE>,<CDE_code>,<CDE_I/Q>,
<EVM_peak>,<EVM_rms>,<Mrror_peak>,<Mrror_rms>,<Perror_peak>,
<Perror_rms>,<Ferror>,<Org_offset>,<Tau>
```

ここで

```
<Pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フエイル
<Rho>::=<NRf> — 波形品質測定値 (Rho)
<Rho2>::=<NRf> — 波形品質測定値 (Rho2) この値は、Measurement Level が Chip に設定され、Channel Type が Overall に設定されている場合に有効です。それ以外の場合は、-1000 が返されます。
<Peak_CDE>::=<NRf> — 測定値、単位 [dB]
<CDE_code>::=<NR1> — CDE コード番号
<CDE_I/Q>::=<NR1> — CDE の IQ チャンネル；0：ドント・ケア、1：I、2：Q
<EVM_peak>::=<NRf> — EVM ピーク測定値、単位 [%]
<EVM_rms>::=<NRf> — EVM rms 測定値、単位 [%]
<Mrror_peak>::=<NRf> — 振幅誤差ピーカー測定値、単位 [%]
<Mrror_rms>::=<NRf> — 振幅誤差 rms 測定値、単位 [%]
<Perror_peak>::=<NRf> — 位相誤差ピーカー測定値、単位 [degree]
<Perror_rms>::=<NRf> — 位相誤差 rms 測定値、単位 [degree]
<Ferror>::=<NRf> — 周波数誤差測定値、単位 [Hz]
<Org_offset>::=<NRf> — 原点オフセット測定値、単位 [Hz]
<Tau>::=<NRf> — タウ測定値、単位 [s]
```

■ MACCuracy:

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<Iposition(1)>,<Qposition(1)>,...<Iposition(n)>,
<Qposition(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Iposition(n)> および <Qposition(n)> — 各シンボルの I/Q 位置。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 1024。

チャンネル	チップ	シンボル
すべてを含む	1024	0
MAC	128	2
パイロット	96	3
データ	最大 800	最大 50
プリアンブル	最大 800	最大 25

■ EVM:

#<Num_digit>,<Num_byte>,<EVM(1)>,...<EVM(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<EVM(n)> — 各シンボルの EVM。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 1024。

チャンネル	チップ	シンボル
すべてを含む	1024	0
MAC	128	2
パイロット	96	3
データ	最大 800	最大 50
プリアンブル	最大 800	最大 25

■ MERRor:

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Merror(1)>,...<Merror(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Merror(n)> — 各シンボルの振幅誤差。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 1024。

チャンネル	チップ	シンボル
すべてを含む	1024	0
MAC	128	2
パイロット	96	3
データ	最大 800	最大 50
プリアンブル	最大 800	最大 25

■ PERRor:

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Perror(1)>,...<Perror(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Perror(n)> — 各シンボルの位相誤差。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 1024。

チャンネル	チップ	シンボル
すべてを含む	1024	0
MAC	128	2
パイロット	96	3
データ	最大 800	最大 50
プリアンブル	最大 800	最大 25

■ STABle:

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Symbol(1)>,...<ICpower(n)>,<Symbol(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Symbol(n)> — 各シンボル・データ。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。この値は、Measurement Level が Symbol に設定されている場合にのみ有効です。それ以外の場合は、-1000 が返されます。

チャンネル・タイプ MAC : n=2、パイロット : n=3、データ : n= 最大 50、
プリアンブル : n= 最大 25

RL1XEVDO の場合

■ RESult:

```
<Pass_fail>,<Rho>,<Peak_CDE>,<CDE_code>,<CDE_I/Q>,
<EVM_peak>,<EVM_rms>,<Merror_peak>,<Merror_rms>,<Perror_peak>,
<Perror_rms>,<Ferror>,<Org_offset>
```

ここで

```
<Pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フエイル  

<Rho>::=<NRf> — 波形品質測定値 (Rho)  

<Peak_CDE>::=<NRf> — 測定値、単位 [dB]  

<CDE_code>::=<NR1> — CDE コード番号  

<CDE_I/Q>::=<NR1> — CDE の IQ チャンネル；0：ドント・ケア、1：I、2：Q  

<EVM_peak>::=<NRf> — EVM ピーク測定値、単位 [%]  

<EVM_rms>::=<NRf> — EVM rms 測定値、単位 [%]  

<Merror_peak>::=<NRf> — 振幅誤差ピーカー測定値、単位 [%]  

<Merror_rms>::=<NRf> — 振幅誤差 rms 測定値、単位 [%]  

<Perror_peak>::=<NRf> — 位相誤差ピーカー測定値、単位 [degree]  

<Perror_rms>::=<NRf> — 位相誤差 rms 測定値、単位 [degree]  

<Ferror>::=<NRf> — 周波数誤差測定値、単位 [Hz]  

<Org_offset>::=<NRf> — 原点オフセット測定値、単位 [Hz]
```

■ MACCuracy:

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<Iposition(1)>,<Qposition(1)>,...<Iposition(n)>,
<Qposition(n)>
```

ここで

```
<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数  

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数  

<Iposition(n)> および <Qposition(n)> — 各シンボルの I/Q 位置。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n：最大 1024。  

測定レベル チップ：n=1024、シンボル：n=256
```

■ EVM:

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<EVM(1)>,...<EVM(n)>
```

ここで

```
<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数  

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数  

<EVM(n)> — 各シンボルの EVM。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n：最大 1024。  

測定レベル チップ：n=1024、シンボル：n=256
```

■ MERRor:

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<Merror(1)>,...<Merror(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Merror(n)> — 各シンボルの振幅誤差。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 1024。

測定レベル チップ : n=1024、シンボル : n=256

■ PERRor:

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<Perror(1)>,...<Perror(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Perror(n)> — 各シンボルの位相誤差。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 1024。

測定レベル チップ : n=1024、シンボル : n=256

■ STABle:

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<Symbol(1)>,...<ICpower(n)>,<Symbol(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Symbol(n)> — 各シンボル・データ。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。この値は、Measurement Level が Symbol に設定されている場合にのみ有効です。それ以外の場合は、-1000 が返されます。n= 最大 256

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定の結果を取得します。

```
:FETCH:FL1XEVDO:MACCuracy? RESult
```

次は応答例です。

```
1,9.99999124351958E-001,-1.0E+003,-5.27257858114915E+001,28,1,
1.05323582245638E-001,9.3576108554992E-002,-9.71313482041643E-002,
7.27630326866468E-002,4.19705794596374E-002,3.37042668803851E-002,
-2.75421142578065E+001,-1.23769373237522E+002,0.0E+000
```

関連コマンド : :INSTrument[:SELect]

:FETCh:Standard:OBWidth?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定の結果を取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:OBWidth?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>,<obw>

ここで

<Pass_fail> ::= {1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル
<obw> ::= <NRf> — 占有帯域幅測定値、単位 [Hz]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:OBWidth?

次は応答例です。

1,1.27333E+006

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:Standard:PCCHannel?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、パケット／コード・チャンネル測定の結果を取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel?

引 数 : なし

応 答 : FL1XEVDO:

<Pass_fail>,<Total_AC>{,<SF(n)>,<Code_num(n)>,<Power(n)>,<Timing(n)>,<Phase(n)>,<I_code(n)>,<Q_code(n)>}

ここで

<Pass_fail> ::= {1|0} — リミット・テスト結果 : 1 は パス、0 は フェイル
 <Total_AC> ::= <NRf> — アクティブ・チャンネルの総数 (MAC : n=2 ~ 60、データ : n=16、プリアンブル : n=1)
 <SF(n)> ::= <NRf> — 拡散係数
 <Code_num(n)> ::= <NR1> — コード番号
 <Power(n)> ::= <NRf> — コード・ドメイン・パワー測定値、単位 [dBm]
 <Timing(n)> ::= <NRf> — パイロット・チャンネル対時間測定値、単位 [s]
 <Phase(n)> ::= <NRf> — パイロット・チャンネル対位相測定値、単位 [rad]
 <I_code(n)> ::= <NRf> — I 位相のコード・ドメイン・エラー測定値、単位 [dBm]
 <Q_code(n)> ::= <NRf> — Q 位相のコード・ドメイン・エラー測定値、単位 [dBm]

RL1XEVDO:

<Pass_fail>, <Total_AC>{, <SF(n)>, <Code_num(n)>, <Power(n)>, <Timing(n)>, <Phase(n)>, <I_code(n)>, <Q_code(n)>}

ここで

<Pass_fail> ::= {1|0} — リミット・テスト結果 : 1 は パス、0 は フェイル
 <Total_AC> ::= <NRf> — アクティブ・チャンネルの総数 (n=1 ~ 4)
 <SF(n)> ::= <NRf> — 拡散係数
 <Code_num(n)> ::= <NR1> — コード番号
 <Power(n)> ::= <NRf> — コード・ドメイン・パワー測定値、単位 [dBm]
 <Timing(n)> ::= <NRf> — パイロット・チャンネル対時間測定値、単位 [s]
 <Phase(n)> ::= <NRf> — パイロット・チャンネル対位相測定値、単位 [rad]
 <I_code(n)> ::= <NRf> — I 位相のコード・ドメイン・エラー測定値、単位 [dBm]
 <Q_code(n)> ::= <NRf> — Q 位相のコード・ドメイン・エラー測定値、単位 [dBm]

測定モード : DEMFL1XEVDO, DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定の結果を取得します。

:FETCH:FL1XEVDO:PCCHannel?

次は応答例です。

```
1,2,6,2,-3.62181797592003E+001,7.95659919582192E-009,
2.46966153831218E-003,-7.2188511413898E+001,-7.25107168870122E+001,6,
34,-3.62224724925938E+001,-7.4505805947922E-010,
-3.11469251014973E-003,-7.1436502569957E+001,-6.58634460703051E+001
```

関連コマンド : :INSTrument[:SELect]

:FETCh:FL1XEVDO:PVTIme?

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO:PVTIme?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>

ここで

<Pass_fail> ::= {1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:PVTIme?

次は応答例です。

1

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:Standard:SEMask?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>

ここで

<Pass_fail> ::= {1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:SEMask?

次は応答例です。

1

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:Standard:DISTribution:CCDF?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定のディストリビューション・データを取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DISTribution:CCDF?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:DISTribution:CCDF?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:Standard:SPECtrum:ACPower?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定のスペクトラム波形データを取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:ACPower?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定のスペクトラム波形データを取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:SPECtrum:ACPower?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:Standard:SPECtrum:CHPower?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、チャネル電力測定のスペクトラム波形データを取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:CHPower?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定のスペクトラム波形データを取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:SPECtrum:ACPower?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:Standard:SPECtrum:IM?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定のスペクトラム波形データを取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:IM?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定のスペクトラム波形データを取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:SPECtrum:IM?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:Standard:SPECtrum:OBWidth?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定のスペクトラム波形データを取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:OBWidth?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定のスペクトラム波形データを取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:SPECtrum:OBWidth?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:FETCh:FL1XEVDO:TAMPlitude:PVTime?

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の時間領域振幅データを取得します。

構 文 : :FETCh:FL1XEVDO:TAMPlitude:PVTime?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVDO:TAMPlitude:PVTime?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:MMEMory コマンド

:MMEMory コマンドでは、ハードディスクとフロッピ・ディスクのファイル操作を行います。

ファイルの取り扱いについての詳細は、「WCA230A 型／WCA280A 型 3GHz/8GHz ポータブル・ワイヤレス・コミュニケーション・アナライザ・ユーザ・マニュアル」を参照してください。

コマンド一覧

```
:MMEMory
  :LOAD
    :LIMit      <file_name>
  :STORe
    :LIMit      <file_name>
    :STABle     <file_name>
```

:MMEMory:LOAD:LIMit

指定したファイルから測定リミットを読み込みます。

構 文 : :MMEMory:LOAD:LIMit <file_name>

引 数 : <file_name>::=<string> — 読み込むファイルを指定します。
ファイルの拡張子は、.lmt です。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : My Documents フォルダにある Test.lmt ファイルから測定リミットを読み込みます。

```
:MMEMory:LOAD:LIMit "C:¥My Documents¥Test.lmt"
```

:MMEMory:STORe:LIMit

指定したファイルに現在の測定リミットを保存します。

構 文 : :MMEMory:STORe:LIMit <file_name>

引 数 : <file_name>::=<string> — 現在の測定リミットを保存するファイルを指定します。
ファイルの拡張子は.lmtです。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 現在の測定リミットを My Documents フォルダの Test.lmt ファイルに保存します。

```
:MMEMory:STORe:LIMit "C:\My Documents\Test.lmt"
```

:MMEMory:STORe:STABle

指定したファイルにシンボル・テーブルを保存します。

構 文 : :MMEMory:STORe:STABle <file_name>

引 数 : <file_name>::=<string> — 保存先のファイルを指定します。
ファイルはテキスト形式で、拡張子は.symです。

データの前に次のヘッダ情報が書き込まれます。

1. 日付と時刻
2. 変調方式
3. シンボル・レート
4. Walsh コード長
5. Walsh コード番号
6. PN オフセット (FL1XEVDO のみ)
7. I ロング・コード・マスク (RL1XEVDO のみ)
8. Q ロング・コード・マスク (RL1XEVDO のみ)
9. チャンネル・タイプ (FL1XEVDO のみ)
10. ハーフ・スロット番号
11. 最初のシンボルのデータ終了点からの時間

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : シンボル・テーブルを My Documents フォルダの Data1.sym ファイルに保存します。

```
:MMEMory:STORe:STABle "C:\My Documents\Data1.sym"
```

:READ コマンド

:READ コマンドは、シングル・モードで1回だけ入力信号を取り込み、そのデータについて測定結果を取得します。

入力信号の取り込みを行わず、現在メモリ上にあるデータについて測定結果を取得する場合には、3-41 ページの :FETCh コマンドを使用してください。

注：ヘッダ表記に使用されているイタリック体の *Standard* の文字は、オプション 26 型で使用できる 2 つの測定モード FL1XEVDO および RL1XEVDO を総称したものです。

コマンド一覧

```
:READ
:FL1XEVDO|RL1XEVDO
:ACPower?
:CCDF?
:CHPower
:IM?
:OBWidth?
:PVTIme?
:SEMask?
:DISTRIBUTion
:CCDF?
:SPECTrum
:ACPower?
:CHPower?
:IM?
:OBWidth?
:TAMPplitude
:PVTIme?
```

注：:READ サブシステムには、:CDPower?、:MACCuracy?、および :PCCHannel? コマンドはありません。これらの測定結果を取得するためには、[:SENSe]:*Standard*[{:IMMediate}] コマンドを使用してください。

:READ:Standard:ACPower?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定の結果を取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:ACPower?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>,<Chpower>,<Acpr1>,<cpr2>,<Acpr3>,<Acpr4>,<Acpr5>,<Acpr6>,<Acpr7>,<Acpr8>,<Acpr9>,<Acpr10>,<Acpr11>,<Acpr12>

ここで

<Pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル。

<Chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Acpr1>::=<NRf> — 1 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr2>::=<NRf> — 2 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr3>::=<NRf> — 3 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

.

.

<Acpr10>::=<NRf> — 10 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr11>::=<NRf> — 11 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr12>::=<NRf> — 12 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVDO:ACPower?

次は応答例です。

```
0,-2.048E+001,-6.29E+001,-4.248E+001,-6.526E+001,-6.607E+001,
-6.79E+001,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,
-1.0E+038,-1.0E+038
```

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:READ:Standard:CCDF?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定の結果を取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF?

引 数 : なし

応 答 : <Mean_power>, <Peak_power>, <Crest_factor>

ここで

<Mean_power> ::= <NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]

<Peak_power> ::= <NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]

<Crest_factor> ::= <NRf> — クレスト・ファクタ、単位 [dB]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVDO:CCDF?

次は応答例です。

-2.043E+001,-9.75E+000,1.068E+001

関連コマンド : :INSTrument[:SELect]

:READ:Standard:CHPower?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定の結果を取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CHPower?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>,<Chpower>,<Power_density>

ここで

<Pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果：1はパス、0はフェイル

<Chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Power_density>::=<NRf> — 電力密度測定値、単位 [dBm/Hz]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVDO:CHPower?

次は応答例です。

1,-2.0375E+001,-8.1274E+001

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:READ:Standard:IM?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定の結果を取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>,<L_channel>,<U_channel>,<L3_lower>,<L3_upper>,<U3_lower>,<U3_upper>,<L5_lower>,<L5_upper>,<U5_lower>,<U5_upper>

ここで

<Pass_fail> ::= {1|0} — リミット・テスト結果 : 1 は パス、0 は フェイル
 <L_channel> ::= <NRf> — 下側チャンネル測定値、単位 [dB]
 <U_channel> ::= <NRf> — 上側チャンネル測定値、単位 [dB]
 <L3_lower> ::= <NRf> — 下側 3 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]
 <L3_upper> ::= <NRf> — 下側 3 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]
 <U3_lower> ::= <NRf> — 上側 3 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]
 <U3_upper> ::= <NRf> — 上側 3 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]
 <L5_lower> ::= <NRf> — 下側 5 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]
 <L5_upper> ::= <NRf> — 下側 5 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]
 <U5_lower> ::= <NRf> — 上側 5 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]
 <U5_upper> ::= <NRf> — 上側 5 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVDO:IM?

次は応答例です。

1,-2.058E+001,-5.446E+001,-1.68E+001,1.71E+001,-4.76E+001,-1.37E+001,
 -4.73E+001,-1.34E+001,-5.11E+001,-1.72E+001

関連コマンド : :INSTrument[:SELect]

:READ:Standard:OBWidth?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定の結果を取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:OBWidth?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>,<obw>

ここで

<Pass_fail> ::= {1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル
<obw> ::= <NRf> — 占有帯域幅測定値、単位 [Hz]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVDO:OBWidth?

次は応答例です。

1,1.26763E+006

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:READ:FL1XEVDO:PVTime?

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO:PVTime?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>

ここで

<Pass_fail> ::= {1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVDO:PVTIME?

次は応答例です。

1

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:READ:Standard:SEMask?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask?

引 数 : なし

応 答 : <Pass_fail>

ここで

<Pass_fail> ::= {1|0} — リミット・テスト結果：1 は パス、0 は フェイル

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVDO:SEMask?

次は応答例です。

1

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:READ:Standard:DISTribution:CCDF?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定のディストリビューション・データを取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DISTribution:CCDF?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVDO:DISTribution:CCDF?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:READ:Standard:SPECtrum:ACPower?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定のスペクトラム波形データを取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:ACPower?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定のスペクトラム波形データを取得します。

:READ:FL1XEVDO:SPECtrum:ACPower?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:READ:Standard:SPECtrum:CHPower?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定のスペクトラム波形データを取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:CHPower?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定のスペクトラム波形データを取得します。

:READ:FL1XEVDO:SPECtrum:ACPower?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:READ:Standard:SPECtrum:IM?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定のスペクトラム波形データを取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:IM?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定のスペクトラム波形データを取得します。

:READ:FL1XEVDO:SPECtrum:IM?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTRument[:SELect]

:READ:Standard:SPECtrum:OBWidth?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定のスペクトラム波形データを取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:OBWidth?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定のスペクトラム波形データを取得します。

:READ:FL1XEVDO:SPECtrum:OBWidth?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTrument[:SELect]

:READ:FL1XEVDO:TAMPlitude:PVTime?

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の時間領域振幅データを取得します。

構 文 : :READ:FL1XEVDO:TAMPlitude:PVTime?

引 数 : なし

応 答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVDO:TAMPlitude:PVTime?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド : :INSTrument[:SELect]

:SENSe コマンド

注：ヘッダ表記に使用されているイタリック体の *Standard* の文字は、オプション 26 型で使用できる 2 つの測定モード FL1XEVDO および RL1XEVDO を総称したものです。

:SENSe コマンドは、各測定に対して、詳細な設定を行います。:SENSe コマンドは、次のサブグループに分けられます。

表 3-9: :SENSe コマンドのサブグループ

コマンド・ヘッダ	機能	ページ
[:SENSe]:Standard	フォワード・リンク測定またはリバース・リンク測定全般に関する測定の設定	3-78 ページ
[:SENSe]:Standard:ACPower	ACPR 測定の設定	3-84 ページ
[:SENSe]:Standard:CCDF	CCDF 測定の設定	3-87 ページ
[:SENSe]:Standard:CDPower	コード・ドメイン・パワー測定の設定	3-89 ページ
[:SENSe]:Standard:CHPower	チャンネル電力測定の設定	3-94 ページ
[:SENSe]:Standard:IM	相互変調測定の設定	3-97 ページ
[:SENSe]:Standard:MACCuracy	変調確度測定の設定	3-101 ページ
[:SENSe]:Standard:OBWidth	占有帯域幅測定の設定	3-110 ページ
[:SENSe]:Standard:PCCHannel	パイロット／コード・チャンネル測定の設定	3-112 ページ
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTtime	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の設定	3-118 ページ
[:SENSe]:Standard:SEMask	スペクトラム・エミッション・マスク測定の設定	3-122 ページ

[SENSe]:Standard サブグループ

[SENSe]:Standard コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク測定全般に関する設定を行います。

コマンド一覧

```
[SENSe]
  :FL1XEVDO|RL1XEVDO
    :ACQuisition
      :CHIPs      <numeric_value>
      :HISTORY    <numeric_value>
      :SEConds    <numeric_value>
    :ANALysis
      :INTerval   <numeric_value>
      :OFFSet     <numeric_value>
      :BLOCK      <numeric_value>
    [:IMMEDIATE]
    :MEASurement  CHPower|ACPower|IM|SEMask|CDPower|MAccuracy|
                  CCDF|PVTime|PCChannel|OBWidth|OFF
    :SPECtrum
      :OFFSet     <numeric_value>
      :TINTerval
```

[SENSe]:Standard:ACQuisition:CHIPs (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、解析範囲をチップ単位で設定または問合せます。

構 文 : [SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:ACQuisition:CHIPs <numeric_value>

[SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:ACQuisition:CHIPs?

引 数 : <numeric_value> ::= <NR1> — 解析範囲をチップ単位で設定します。
設定範囲 : 6144 ~ (スパンとメモリ長によって決まる値)

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、解析範囲を 10240 に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:ACQuisition:CHIPs 10240

[:SENSe]:Standard:ACQuisition:HISTory (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、解析するブロックの番号を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ACQuisition:HISTory <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ACQuisition:HISTory?

引 数 : <numeric_value>::=<NR1> — 解析するブロックの番号を設定します。

設定範囲：(スパン設定とメモリ長によって決まる値) ~ 0

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、解析するブロックの番号を 0 に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVD0:ACQuisition:HISTory 0
```

[:SENSe]:Standard:ACQuisition:SEConds (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、解析範囲を秒単位で設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ACQuisition:SEConds <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ACQuisition:SEConds?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — 解析範囲を秒単位で設定します。

設定範囲：4.988 ms ~ (スパンとメモリ長によって決まる値)

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、解析範囲を 9.163 ms に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVD0:ACQuisition:SEConds 9.163E-3
```

[SENSe]:Standard:ANALysis:INTerval (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、解析間隔をハーフ・スロット単位で設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ANALysis:INTerval <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ANALysis:INTerval?

引 数 : <numeric_value>::=<NR1> — 解析間隔をハーフ・スロット単位で設定します。
設定範囲は、解析範囲の設定値によります。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、解析間隔を10 ハーフ・スロットに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:ANALysis:INTerval 10

[SENSe]:Standard:ANALysis:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、解析範囲の始点をハーフ・スロット単位で設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ANALysis:OFFSet <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ANALysis:OFFSet?

引 数 : <numeric_value>::=<NR1> — 解析範囲の始点をハーフ・スロット単位で設定します。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、解析範囲の始点を10 ハーフ・スロットに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:ANALysis:OFFSet 10

[:SENSe]:Standard:BLOCK (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、解析するブロック番号を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:BLOCK <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:BLOCK?

引 数 : <numeric_value>::=<NR1> — 解析するブロック番号を設定します。

設定範囲：-M ~ 0 (M : 取り込まれたブロック数)

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ブロック番号を -5 に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:BLOCK -5
```

[:SENSe]:Standard[:IMMEDIATE]

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、取り込んだデータの演算を実行します。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO[:IMMEDIATE]

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、取り込んだデータの演算を実行します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:IMMEDIATE
```

[SENSe]:Standard:MEASurement (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、測定項目を設定または問い合わせます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MEASurement {CHPower|ACPower|IM|SEMask|CDPower|MACAccuracy|CCDF|PVTime|PCCChannel|OBWidth|OFF}

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MEASurement?

引 数 : 引数と測定項目の関係は、次のとおりです。

引数	測定項目
CHPower	チャンネル電力測定
ACPower	ACPR 測定
IM	相互変調測定
SEMask	スペクトラム・エミッション・マスク測定
CDPower	コード・ドメイン・パワー測定
MACAccuracy	変調確度測定
CCDF	CCDF 測定
PVTime*	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定
PCCChannel	パイルオフ/コード・チャンネル測定
OBWidth	占有帯域幅測定
OFF	測定を中止します。

* FL1XEVDO が選択されているときにのみ有効。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定を選択します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:MEASurement CCDF
```

[SENSe]:Standard:SPECtrum:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラムの FFT 处理範囲の始点を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:OFFSet <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SPECtrum:OFFSet?

引 数 : <numeric_value> ::= <NR> — FFT 处理範囲の始点を設定します。
設定範囲 : 0 ~ 26.56 ms

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、FFT 处理範囲の始点を 10 ms に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVD0:SPECtrum:OFFSet 10ms
```

[SENSe]:Standard:SPECtrum:TINTerval ?

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム波形を構成する時間領域情報の時間長を返します。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:SPECtrum:TINTerval?

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、時間領域情報の時間長を返します。

```
:SENSe:FL1XEVD0:SPECtrum:TINTerval?
```

[SENSe]:Standard:ACPower サブグループ

[SENSe]:Standard:ACPower コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[SENSe]
  :FL1XEVDO|RL1XEVDO
    :ACPower
      :BANDwidth|BWIDth
        :INTegration <numeric_value>
      :FILTter
        :COEFFicient <numeric_value>
        :TYPE RECTangle|GAUSSian|NYQuist|
          RNYQuist
      :LIMit
        :ADJacent[1]|2|3..|12
      [:STATe] <boolean>
```

[SENSe]:Standard:ACPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定の主チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構 文 : [SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:ACPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration
 <numeric_value>

[SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:ACPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration?

引 数 : <numeric_value>::=<NRF> — ACPR 測定の主チャンネル帯域幅を設定します。
 設定範囲：スパン／20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定の主チャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:ACPower:BANDwidth:INTegration 2.5MHz

[:SENSe]:Standard:ACPower:FILTter:COEFFcient (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定のためのフィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ACPower:FILTter:COEFFcient <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ACPower:FILTter:COEFFcient?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。

設定範囲 : 0 ~ 1

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:ACPower:FILTter:COEFFcient 0.5

[:SENSe]:Standard:ACPower:FILTter:TYPE (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定のフィルタを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ACPower:FILTter:TYPE {RECTangle|GAUSSian
|NYQuist|RNYQuist}

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:ACPower:FILTter:TYPE?

引 数 : 引数とフィルタの関係は、次のとおりです。

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定でナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:FL1XEVD0:ACPower:FILTter:TYPE NYQuist

[SENSe]:Standard:ACPower:LIMit:ADJacent[1]|2|3..|12[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定のための隣接チャンネル・リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:ACPower:LIMit:ADJacent[1]|2|3..|12
[:STATe] <boolean>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:ACPower:LIMit:ADJacent[1]|2|3..|12[:STATe]?

ADJacent[1]|2|3..|12 は、次のように定義されます。

ADJacent[1] : 1 次隣接チャンネル

ADJacent2 : 2 次隣接チャンネル

ADJacent3 : 3 次隣接チャンネル

.

.

ADJacent12 : 12 次隣接チャンネル

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}

ON または 1 隣接チャンネルリミット・テストを有効にします。

OFF または 0 隣接チャンネルリミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定の 1 次隣接チャンネル・リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVDO:ACPower:LIMit:ADJacent1 ON

[:SENSe]:Standard:CCDF サブグループ

:SENSe:Standard:CCDF コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  : FL1XEVDO|RL1XEVDO
    :CCDF
      :RMEasurement
        :THreshold <numeric_value>
```

[:SENSe]:Standard:CCDF:RMEasurement

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF の計算処理をクリアし、再実行します。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:RMEasurement

引 数 : なし

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF の計算処理をクリアし、再実行します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:CCDF:RMEasurement
```

[SENSe]:Standard:CCDF:THreshold (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定のスレッショルドを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:THreshold <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CCDF:THreshold?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — CCDF 測定のスレッショルドを設定します。

設定範囲 : -250 ~ 130 dBm

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定のスレッショルドを -100 dBm に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:CCDF:THreshold -100dB

[:SENSe]:Standard:CDPower サブグループ

:SENSe:Standard:CDPower コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいてコード・ドメイン・パワー測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  :FL1XEVDO|RL1XEVDO
    :CDPower
      :ACCThreshold      <numeric_value>
      :CHANnel
        [:TYPE]          MAC|PILOT|DATA|PREamble|OVERall
      :FILTer
        :MEASurement     OFF|EQComp|COMP
      :IQSwap
      :LCMask
        :I                <num1>,<num2>,<num3>
        :Q                <num1>,<num2>,<num3>
      :MLEvel
      :PNOFFset         <numeric_value>
      :SElect
        :CODE            <numeric_value>
        :HSLot           <numeric_value>
```

[:SENSe]:Standard:CDPower:ACCThreshold (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベル(コード・チャンネルがアクティブになるかどうかを決めるレベル)を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:ACCThreshold <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:ACCThreshold?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — アクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを設定します。

設定範囲：-100 ~ 0 dB

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを-27 dB に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:CDPower:ACCThreshold -27dB

[SENSe]:Standard:CDPower:CHANnel[:TYPE] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定のチャンネル・タイプを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:CHANnel[:TYPE]{MAC|PILot|DATA|PREamble|OVERall}

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:CHANnel[:TYPE]?

引 数 :

- MAC — MAC チャンネルを選択します。
- PILot — パイロット・チャンネルを選択します。
- DATA — データ・チャンネルを選択します。
- PREamble — プリアンブル・チャンネルを選択します。
- OVERall — すべてのチャンネルを選択します。この引数は、:DISPLAY:Standard:DDE-Mod:VIEW:FORMAT コマンドで IQPower が選択されているときにのみ有効です。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定のチャンネル・タイプを MAC に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:CDPower:CHANnel:TYPE MAC
```

[SENSe]:Standard:CDPower:FILTter:MEASurement (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定の測定フィルタを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:FILTter:MEASurement {OFF|EQComp|COMP}

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:FILTter:MEASurement?

引 数 :

- OFF — 測定フィルタを使用しません。
- EQComp — コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザを選択します。
- COMP — コンプリメンタリ・フィルタを選択します。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定の測定フィルタとしてコンプリメンタリ・フィルタを選択します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:CDPower:FILTter:MEASurement COMP
```

[:SENSe]:Standard:CDPower:IQSWap (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定での IQ データ・スワッピングの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:CDPower:IQSWap <boolean>
[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:CDPower:IQSWap?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}
ON または 1 IQ データのスワッピングを有効にします。
OFF または 0 IQ データのスワッピングを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定での IQ データ・スワッピングを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:CDPower:IQSWap ON

[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:I (?)

1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定での I ロング・コード・マスクの値を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:I <num1>,<num2>,<num3>
[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:I?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}
<num1> I ロング・コード・マスクの上位 3 枠。
設定範囲 : #H0 (0) ~ #H3FF (1023)
<num2> I ロング・コード・マスクの中央 4 枠。
設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)
<num3> I ロング・コード・マスクの下位位 4 枠。
設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード : DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定での I ロング・コード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

:SENSe:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:I 3FF,FFFF,FFFF

[SENSe]:RL1XEVDO:CDPower:LCMask:Q (?)

1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定での Q ロング・コード・マスクの値を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:RL1XEVDO:CDPower:LCMask:Q <num1>,<num2>,<num3>

[:SENSe]:RL1XEVDO:CDPower:LCMask:Q?

引 数 : <num1> Q ロング・コード・マスクの上位 3 桁。

設定範囲 : #H0 (0) ~ #H3FF (1023)

<num2> Q ロング・コード・マスクの中央 4 桁。

設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

<num3> Q ロング・コード・マスクの下位位 4 桁。

設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード : DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定での Q ロング・コード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

:SENSe:RL1XEVDO:CDPower:LCMask:Q 3FF,FFFF,FFFF

[SENSe]:Standard:CDPower:MLEVel (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定での測定レベルを設定または問合せます。この設定は、:DISPLAY:STANDARD:DDEMODO:MVIEW:FORMAT コマンドが IQPower に設定されているときにのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:MLEVel {CHIP|SYMBOL}

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:MLEVel?

引 数 : CHIP チップ・レベルに設定します。

SYMBOL シンボル・レベルに設定します。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定での測定レベルをチップ・レベルに設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:CDPower:MLEVel CHIP

関連コマンド : :DISPLAY:FL1XEVDO|RL1XEVDO:DDEMODO:MVIEW:FORMAT

[:SENSe]:FL1XEVDO:CDPower:PNOFFset (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定での PN オフセットを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:CDPower:PNOFFset <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO:CDPower:PNOFFset?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — PN オフセットを 64 チップ単位で設定します。

設定範囲 : 0 ~ 511

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定での PN オフセットを 100 に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:CDPower:PNOFFset 100

[:SENSe]:Standard:CDPower:SElect:CODE (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定でのハーフ・スロット内のコード番号を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:SElect:CODE <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:SElect:CODE?

引 数 : <numeric_value>::=<NR1> — ハーフ・スロット内のコード番号を指定します。

設定範囲は、次のとおりです。

- FL1XEVDO :

チャンネル・タイプ	範囲
パイロット	0 ~ 31
MAC	0 ~ 63
データ	0 ~ 15
プリアンブル	0 ~ 31

- RL1XEVDO : 0 ~ 15

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定でのハーフ・スロット内のコード番号を 30 に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:CDPower:SElect:CODE 30

[SENSe]:Standard:CDPower:SElect:HSLot (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定でのハーフ・スロットを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:SElect:HSLot <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CDPower:SElect:HSLot?

引 数 : <numeric_value>::=<NR1> — ハーフ・スロットを指定します。

設定範囲 : - (解析されたチップ数 - 1) ~ 0

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、コード・ドメイン・パワー測定でのハーフ・スロットを -10 に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:CDPower:SElect:HSLot -10

[SENSe]:Standard:CHPower サブグループ

[SENSe]:Standard:CHPower コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[SENSe]
  :FL1XEVDO|RL1XEVDO
    :CHPower
      :BANDwidth|BWIDth
        :INTegration      <numeric_value>
      :FILTter
        :COEFFcient      <numeric_value>
        :TYPE             RECTangle|GAUSSian|NYQuist|RNYQuist
      :LIMit
        [:STATE]          <boolean>
```

[:SENSe]:Standard:CHPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定の主チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:CHPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration
<numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:CHPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — チャンネル電力測定のチャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲：スパン/20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定のチャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:CHPower:BANDwidth:INTegration 2.5MHz

[:SENSe]:Standard:CHPower:FILTter:COEfficient (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定のためのフィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:Standard:CHPower:FILTter:TYPE コマンドが NYQuist または RNYQuist に設定されているときにのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:CHPower:FILTter:COEfficient <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:CHPower:FILTter:COEfficient?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲：0.0001 ~ 1 (デフォルト値：0.5)

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.1 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:CHPower:FILTter:COEfficient 0.1

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:CHPower:FILTter:TYPE

[SENSe]:Standard:CHPower:FILTter:TYPE (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定のフィルタを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CHPower:FILTter:TYPE {RECTangle|GAUSSian
|NYQuist|RNYQuist}
[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CHPower:FILTter:TYPE?

引 数 : 引数とフィルタの関係は、次のとおりです。

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定でナイキスト・フィルタを選択します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:CHPower:FILTter:TYPE NYQuist
```

[SENSe]:Standard:CHPower:LIMit[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定のリミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CHPower:LIMit[:STATe] <boolean>
[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:CHPower:LIMit[:STATe]?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}
ON または 1 リミット・テストを有効にします。
OFF または 0 リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、チャンネル電力測定のリミット・テストを有効にします。

```
:SENSe:FL1XEVDO:CHPower:LIMit:STATe ON
```

[:SENSe]:Standard:IM サブグループ

[:SENSe]:Standard:IM コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  : FL1XEVDO|RL1XEVDO
    :IM
      :BANDwidth|BWIDth
        :INTegration      <numeric_value>
      :FILTer
        :COEFFicient      <numeric_value>
        :TYPE              RECTangle|GAUSSian|NYQuist|RNYQuist
      :LIMit
        :LFORDer
          [:STATE]        <boolean>
        :TORDer
          [:STATE]        <boolean>
        :SCOFFset         <numeric_value>
```

[:SENSe]:Standard:IM:BANDwidth|BWIDth:INTegration (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定のチャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:BANDwidth|BWIDth:INTegration
 <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:BANDwidth|BWIDth:INTegration?

引 数 : <numeric_value>:=<NRf> — 相互変調測定のチャンネル帯域幅を設定します。
 設定範囲：スパン／20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定の主チャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:IM:BANDwidth:INTegration 2.5MHz

[SENSe]:Standard:IM:FILTter:COEfficient (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定のためのフィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:Standard:IM:FILTter:TYPE コマンドが NYQuist または RNYQuist に設定されているときのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:FILTter:COEfficient <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:FILTter:COEfficient?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲 : 0.000 ~ 1 (デフォルト値 : 0.5)

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.1 に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:IM:FILTter:COEfficient 0.1
```

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:FILTter:TYPE

[SENSe]:Standard:IM:FILTter:TYPE (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定のフィルタを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:FILTter:TYPE {RECTangle|GAUSSian
|NYQuist|RNYQuist}

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:FILTter:TYPE?

引 数 : 引数とフィルタの関係は、次のとおりです。

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定でナイキスト・フィルタを選択します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:IM:FILTter:TYPE NYQuist
```

[:SENSe]:Standard:IM:LIMit:FORDer[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定での 5 次高調波のリミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:LIMit:FORDer[:STATe] <boolean>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:LIMit:FORDer[:STATe]?

引 数 : <boolean>:::{ON|OFF|1|0}

ON または 1 5 次高調波のリミット・テストを有効にします。

OFF または 0 5 次高調波のリミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定での 5 次高調波のリミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVDO:IM:LIMit:FORDer:STATe ON

[:SENSe]:Standard:IM:LIMit:TORDer[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定での 3 次高調波のリミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:LIMit:TORDer[:STATe] <boolean>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:IM:LIMit:TORDer[:STATe]?

引 数 : <boolean>:::{ON|OFF|1|0}

ON または 1 3 次高調波のリミット・テストを有効にします。

OFF または 0 3 次高調波のリミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定での 3 次高調波のリミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVDO:IM:LIMit:TORDer:STATe ON

[SENSe]:Standard:IM:SCOOffset (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定の第 2 チャンネル周波数を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:IM:SCOOffset <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:IM:SCOOffset?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — 相互変調測定の第 2 チャンネル周波数を設定します。

設定範囲：-スパン／2 ~ +スパン／2 [Hz]

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、相互変調測定の第 2 チャンネル周波数を 1.5 MHz に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:IM:SCOOffset 1.5MHz

[:SENSe]:Standard:MACCuracy サブグループ

:SENSe:Standard:MACCuracy コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて変調確度測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  : FL1XEVDO|RL1XEVDO
    :MACCuracy
      :ACCThreshold      <numeric_value>
      :CHANnel
        [:TYPE]          MAC|PILot|DATA|PREamble|OVERall
      :FILTer
        :MEASurement     OFF|EQComp|COMP
      :IQSwap
      :LCMask
        :I                <num1>,<num2>,<num3>
        :Q                <num1>,<num2>,<num3>
      :LIMit
      :EVM
        :PEAK
          [:STATe]       <boolean>
        :RMS
          [:STATe]       <boolean>
        :PCDerror
          [:STATe]       <boolean>
        :RHO
          [:STATe]       <boolean>
        :TAU
          [:STATe]       <boolean>
        :MLEvel
        :PNOFFset        <numeric_value>
      :SElect
        :CODE            <numeric_value>
        :HSLot           <numeric_value>
```

[SENSe]:Standard:MACCuracy:ACCThreshold (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベル(コード・チャンネルがアクティブになるかどうかを決めるレベル)を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:ACCThreshold <numeric_value>
[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:ACCThreshold?

引 数 : <numeric_value>::=<Nrf> — アクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを設定します。
設定範囲 : -100 ~ 0 dB

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを-27 dB に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:MACCuracy:ACCThreshold -27dB
```

[SENSe]:Standard:MACCuracy:CHANnel[:TYPE] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定のチャンネル・タイプを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:CHANnel[:TYPE]{MAC|PILot|DATA
|PREamble|OVERall}
[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:CHANnel[:TYPE]?

引 数 : MAC — MAC チャンネルを選択します。
PILot — パイロット・チャンネルを選択します。
DATA — データ・チャンネルを選択します。
PREamble — プリアンブル・チャンネルを選択します。
OVERall — すべてのチャンネルを選択します。この引数は、:DISPlay:Standard:MACCuracy コマンドで CHIP が選択されているときにのみ有効です。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定のチャンネル・タイプを MAC に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:MACCuracy:CHANnel:TYPE MAC
```

[:SENSe]:Standard:MACCuracy:FILTer:MEASurement (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定の測定フィルタを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:FILTer:MEASurement {OFF|EQComp|COMP}

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:FILTer:MEASurement?

引 数 : OFF — 測定フィルタを使用しません。

EQComp — コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザを選択します。

COMP — コンプリメンタリ・フィルタを選択します。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定の測定フィルタとしてコンプリメンタリ・フィルタを選択します。

:SENSe:FL1XEVDO:MACCuracy:FILTer:MEASurement COMP

[:SENSe]:Standard:MACCuracy:IQSswap (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での IQ データ・スワッピングの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:IQSswap <boolean>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:IQSswap?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}

ON または 1 IQ データのスワッピングを有効にします。

OFF または 0 IQ データのスワッピングを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での IQ データ・スワッピングを有効にします。

:SENSe:FL1XEVDO:MACCuracy:IQSswap ON

[SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:I (?)

1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での I ロング・コード・マスクの値を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:I <num1>,<num2>,<num3>

[:SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:I?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}

<num1> I ロング・コード・マスクの上位 3 桁。

設定範囲 : #H0 (0) ~ #H3FF (1023)

<num2> I ロング・コード・マスクの中央 4 桁。

設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

<num3> I ロング・コード・マスクの下位位 4 桁。

設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード : DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での I ロング・コード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

:SENSe:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:I 3FF,FFFF,FFFF

[SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:Q (?)

1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での Q ロング・コード・マスクの値を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:Q <num1>,<num2>,<num3>

[:SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:Q?

引 数 : <num1> Q ロング・コード・マスクの上位 3 桁。

設定範囲 : #H0 (0) ~ #H3FF (1023)

<num2> Q ロング・コード・マスクの中央 4 桁。

設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

<num3> Q ロング・コード・マスクの下位位 4 桁。

設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード : DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での Q ロング・コード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

:SENSe:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:Q 3FF,FFFF,FFFF

[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのピーク EVM リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe] <boolean>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe]?

引 数 : <boolean>:::{ON|OFF|1|0}

ON または 1 ピーク EVM リミット・テストを有効にします。
OFF または 0 ピーク EVM リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのピーク EVM リミット・テストを有効にします。

```
:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK:STATe ON
```

[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での rms EVM リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe] <boolean>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe]?

引 数 : <boolean>:::{ON|OFF|1|0}

ON または 1 rms EVM リミット・テストを有効にします。
OFF または 0 rms EVM リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での rms EVM リミット・テストを有効にします。

```
:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS:STATe ON
```

[SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe] <boolean>
[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe]?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}
ON または 1 ピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストを有効にします。
OFF または 0 ピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストを有効にします。

```
:SENSe:FL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:PCDerror:STATe ON
```

[SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのロー (ρ) リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe] <boolean>
[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe]?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}
ON または 1 ロー・リミット・テストを有効にします。
OFF または 0 ロー・リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのロー・リミット・テストを有効にします。

```
:SENSe:FL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:RHO:STATe ON
```

[:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのタウ (τ) リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe] <boolean>

[:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe]?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}

ON または 1 タウ・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 タウ・リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのタウ・リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVDO:MACCuracy:LIMit:TAU:STATe ON

[:SENSe]:Standard:MACCuracy:MLEVel (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での測定レベルを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:MLEVel {CHIP|SYMB01}

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:MLEVel?

引 数 : CHIP チップ・レベルに設定します。
SYMB01 シンボル・レベルに設定します。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での測定レベルをチップ・レベルに設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:MACCuracy:MLEVel CHIP

[SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:PNOffset (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での PN オフセットを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:PNOffset <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:PNOffset?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — PN オフセットを 64 チップ単位で設定します。

設定範囲 : 0 ~ 511

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定での PN オフセットを 100 に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:MACCuracy:PNOffset 100
```

[SENSe]:Standard:MACCuracy:SElect:CODE (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのハーフ・スロット内のコード番号を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:SElect:CODE <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:SElect:CODE?

引 数 : <numeric_value>::=<NR1> — ハーフ・スロット内のコード番号を指定します。

設定範囲は、次のとおりです。

- FL1XEVDO :

チャンネル・タイプ	範囲
パイロット	0 ~ 31
MAC	0 ~ 63
データ	0 ~ 15
プリアンブル	0 ~ 31

- RL1XEVDO : 0 ~ 15

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのハーフ・スロット内のコード番号を 30 に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:PCChannel:SElect:CODE 30
```

[:SENSe]:Standard:MACCuracy:SElect:HSLot (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのハーフ・スロットを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:SElect:HSLot <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:MACCuracy:SElect:HSLot?

引 数 : <numeric_value>::=<NR1> — ハーフ・スロットを指定します。

設定範囲 : - (解析されたチップ数 -1) ~ 0

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、変調確度測定でのハーフ・スロットを -10 に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:MACCuracy:SElect:HSLot -10

[SENSe]:Standard:OBWidth サブグループ

:SENSe:Standard:OBWidth コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅 (OBW) 測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[SENSe]
  :FL1XEVDO|RL1XEVDO
  :OBWidth
  :LIMit
    [:STATe]      <boolean>
  :PERCent       <numeric_value>
```

[SENSe]:Standard:OBWidth:LIMit[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定でのリミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:OBWidth:LIMit[:STATe] <boolean>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:OBWidth:LIMit[:STATe]?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}

ON または 1 リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定でのリミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVDO:OBWidth:LIMit:STATe ON

[:SENSe]:Standard:OBWidth:PERCent (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定での占有帯域幅を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:OBWidth:PERCent <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:OBWidth:PERCent?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — 占有帯域幅を設定します。

設定範囲 : 80 ~ 99.99% (デフォルト値 : 99%)

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、占有帯域幅測定での占有帯域幅を 95% に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:OBWidth:PERCent 95PCT

[SENSe]:Standard:PCCHannel サブグループ

:SENSe:Standard:PCCHannel コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいてパイロット／コード・チャンネル測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[SENSe]
  :FL1XEVD0|RL1XEVD0
    :PCCHannel
      :ACCThreshold      <numeric_value>
      :CHANnel
        [:TYPE]          MAC|DATA|PREamble
        :FILTter
          :MEASurement   OFF|EQComp|COMP
        :IQSwap           <boolean>
        :LCMask
          :I              <num1>,<num2>,<num3>
          :Q              <num1>,<num2>,<num3>
        :LIMit
          :PHASE
            [:STATe]      <boolean>
            :TIME
              [:STATe]      <boolean>
            :PNOFFset       <numeric_value>
            :SELect
              :CODE         <numeric_value>
              :HSLot        <numeric_value>
```

[SENSe]:Standard:PCCHannel:ACCThreshold (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベル（コード・チャンネルがアクティブになるかどうかを決めるレベル）を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:PCCHannel:ACCThreshold <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:PCCHannel:ACCThreshold?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — アクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを設定します。

設定範囲：-100 ~ 0 dB

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを -27 dB に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:PCCHannel:ACCThreshold -27dB
```

[:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:CHANnel[:TYPE] (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定のチャンネル・タイプを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:CHANnel[:TYPE] {MAC|DATA|PREamble}
[:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:CHANnel[:TYPE]?

引 数 : MAC — MAC チャンネルを選択します。
DATA — データ・チャンネルを選択します。
PREamble — プリアンブル・チャンネルを選択します。

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定のチャンネル・タイプを MAC に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:PCCHannel:CHANnel:TYPE MAC
```

[:SENSe]:Standard:PCCHannel:FILTter:MEASurement (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定の測定フィルタを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel:FILTter:MEASurement {OFF|EQComp|COMP}
[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel:FILTter:MEASurement?

引 数 : OFF — 測定フィルタを使用しません。
EQComp — コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザを選択します。
COMP — コンプリメンタリ・フィルタを選択します。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定の測定フィルタとしてコンプリメンタリ・フィルタを選択します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:PCCHannel:FILTter:MEASurement COMP
```

[SENSe]:Standard:PCCHannel:IQSwap (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での IQ データ・スワッピングの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:PCCHannel:IQSwap <boolean>
[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:PCCHannel:IQSwap?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}
ON または 1 IQ データのスワッピングを有効にします。
OFF または 0 IQ データのスワッピングを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での IQ データ・スワッピングを有効にします。

```
:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:IQSwap ON
```

[SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:I (?)

1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での I ロング・コード・マスクの値を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:I <num1>,<num2>,<num3>
[:SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:I?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}
<num1> I ロング・コード・マスクの上位 3 桁。
設定範囲 : #H0 (0) ~ #H3FF (1023)
<num2> I ロング・コード・マスクの中央 4 桁。
設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)
<num3> I ロング・コード・マスクの下位 4 桁。
設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード : DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での I ロング・コード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

```
:SENSe:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:I 3FF,FFFF,FFFF
```

[:SENSe]:RL1XEVDO:PCCHannel:LCMask:Q (?)

1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での Q ロング・コード・マスクの値を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:RL1XEVDO:PCCHannel:LCMask:Q <num1>,<num2>,<num3>

[:SENSe]:RL1XEVDO:PCCHannel:LCMask:Q?

引 数 : <num1> Q ロング・コード・マスクの上位 3 桁。

設定範囲 : #H0 (0) ~ #H3FF (1023)

<num2> Q ロング・コード・マスクの中央 4 桁。

設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

<num3> Q ロング・コード・マスクの下位 4 桁。

設定範囲 : #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード : DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO リバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での Q ロング・コード・マスクの値を 3FFFFFFF に設定します。

:SENSe:RL1XEVDO:PCCHannel:LCMask:Q 3FF,FFF,FFF

[:SENSe]:Standard:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での位相リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe] <boolean>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe]?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}

ON または 1 位相リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 位相リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での位相リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVDO:PCCHannel:LIMit:PHASe:STATE ON

[SENSe]:Standard:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での時間リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe] <boolean>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe]?

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}

ON または 1 時間リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 時間リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での時間リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVDO:PCCHannel:LIMit:TIME:STATe ON

[SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:PNOffset (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での PN オフセットを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:PNOffset <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:PNOffset?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — PN オフセットを 64 チップ単位で設定します。

設定範囲 : 0 ~ 511

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定での PN オフセットを 100 に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:PCCHannel:PNOffset 100

[SENSe]:Standard:PCCHannel:SELect:CODE (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定でのハーフ・スロット内のコード番号を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel:SElect:CODE <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel:SElect:CODE?

引 数 : <numeric_value>::=<NR1> — ハーフ・スロット内のコード番号を指定します。
設定範囲は、次のとおりです。

- FL1XEVDO :

チャンネル・タイプ	範囲
MAC	0 ~ 1
データ	0 ~ 15
プリアンブル	0

- RL1XEVDO : 0, 0 ~ 1, 0 ~ 2, または 0 ~ 3

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定でのハーフ・スロット内のコード番号を 1 に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:PCCHannel:SElect:CODE 1

[:SENSe]:Standard:PCCHannel:SElect:HSLot (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定でのハーフ・スロットを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel:SElect:HSLot <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:PCCHannel:SElect:HSLot?

引 数 : <numeric_value>::=<NR1> — ハーフ・スロットを指定します。
設定範囲 : - (解析されたチップ数 -1) ~ 0

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、パイロット／コード・チャンネル測定でのハーフ・スロットを -10 に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:PCCHannel:SElect:HSLot -10

[SENSe]:FL1XEVD0:PVTImE サブグループ

:SENSe:FL1XEVD0:PVTImE コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいてゲーテッド・アウトプット・パワー測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  : FL1XEVD0
    :PVTImE
      :BURSt
        :OFFSet      <numeric_value>
        :SYNC        REDGe|MPoint|TPosition
      :LIMit
        :ZONE[1]|2|3|4|5
        [:STATe]     <boolean>
      :RCHannel
        :LEVel      <numeric_value>
        :MODE       AUTO|MANual
      :SLOT
        [:TYPE]     IDLE|ACTive
```

[SENSe]:FL1XEVD0:PVTImE:BURSt:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのトリガ・ポジションとバースト・ポジション間のバースト・オフセットを設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTImE:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定され、[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTImE:BURSt:SYNC コマンドが TPosition に設定されているときにのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVD0:PVTImE:BURSt:OFFSet <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTImE:BURSt:OFFSet?

引 数 : <numeric_value>::=<NRF> — バースト・オフセットを設定します。
設定範囲 : -1 E-3 ~ 1 E-3 [s]

測定モード : DEMFL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのバースト・オフセットを 100 μs に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PVTImE:BURSt:OFFSet 100us

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVD0:PVTImE:SLOT[:TYPE]
[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTImE:BURSt:SYNC

[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:BURSt:SYNC (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のバースト・シンクを設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定されているときにのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:BURSt:SYNC {REDGe|MPoint|TPosition}
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:BURSt:SYNC?

引 数 : REDGe — 立ち上がりエッジを指定します。
MPoint — 中間点を指定します。
TPosition — トリガ・ポジションを指定します。

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のバースト・シンクをトリガ・ポジションに設定します。
:SENSe:FL1XEVDO:PVTIme:BURSt:SYNC TPosition

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:SLOT[:TYPE]

[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:LIMit:ZONE[1]|2|3|4|5[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのゾーン・リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:LIMit:ZONE[1]|2|3|4|5[:STATe] <boolean>
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:LIMit:ZONE[1]|2|3|4|5[:STATe]?

ZONE 1 ~ 5 は、それぞれ、リミット・エディタの Zone A ~ E に対応しています。

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}
ON または 1 ゾーン・リミット・テストを有効にします。
OFF または 0 ゾーン・リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのゾーン 1 のリミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVDO:PVTIme:LIMit:ZONE1:STATe ON

[SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:LEVel (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのリファレンス・チャンネル・レベルを設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:MODE コマンドが MANual に設定されているときにのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:LEVel <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:LEVel?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — リファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
設定範囲 : -150 ~ 30 dBm

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのリファレンス・チャンネル・レベルを -10 dB に設定します。

[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:LEVel -10dB

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:MODE

[SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:MODE (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのリファレンス・チャンネル・レベルのモードを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:MODE {AUTO|MANual}

[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:MODE?

引 数 : AUTO — リファレンス・レベルが入力信号から算出されます。
MANual — リファレンス・レベルを、[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:LEVel コマンドにより設定します。

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのリファレンス・チャンネル・レベルのモードを自動モードに設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:MODE AUTO

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChanneL:LEVel

[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:SLOT[:TYPE] (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのスロット・タイプを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChannell:SLOT {IDLE|ACTIVE}

[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RChannell:SLOT?

引 数 : IDLE — パイロットおよび MAC チャンネルを含むアイドル・スロットを選択します。
ACTIVE — パイロット、MAC、およびデータ・チャンネルを含むアクティブ・スロットを選択します。

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのスロット・タイプをアイドルに設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:PVTIme:SLOT:TYPE IDLE

[SENSe]:Standard:SEMask サブグループ

:SENSe:Standard:SEMask コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいてスペクトラム・エミッション・マスク測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[SENSe]
  :FL1XEVDO|RL1XEVDO
    :SEMask
      :BANDwidth|BWIDth
        :INTegration      <numeric_value>
      :BURSt
        :OFFSet            <numeric_value>
        :SYNC              REDGe|MPoint|TPosition
      :FILTer
        :COEFFicient      <numeric_value>
        :TYPE              RECTangle|GAUssian|NYQuist|RNYQuist
      :LIMit
        :ISPurious
          :ZONE[1]|2|3|4|5
            [:STATE]      <boolean>
        :OFCHannel
          :ZONE[1]|2|3|4|5
            [:STATE]      <boolean>
        :MEASurement      OFCHannel|ISPurious
        :RCHannel
          :LEVel           <numeric_value>
          :MODE             AUTO|MANual
        :SLOT
          :GATE            <numeric_value>
            [:TYPE]        IDLE|ACTIVE
```

[SENSe]:Standard:SEMask:BANDwidth|BWIDth:INTegration (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定のチャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:BANDwidth|BWIDth:INTegration

<numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:BANDwidth|BWIDth:INTegration?

引 数 : <numeric_value>::=<NRF> — スペクトラム・エミッション・マスク測定のチャンネル帯域幅を設定します。

設定範囲：スパン／20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定のチャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:SEMask:BANDwidth:INTegration 2.5MHz
```

[:SENSe]:Standard:SEMask:BURSt:OFFSet (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定でのトリガ・ポジションとバースト・ポジション間のバースト・オフセットを設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:Standard:SEMask:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定され、[:SENSe]:Standard:SEMask:BURSt:SYNC コマンドが TPOSITION に設定されているときにのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:BURSt:OFFSet <numeric_value>

```
[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:BURSt:OFFSet?
```

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — バースト・オフセットを設定します。

設定範囲 : -1 E-3 ~ 1 E-3 [s]

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定でのバースト・オフセットを 100 μs に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:SEMask:BURSt:OFFSet 100us
```

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:SLOT[:TYPE]

```
[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:BURSt:SYNC
```

[SENSe]:Standard:SEMask:BURSt:SYNC (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・またはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定のバースト・シンクを設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:Standard:SEMask:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定されているときにのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:BURSt:SYNC {REDGe|MPoint|TPosition}

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:BURSt:SYNC?

引 数 : REDGe — 立ち上がりエッジを指定します。

MPoint — 中間点を指定します。

TPosition — トリガ・ポジションを指定します。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定のバースト・シンクをトリガ・ポジションに設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:SEMask:BURSt:SYNC TPosition

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:SLOT[:TYPE]

[SENSe]:Standard:SEMask:FILTter:COEFFcient (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定のためのフィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:Standard:SEMask:FILTter:TYPE コマンドが NYQuist または RNQuist に設定されているときにのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:FILTter:COEFFcient <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:FILTter:COEFFcient?

引 数 : <numeric_value>::=<NRF> — フィルタのロールオフ係数を設定します。

設定範囲 : 0.000 ~ 1 (デフォルト値 : 0.5)

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:SEMask:FILTter:COEFFcient 0.5

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:FILTter:TYPE

[:SENSe]:Standard:SEMask:FILTter:TYPE (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定のフィルタを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:FILTter:TYPE {RECTangle|GAUSSian|NYQuist|RNYQuist}

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:FILTter:TYPE?

引 数 : 引数とフィルタの関係は、次のとおりです。

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定でナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:FL1XEVDO:SEMask:FILTter:TYPE NYQuist

[SENSe]:Standard:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE[1|2|3|4|5[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッഷン・マスク測定でのインバンド・スプリアス・リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE[1]|2|3|4|5[:STATe]
<boolean>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE[1]|2|3|4|5
[:STATe]?

ZONE 1～5 は、それぞれ、リミット・エディタの Zone A～E に対応しています。

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}
ON または 1 インバンド・スプリアス・リミット・テストを有効にします。
OFF または 0 インバンド・スプリアス・リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッഷン・マスク測定でのインバンド・スプリアス・リミット・テスト (ゾーン 1) を有効にします。

:SENSe:FL1XEVDO:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE1:STATe ON

[SENSe]:Standard:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE[1|2|3|4|5[:STATe] (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッഷン・マスク測定での周波数オフセット・リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE[1]|2|3|4|5[:STATe]
<boolean>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE[1]|2|3|4|5
[:STATe]?

ZONE 1～5 は、それぞれ、リミット・エディタの Zone A～E に対応しています。

引 数 : <boolean>::={ON|OFF|1|0}
ON または 1 周波数オフセット・リミット・テストを有効にします。
OFF または 0 周波数オフセット・リミット・テストを無効にします。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショニ・マスク測定での周波数オフセット・リミット・テスト(ゾーン1)を有効にします。

```
:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE1:STATe ON
```

[:SENSe]:Standard:SEMask:MEASurement (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショニ・マスク測定でのリミット・テーブルの種類を設定または問合せます。

構 文 :

```
[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:SEMask:MEASurement {OFCHannel|ISPurious}
```

```
[:SENSe]:FL1XEVD0|RL1XEVD0:SEMask:MEASurement?
```

引 数 :

OFCHannel	周波数オフセットを測定するためのリミット・テーブルを選択します。 この測定では、周波数ゾーンが、中心周波数からの差として指定されます。
ISPurious	インバンド・スプリアスを測定するためのリミット・テーブルを選択します。このテーブルでは、周波数ゾーンが絶対値で指定されます。

測定モード : DEMFL1XEVD0、DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショニ・マスク測定で、インバンド・スプリアス・リミット・テーブルを選択します。

```
:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:MEASurement ISPurious
```

[SENSe]:Standard:SEMask:RChannel:LEVel (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのリファレンス・チャンネル・レベルを設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:Standard:SEMask:RChannel:MODE コマンドが MANual に設定されているときにのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:RChannel:LEVel <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:RChannel:LEVel?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — リファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
設定範囲 : -150 ~ 30 dBm

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのリファレンス・チャンネル・レベルを -10 dB に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:SEMask:RChannel:LEVel -10dB
```

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:RChannel:MODE

[SENSe]:Standard:SEMask:RChannel:MODE (?)

1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのリファレンス・チャンネル・レベルのモードを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:RChannel:MODE {AUTO|MANual}

[:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:RChannel:MODE?

引 数 : AUTO — リファレンス・レベルが入力信号から算出されます。
MANual — リファレンス・レベルを、[:SENSe]:Standard:PVTime:RChannel:LEVel コマンドにより設定します。

測定モード : DEMFL1XEVDO、DEMRL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのリファレンス・チャンネル・レベルのモードを自動モードに設定します。

```
:SENSe:FL1XEVDO:SEMask:RChannel:MODE AUTO
```

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVDO|RL1XEVDO:SEMask:RChannel:LEVel

[:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:SLOT:GATE (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定でのスロット・ゲート時間を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定されているときにのみ有効です。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:SLOT:GATE <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:SLOT:GATE?

引 数 : <numeric_value>::=<NRf> — リファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
設定範囲 : 180 E-6 ~ 840 E-6 [s]

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定でのスロット・ゲート時間を 200 μs に設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:SEMask:SLOT:GATE 200us

関連コマンド : [:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:SLOT[:TYPE]

[:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:SLOT[:TYPE] (?)

1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定でのスロット・タイプを設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:RChannel:SLOT {IDLE|ACTIVE}

[:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:RChannel:SLOT?

引 数 : IDLE — パイロットおよび MAC チャンネルを含むアイドル・スロットを選択します。
ACTIVE — パイロット、MAC、およびデータ・チャンネルを含むアクティブ・スロットを選択します。

測定モード : DEMFL1XEVDO

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、スペクトラム・エミッショ・マスク測定でのスロット・タイプをアイドルに設定します。

:SENSe:FL1XEVDO:SEMask:SLOT:TYPE IDLE

付 錄

付録 A 仕様

表 A-1 および表 A-2 に、1xEV-DO フォワード・リンク測定およびリバース・リンク測定の仕様を記載します。

表 A-1 : 1xEV-DO フォワード・リンク測定

項目	説明
チャンネル電力 RF 入力での最小電力	-50 dBm
絶対電力測定確度(代表値) (20 ~ 30 °C で測定、ミスマッチ・エラーを除く。)	以下の条件において、±0.6 dB： 信号周波数：824 ~ 960 MHz または 1750 ~ 2170 MHz 信号電力：0 ~ -50 dBm 10 MHz スパンにおいて、オート・レベルを実行。
相対電力測定確度(代表値) (20 ~ 30 °C で測定、ミスマッチ・エラーを除く。)	以下の条件において、±0.2 dB： 信号周波数：824 ~ 960 MHz または 1750 ~ 2170 MHz 信号電力：0 ~ -30 dBm 10 MHz スパン、0 dBm 入力において、オート・レベルを実行。
分解能	0.01 dB
CCDF ヒストグラム分解能	0.01 dB
相互変調歪み 測定フィルタ	矩形、ナイキスト、ルート・ナイキスト、およびガウス
占有帯域幅 RF 入力での最小キャリア電力	-50 dBm
測定確度	0.2%
ACPR RF 入力での最小キャリア電力	-40 dBm
ダイナミック・レンジ 765 kHz オフセット	-5 dBm 信号入力時 76 dB (30 kHz BW)
1.995 MHz オフセット	81 dB (30 kHz BW)
3.125 MHz オフセット	81 dB (30 kHz BW)
4 MHz オフセット	82 dB (30 kHz BW)
スペクトラム・エミッション・マスク RF 入力での最小キャリア電力	-5 dBm
ダイナミック・レンジ 1.995 MHz オフセット	82 dB (30 kHz BW)
コード・ドメイン・パワー 相対コード・ドメイン・パワー確度	±0.15 dB ±0.075 dB (代表値)
QPSK EVM RF 入力での最小キャリア電力	-40 dBm
EVM フロア (代表値)	2.0%

付録A 仕様

表 A-1 : 1xEV-DO フォワード・リンク測定(続)

項目	説明
変調確度(コンポジット)	
RF 入力での最小キャリア電力	-40 dB
コンポジット EVM フロア(代表値)	2.0%
ρ (ロー)	0.999
周波数誤差確度	$\pm 10 \text{ Hz} + \text{中心周波数確度}$
タイミング確度(タウ)	$\pm 250 \text{ ns}$

表 A-2 : 1xEV-DO リバース・リンク測定

項目	説明
チャンネル電力	
RF 入力での最小電力	-50 dBm
絶対電力測定確度(代表値) (20 ~ 30 °C で測定、ミスマッチ・エラーを除く。)	以下の条件において、 $\pm 0.6 \text{ dB}$ ： 信号周波数：824 ~ 960 MHz または 1750 ~ 2170 MHz 信号電力：0 dBm ~ -50 dBm 10 MHz スパンにおいて、オート・レベルを実行。
相対電力測定確度(代表値) (20 ~ 30 °C で測定、ミスマッチ・エラーを除く。)	以下の条件において、 $\pm 0.2 \text{ dB}$ ： 信号周波数：824 ~ 960 MHz または 1750 ~ 2170 MHz 信号電力：0 ~ -30 dBm 10 MHz スパン、0 dBm 入力において、オート・レベルを実行。
分解能	0.01 dB
CCDF	
ヒストグラム分解能	0.01 dB
相互変調歪み	
測定フィルタ	矩形、ナイキスト、ルート・ナイキスト、およびガウス
占有帯域幅	
RF 入力での最小キャリア電力	-50 dBm
測定確度	0.2%
ACPR	
RF 入力での最小キャリア電力	-40 dBm
ダイナミック・レンジ 765 kHz オフセット	-5 dBm 信号入力時 74 dB (30 kHz BW)
1.995 MHz オフセット	83 dB (30 kHz BW)
3.125 MHz オフセット	83 dB (30 kHz BW)
4 MHz オフセット	84 dB (30 kHz BW)
スペクトラム・エミッション・マスク	
RF 入力での最小キャリア電力	-5 dBm
ダイナミック・レンジ 1.995 MHz オフセット	82 dB (30 kHz BW)
コード・ドメイン・パワー	
相対コード・ドメイン・パワー確度	$\pm 0.15 \text{ dB}$ $\pm 0.075 \text{ dB}$ (代表値)

表 A-2 : 1xEV-DO リバース・リンク測定(続)

項 目	説 明
QPSK EVM	
RF 入力での最小キャリア電力	-40 dBm
EVM フロア (代表値)	2.0%
変調確度 (コンポジット)	
RF 入力での最小キャリア電力	-40 dB
コンポジット EVM フロア (代表値)	2.0%
ρ (ロー)	0.999
周波数誤差確度	$\pm 10 \text{ Hz} + \text{中心周波数確度}$

付録 B コマンドのデフォルト設定値

表 B-1 と表 B-2 に、リモート・コマンドのデフォルト設定値を示します。これらのデフォルト設定値は、*RST コマンドの実行により得ることができます。

注：ヘッダ表記に使用されているイタリック体の *Standard* の文字は、オプション 26 型で使用できる 2 つの測定モード FL1XEVDO および RL1XEVDO を総称したものです。

表 B-1：コマンドのデフォルト設定値一：DISPlay コマンド

ヘッダ	設定値
:DISPlay:Standard:CCDF サブグループ	
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe]	ON
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REference[:STATe]	OFF
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:AUTO	ON
:DISPlay:Standard:ACPower:X[SCALe]:MAXimum	150 dB
:DISPlay:Standard:ACPower:X[SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:Standard:ACPower:Y[SCALe]:MAXimum	100%
:DISPlay:Standard:ACPower:Y[SCALe]:MINimum	100 μ%
:DISPlay:Standard:DDEMod サブグループ	
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:FORMAT	SPECtrum
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet	20.5 MHz
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGE	5 MHz
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGE	100 dB
:DISPlay:Standard:SPECtrum サブグループ	
:DISPlay:Standard:SPECtrum:X[:SCALe]:OFFSet	1.4925 GHz
:DISPlay:Standard:SPECtrum:X[:SCALe]:PDIVision	1.5 MHz/div
:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALe]:PDIVision	10 dB/div
:DISPlay:Standard:WAVeform サブグループ	
:DISPlay:Standard:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet	-40 μs
:DISPlay:Standard:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision	4 μs/div
:DISPlay:Standard:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet	-100 dBm
:DISPlay:Standard:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision	100 dB/div

表 B-2 : コマンドのデフォルト設定値一:SENSe コマンド

ヘッダ	設定値
[:SENSe]:Standard サブグループ	
[:SENSe]:Standard:ACQuisition:CHIPs	6144
[:SENSe]:Standard:ACQuisition:HISTory	0
[:SENSe]:Standard:ACQuisition:SEConds	4.998 ms
[:SENSe]:Standard:ANALysis:INTerval	6
[:SENSe]:Standard:ANALysis:OFFSet	0
[:SENSe]:Standard:BLOCK	0
[:SENSe]:Standard:MEASurement	OFF
[:SENSe]:Standard:SPECtrum	0
[:SENSe]:Standard:ACPower サブグループ	
[:SENSe]:Standard:ACPower:BANDwidth BWIDth :INTegration	1.23 MHz
[:SENSe]:Standard:ACPower:TYPE	RECTangle
[:SENSe]:Standard:ACPower:LIMit :ADJacent[1]2[3..] 12[:STATE]	1 ~ 5 : ON 6 ~ 12 : OFF
[:SENSe]:Standard:CCDF サブグループ	
[:SENSe]:Standard:CCDF:THreshold	-150 dBm
[:SENSe]:Standard:CDPower サブグループ	
[:SENSe]:Standard:CDPower:ACCThreshold	FL1XEVDO: -27 dB RL1XEVDO: -21 dB
[:SENSe]:FL1XEVDO:CDPower:CHANnel[:TYPE]	PILot
[:SENSe]:Standard:CDPower:FILTer:MEASurement	FL1XEVDO: EQComp RL1XEVDO: COMP
[:SENSe]:Standard:CDPower:IQSWap	OFF
[:SENSe]:RL1XEVDO:CDPower:LCMask:I	#H0,#H0,#H0
[:SENSe]:RL1XEVDO:CDPowew:LCMask:Q	#H0,#H0,#H0
[:SENSe]:Standard:CDPower:MLEVel	SYMBOL
[:SENSe]:FL1XEVDO:CDPower:PNOFFset	0
[:SENSe]:Standard:CDPower:SElect:CODE	0
[:SENSe]:Standard:CDPower:SElect:HSLot	0
[:SENSe]:Standard:CHPower サブグループ	
[:SENSe]:Standard:CHPower:BANDwidth BWIDth :INTegration	1.23 MHz
[:SENSe]:Standard:CHPower:FILTter:TYPE	RECTangle
[:SENSe]:Standard:CHPower:LIMit[:STATE]	OFF

表 B-2 : コマンドのデフォルト設定値一:SENSe コマンド (続き)

ヘッダ	設定値
[:SENSe]:Standard:IM サブグループ	
[:SENSe]:Standard:IM:BANDwidth BWIDth:INTegration	1.23 MHz
[:SENSe]:Standard:IM:FILTter:TYPE	RECTangle
[:SENSe]:Standard:IM:LIMit:FORDER[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:IM:LIMit:TORDer[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:IM:SCOFFset	1.25 MHz
[:SENSe]:Standard:MACCuracy サブグループ	
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:ACCThreshold	FL1XEVDO: -27 dB RL1XEVDO: -21 dB
[:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:CHANnel[:TYPE]	PILot
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:FILTter:MEASurement	FL1XEVDO: EQComp RL1XEVDO: COMP
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:IQSWap	OFF
[:SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:I	#H0,#H0,#H0
[:SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:Q	#H0,#H0,#H0
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:MLEVel	SYMBOL
[:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:PNOFFset	0
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:SElect:CODE	0
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:SElect:HSLot	0
[:SENSe]:Standard:OBWidth サブグループ	
[:SENSe]:Standard:OBWidth:LIMit[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:OBWidth:PERcent	99%

表 B-2 : コマンドのデフォルト設定値一:SENSe コマンド (続き)

ヘッダ	設定値
[:SENSe]:Standard:PCCHannel サブグループ	
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:ACCThreshold	FL1XEVDO: -27 dB RL1XEVDO: -21 dB
[:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:CHANnel[:TYPE]	MAC
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:FILTer:MEASurement	FL1XEVDO: EQComp RL1XEVDO: COMP
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:IQSWap	OFF
[:SENSe]:RL1XEVDO:PCCHannel:LCMask:I	#H0,#H0,#H0
[:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:LCMask:Q	#H0,#H0,#H0
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe]	ON
[:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:PNOFset	0
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:SElect:CODE	0
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:SElect:HSLot	0
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme サブグループ	
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:BURSt:OFFSet	416.67 μs
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:BURSt:SYNC	MPOint
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:LIMit:ZONE[1] 2 3 4 5[:STATe]	ON
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RCHannel:LEVel	30 dBm
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RCHannel:MODE	AUTO
[:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:SLOT[:TYPE]	IDLE
[:SENSe]:Standard:SEMask サブグループ	
[:SENSe]:Standard:SEMask:BANDwidth BWIDth:INTegration	1.2288 MHz
[:SENSe]:Standard:SEMask:BURSt:OFFSet	416.67 μs
[:SENSe]:Standard:SEMask:BURSt:SYNC	MPOint
[:SENSe]:Standard:SEMask:FILTer:TYPE	RECTangle
[:SENSe]:Standard:SEMask:LIMit:ISPurious:ZONE[1] 2 3 4 5[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE[1] 2 3 4 5[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:SEMask:MEASurement	OFCHannel
[:SENSe]:Standard:SEMask:RCHannel:LEVel	0 dBm
[:SENSe]:Standard:SEMask:RCHannel:MODE	AUTO
[:SENSe]:Standard:SEMask:SLOT:GATE	200 μs
[:SENSe]:Standard:SEMask:SLOT[:TYPE]	IDLE

付録 C 表示フォーマットと設定範囲

表 C-1 に、各表示フォーマットにおける水平軸スケールおよび垂直軸スケールの設定範囲を示します。

表 C-1 : 表示フォーマットと設定範囲

表示フォーマット	水平軸範囲	垂直軸範囲																		
スペクトラム	0 Hz ~ 3 GHz (WCA230A 型) 0 Hz ~ 8 GHz (WCA280A 型)	-200 ~ 100 dBm																		
スペクトログラム	0 Hz ~ 3 GHz (WCA230A 型) 0 Hz ~ 8 GHz (WCA280A 型)	-15999 ~ 0 フレーム -63999 ~ 0 フレーム (オプション 02 型)																		
コード・ドメイン・パワー	フォワード・リンク： MAC : 64 コード Pilot : 32 コード Data : 16 コード Preamble : 32 コード リバース・リンク : 16 コード	相対目盛 : -200 ~ 100 dB 絶対目盛 : 140 ~ -160 dBm																		
変調確度	固定	固定																		
EVM	フォワード・リンク： <table> <thead> <tr> <th>Channel</th> <th>Chip</th> <th>Symbol</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Overall</td> <td>1024</td> <td>--</td> </tr> <tr> <td>MAC</td> <td>128</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Pilot</td> <td>96</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>Data</td> <td>最大 800</td> <td>最大 50</td> </tr> <tr> <td>Preamble</td> <td>最大 800</td> <td>最大 25</td> </tr> </tbody> </table> リバース・リンク： Chip : 1024 Symbol : 最大 256	Channel	Chip	Symbol	Overall	1024	--	MAC	128	2	Pilot	96	3	Data	最大 800	最大 50	Preamble	最大 800	最大 25	-100 ~ 200%
Channel	Chip	Symbol																		
Overall	1024	--																		
MAC	128	2																		
Pilot	96	3																		
Data	最大 800	最大 50																		
Preamble	最大 800	最大 25																		
振幅誤差	EVM の水平軸範囲と同じ	-300 ~ 300%																		
位相誤差	EVM の水平軸範囲と同じ	-675 ~ 675 degree																		
パワー・コードグラム	コード・ドメイン・パワーの水平軸範囲と同じ	-6144 ~ 0 フレーム -24579 ~ 0 フレーム (オプション 02 型)																		
シンボル・テーブル	フォワード・リンク： MAC : 2 Pilot : 3 Data : 最大 50 Preamble : 最大 25 リバース・リンク : 最大 256	-----																		
IQ パワー・グラフ	EVM の水平軸範囲と同じ	-6144 ~ 0 フレーム -24579 ~ 0 フレーム (オプション 02 型)																		
コンスタレーション	固定	固定																		

付録 D SCPI 適合情報

オプション 26 型のすべてのコマンドは、SCPI バージョン 1999.0 を基準にしています。表 D-1 ~ 表 D-6 に、オプション 26 型で使用されるすべてのコマンドのリストを示します。右側の列は、各コマンドが SCPI 1999.0 規格で定義されているかどうかを表しています。

表 D-1 : SCPI 適合情報 — :CONFigure コマンド

コマンド	SCPI 1999.0 で定義	SCPI 1999.0 で未定義
:CONFigure :Standard :ACPower		✓
:CCDF		✓
:CDPower		✓
:CHPower		✓
:IM		✓
:MACCuracy		✓
:OBWidth		✓
:PCChannel		✓
:PVTime		✓
:SEMask		✓

表 D-2 : SCPI 適合情報 — :DISPLAY コマンド

表 D-2 : SCPI 適合情報 — :DISPlay コマンド（続き）

コマンド	SCPI 1999.0 で定義	SCPI 1999.0 で未定義
:DDEMod :MView :COPDer		✓
:FORMAT		✓
:X [:SCALE] :OFFSet		✓
:RANGE		✓
:Y [:SCALE] :FIT		✓
:FULL		✓
:OFFSet		✓
:PUnit		✓
:RANGE		✓
:SVIEW :FORMAT		✓
:X [:SCALE] :OFFSet		✓
:RANGE		✓
:Y [:SCALE] :FIT		✓
:FULL		✓
:OFFSet		✓
:RANGE		✓
:SPECFctrum :X [:SCALE] :OFFSet		✓
:Y [:SCALE] :FIT		✓
:FULL		✓
:OFFSet		✓
:PDivision		✓
:WAVEform :X [:SCALE] :OFFSet		✓
:Y [:SCALE] :FIT		✓
:FULL		✓
:OFFSet		✓
:PDivision		✓

表 D-3 : SCPI 適合情報 — :FETCh コマンド

コマンド	SCPI 1999.0 で定義	SCPI 1999.0 で未定義
:FETCh :Standard :ACPower?		✓
:CCDF?		✓
:CDPower?		✓
:CHPower?		✓
:IM?		✓
:MACCuracy?		✓
:OBWidth?		✓
:PCChannel?		✓
:PVTIme?		✓
:SEMask?		✓
:DISTRIBUTion :CCDF?		✓
:TAMPLitude :PVTIme?		✓
:SEMask?		✓
:SPECTrum :ACPower?		✓
:CHPower?		✓
:IM?		✓
:OBWidth?		✓

表 D-4 : SCPI 適合情報 — :MMEMory コマンド

コマンド	SCPI 1999.0 で定義	SCPI 1999.0 で未定義
:MMEMory :LOAD :LIMit		✓
:STORe :LIMit		✓
:STABle		✓

付録D SCPI 適合情報

表 D-5 : SCPI 適合情報 — :READ コマンド

コマンド	SCPI 1999.0 で定義	SCPI 1999.0 で未定義
:READ :Standard :ACPower?		✓
:CCDF?		✓
:CDPower?		✓
:CHPower?		✓
:IM?		✓
:OBWidth?		✓
:PVTIME?		✓
:SEMask?		✓
:DISTRIBUTION :CCDF?		✓
:TAMplitude :PVTIME?		✓
:SPECTRUM :ACPower?		✓
:CHPower?		✓
:IM?		✓
:OBWidth?		✓

表 D-6 : SCPI 適合情報 — :SENSe コマンド

コマンド	SCPI 1999.0 で定義	SCPI 1999.0 で未定義
[:SENSe] :Standard :ACQuisition :CHIPs		✓
:HISTORY		✓
:SECONDS		✓
:ANALYSIS :INTERVAL		✓
:OFFSET		✓
:BLOCK		✓
[:IMMEDIATE]		✓
:MEASUREMENT		✓
:SPECTRUM :OFFSET		✓
:TINTERVAL		✓
:ACPOWER :BANDWIDTH :INTEGRATION BWIDTh		✓
:FILTER :COEFFICIENT		✓
:TYPE		✓
:LIMIT :ADJACENT [:STATE] [1] 2 3.. 12		✓

表 D-6 : SCPI 適合情報 — :SENSe コマンド（続き）

コマンド		SCPI 1999.0 で定義	SCPI 1999.0 で未定義
:CCDF	:RMESurement		✓
	:THreshold		✓
:CDPower	:ACCThreshold		✓
	:CHANnel [:TYPE]		✓
	:FILTer :MEASurement		✓
	:IQSwap		✓
	:LCMask :I		✓
	:Q		✓
	:MLEvel		✓
	:PNOffset		✓
	:SElect :CODE		✓
	:HSLot		✓
:CHPower	:BANDwidth :INTegration		✓
	BWIDth		
	:FILTer :COEFFICIENT		✓
	:TYPE		✓
	:LIMIT [:STATe]		✓
:IM	:BANDwidth :INTegration		✓
	BWIDth		
	:FILTer :COEFFICIENT		✓
	:TYPE		✓
	:LIMIT :FORDer [:STATe]		✓
	:TORDer [:STATe]		✓
	:SCOFFset		✓

表 D-6 : SCPI 適合情報 — :SENSe コマンド（続き）

コマンド		SCPI 1999.0 で定義	SCPI 1999.0 で未定義	
:MACCuracy	:ACCThreshold		✓	
:CHANnel	[::TYPE]		✓	
:FILTter	:MEASurement		✓	
:IQSwap			✓	
:LCMask	:I		✓	
	:Q		✓	
:LIMit	:EVM	:PEAK	[::STATE]	✓
		:RMS	[::STATE]	✓
	:PCDerror	[::STATE]		✓
	:RHO	[::STATE]		✓
	:TAU	[::STATE]		✓
	:MLEvel			✓
	:PNOFFset			✓
:SElect	:CODE			✓
	:HSLot			✓
:OBWidth	:LIMit	[::STATE]		✓
	:PERcent			✓
:PCChannel	:ACCThreshold			✓
	:CHANnel	[::TYPE]		✓
	:FILTter	:MEASurement		✓
	:IQSwap			✓
	:LCMask	:I		✓
		:Q		✓
	:LIMit	:PHASE	[::STATE]	✓
		:TIME	[::STATE]	✓
	:PNOFFset			✓
:SElect	:CODE			✓
	:HSLot			✓
:PVTime	:BURSt	:OFFSet		✓
		:SYNC		✓
	:LIMit	:ZONE[1] 2	[::STATE]	✓
		3 4 5		
:RChannel	:LEVel			✓
		:MODE		✓
	:SLOT	[::TYPE]		✓

表 D-6 : SCPI 適合情報 — :SENSe コマンド（続き）

コマンド			SCPI 1999.0 で定義	SCPI 1999.0 で未定義
:SEMask	:BANDwidth BWIDth	:INTEGRation		✓
:BURSt	:OFFSet			✓
	:SYNC			✓
:FILTer	:COEFFicient			✓
	:TYPE			✓
:LIMit	:ISPurious	:ZONE[1] [:STATe] 2 3 4 5		✓
	:OFChanne1	:ZONE[1] [:STATe] 2 3 4 5		✓
	:MEASurement			✓
:RChanne1	:LEVel			✓
	:MODE			✓
:SLOT	:GATE			✓
	[:TYPE]			✓

索引

お問い合わせ

索引

数字

1xEV-DO フォワード・リンク測定, 2-3
1xEV-DO リバース・リンク測定, 2-39

A

ACPR, 2-22

C

CCDF, 2-32
Channel Power, 2-20
Code Domain Power, 2-12, 2-48
:CONFigure コマンド, 3-9
:CONFigure:FL1XEVDO:PVTime, 3-13
:CONFigure:Standard:ACPower, 3-10
:CONFigure:Standard:CCDF, 3-10
:CONFigure:Standard:CDPower, 3-10
:CONFigure:Standard:CHPower, 3-11
:CONFigure:Standard:IM, 3-11
:CONFigure:Standard:MACAccuracy, 3-12
:CONFigure:Standard:OBWidth, 3-12
:CONFigure:Standard:PCCHannel, 3-13
:CONFigure:Standard:SEMask, 3-14

D

:DISPlay コマンド, 3-15
:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform サブグループ,
 3-36
:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:X[:SCALe]:OFFSet
 (?), 3-36
:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:X[:SCALe]:PDIVi-
 sion (?), 3-37
:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y[:SCALe]:FIT,
 3-37
:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y[:SCALe]:FULL,
 3-38
:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y[:SCALe]:OFFSet
 (?), 3-38
:DISPlay:FL1XEVDO:WAveform:Y[:SCALe]:PDIVi-
 sion (?), 3-39

:DISPlay:Standard:CCDF サブグループ, 3-16
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe],
 3-17
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REference:STORe,
 3-18
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REference[:STATe],
 3-17
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:AUTO (?), 3-18
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum
 (?), 3-19
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet (?),
 3-19
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:FIT, 3-20
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:FULL, 3-20
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum
 (?), 3-21
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum (?),
 3-21
:DISPlay:Standard:DDEMod サブグループ, 3-22
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:CORDer (?),
 3-23
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:FORMAT (?),
 3-24
:DISPlay:Standard:DDE-
 Mod:MView:X[:SCALe]:OFFSet (?), 3-25
:DISPlay:Standard:DDE-
 Mod:MView:X[:SCALe]:RANGE (?), 3-25
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:FIT,
 3-26
:DISPlay:Standard:DDE-
 Mod:MView:Y[:SCALe]:FULL, 3-26
:DISPlay:Standard:DDE-
 Mod:MView:Y[:SCALe]:OFFSet (?), 3-27
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:PU-
 Nit (?), 3-27
:DISPlay:Standard:DDE-
 Mod:MView:Y[:SCALe]:RANGE (?), 3-28
:DISPlay:Standard:DDEMod:SView:FORMAT (?),
 3-28
:DISPlay:Standard:DDEMod:SView:X[:SCALe]:OFF-
 Set (?), 3-29
:DISPlay:Standard:DDE-
 Mod:SView:X[:SCALe]:RANGE (?), 3-30
:DISPlay:Standard:DDEMod:SView:Y[:SCALe]:FIT,
 3-30

:DISPlay:Standard:DDE-
Mod:SVIew:Y[:SCALe]:FULL, 3-31
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFF-
Set (?), 3-31
:DISPlay:Standard:DDE-
Mod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGE (?), 3-32
:DISPlay:Standard:SPECtrum サブグループ, 3-32
:DISPlay:Standard:SPECtrum:X[:SCALe]:OFFSet
(?), 3-33
:DISPlay:Standard:SPECtrum:X[:SCALe]:PDIVision
(?), 3-33
:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALe]:FIT, 3-34
:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALe]:FULL,
3-34
:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALe]:OFFSet
(?), 3-34
:DISPlay:Standard:SPECtrum:Y[:SCALe]:PDIVision
(?), 3-35

F

:FETCh コマンド, 3-41
:FETCh:FL1XEVDO:PVTIme?, 3-56
:FETCh:FL1XEVDO:TAMPLitude:PVTIme?, 3-61
:FETCh:Standard:ACPower?, 3-42
:FETCh:Standard:CCDF?, 3-43
:FETCh:Standard:CDPower?, 3-44
:FETCh:Standard:CHPower?, 3-47
:FETCh:Standard:DISTribution:CCDF?, 3-57
:FETCh:Standard:IM?, 3-48
:FETCh:Standard:MACCuracy?, 3-49
:FETCh:Standard:OBWidth?, 3-54
:FETCh:Standard:PCCHannel?, 3-54
:FETCh:Standard:SEMask?, 3-56
:FETCh:Standard:SPECtrum:ACPower?, 3-58
:FETCh:Standard:SPECtrum:CHPower?, 3-58
:FETCh:Standard:SPECtrum:IM?, 3-59
:FETCh:Standard:SPECtrum:OBWidth?, 3-60

G

Gated Output Power, 2-28

I

Intermodulation, 2-30

M

:MMEMory コマンド, 3-63
:MMEMory:LOAD:LIMit, 3-63
:MMEMory:STORe:LIMit, 3-64
:MMEMory:STORe:STABle, 3-64
Modulation Accuracy, 2-4, 2-40

O

OBW, 2-21

P

Pilot to Code Channel, 2-35, 2-53

R

:READ コマンド, 3-65
:READ:FL1XEVDO:PVTIme?, 3-70
:READ:FL1XEVDO:TAMPLitude:PVTIme?, 3-75
:READ:Standard:ACPower?, 3-66
:READ:Standard:CCDF?, 3-67
:READ:Standard:CHPower?, 3-68
:READ:Standard:DISTribution:CCDF?, 3-72
:READ:Standard:IM?, 3-68
:READ:Standard:OBWidth?, 3-70
:READ:Standard:SEMask?, 3-71
:READ:Standard:SPECtrum:ACPower?, 3-72
:READ:Standard:SPECtrum:CHPower?, 3-73
:READ:Standard:SPECtrum:IM?, 3-74
:READ:Standard:SPECtrum:OBWidth?, 3-74

S

SCPI, 適合情報, D-1
:SENSe コマンド, 3-77
[:SENSe]:FL1XEVDO:CDPower:PNOFFset (?), 3-93
[:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:LIM-
it:TAU[:STATe] (?), 3-107
[:SENSe]:FL1XEVDO:MACCuracy:PNOFFset (?),
3-108
[:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:CHANnel[:TYPE]
(?), 3-113

- [:SENSe]:FL1XEVDO:PCCHannel:PNOFFset (?),
3-116
- [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme サブグループ, 3-118
- [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:BURSt:OFFSet (?),
3-118
- [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:BURSt:SYNC (?),
3-119
- [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:LIM-
it:ZONE[1] | 2 | 3 | 4 | 5[:STATe] (?), 3-119
- [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RCHannel:LEVel
(?), 3-120
- [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:RCHannel:MODE
(?), 3-120
- [:SENSe]:FL1XEVDO:PVTIme:SLOT[:TYPE] (?),
3-121
- [:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:SLOT:GATE (?),
3-129
- [:SENSe]:FL1XEVDO:SEMask:SLOT[:TYPE] (?),
3-129
- [:SENSe]:RL1XEVDO:CDPower:LCMask:I (?), 3-91
- [:SENSe]:RL1XEVDO:CDPower:LCMask:Q (?),
3-92
- [:SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:I (?),
3-104
- [:SENSe]:RL1XEVDO:MACCuracy:LCMask:Q (?),
3-104
- [:SENSe]:RL1XEVDO:PCCHannel:LCMask:I (?),
3-114
- [:SENSe]:RL1XEVDO:PCCHannel:LCMask:Q (?),
3-115
- [:SENSe]:Standard サブグループ, 3-78
- [:SENSe]:Standard:ACPower サブグループ, 3-84
- [:SENSe]:Standard:ACPower:BAND-
width|BWIDth:INTegration (?), 3-84
- [:SENSe]:Standard:ACPower:FILTer:COEFFcient
(?), 3-85
- [:SENSe]:Standard:ACPower:FILTer:TYPE (?), 3-85
- [:SENSe]:Standard:ACPower:LIMit:ADJa-
cent[1] | 2 | 3.. | 12[:STATe], 3-86
- [:SENSe]:Standard:ACQuisition:CHIPs (?), 3-78
- [:SENSe]:Standard:ACQuisition:HISTORY (?), 3-79
- [:SENSe]:Standard:ACQuisition:SEConds (?), 3-79
- [:SENSe]:Standard:ANALysis:INTerval (?), 3-80
- [:SENSe]:Standard:ANALysis:OFFSet (?), 3-80
- [:SENSe]:Standard:BLOCK (?), 3-81
- [:SENSe]:Standard:CCDF サブグループ, 3-87
- [:SENSe]:Standard:CCDF:RMEasurement, 3-87
- [:SENSe]:Standard:CCDF:THreshold (?), 3-88
- [:SENSe]:Standard:CDPower サブグループ, 3-89
- [:SENSe]:Standard:CDPower:ACCThreshold (?), 3-89
- [:SENSe]:Standard:CDPower:CHANnel[:TYPE] (?),
3-90
- [:SENSe]:Standard:CDPower:FILTer:MEASurement
(?), 3-90
- [:SENSe]:Standard:CDPower:IQSswap (?), 3-91
- [:SENSe]:Standard:CDPower:MLEVel (?), 3-92
- [:SENSe]:Standard:CDPower:SELect:CODE (?), 3-93
- [:SENSe]:Standard:CDPower:SELect:HSLot (?), 3-94
- [:SENSe]:Standard:CHPower サブグループ, 3-94
- [:SENSe]:Standard:CHPower:BAND-
width|BWIDth:INTegration (?), 3-95
- [:SENSe]:Standard:CHPower:FILTer:COEFFcient
(?), 3-95
- [:SENSe]:Standard:CHPower:FILTer:TYPE (?), 3-96
- [:SENSe]:Standard:CHPower:LIMit[:STATe] (?), 3-96
- [:SENSe]:Standard:IM サブグループ, 3-97
- [:SENSe]:Standard:IM:BANDwidth|BWIDth:INTegra-
tion (?), 3-97
- [:SENSe]:Standard:IM:FILTer:COEFFcient (?), 3-98
- [:SENSe]:Standard:IM:FILTer:TYPE (?), 3-98
- [:SENSe]:Standard:IM:LIMit:FORDer[:STATe] (?),
3-99
- [:SENSe]:Standard:IM:LIMit:TORDer[:STATe] (?),
3-99
- [:SENSe]:Standard:IM:SCOFFset (?), 3-100
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy サブグループ, 3-101
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:ACCThreshold (?),
3-102
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:CHANnel[:TYPE]
(?), 3-102
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:FILTer:MEASurement
(?), 3-103
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:IQSswap (?), 3-103
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIM-
it:EVM:PEAK[:STATe] (?), 3-105
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIM-
it:EVM:RMS[:STATe] (?), 3-105
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:PCDer-
ror[:STATe] (?), 3-106
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe]
(?), 3-106
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:MLEVel (?), 3-107
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:SELect:CODE (?),
3-108
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy:SELect:HSLot (?),
3-109
- [:SENSe]:Standard:MEASurement (?), 3-82
- [:SENSe]:Standard:OBWidth サブグループ, 3-110
- [:SENSe]:Standard:OBWidth:LIMit[:STATe] (?),
3-110

お

[:SENSe]:Standard:OBWidth:PERCent (?), 3-111
[:SENSe]:Standard:PCCHannel サブグループ, 3-112
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:ACCThreshold (?),
3-112
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:FILTer:MEASurement
(?), 3-113
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:IQSswap (?), 3-114
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe]
(?), 3-115
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe]
(?), 3-116
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:SElect:CODE (?),
3-116
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:SElect:HSLot (?),
3-117
[:SENSe]:Standard:SEMask サブグループ, 3-122
[:SENSe]:Standard:SEMask:BANDwidth|BWIDth:IN-
Tegration (?), 3-122
[:SENSe]:Standard:SEMask:BURSt:OFFSet (?),
3-123
[:SENSe]:Standard:SEMask:BURSt:SYNC (?), 3-124
[:SENSe]:Standard:SEMask:FILTer:COEFFcient (?),
3-124
[:SENSe]:Standard:SEMask:FILTer:TYPE (?), 3-125
[:SENSe]:Standard:SEMask:LIMit:ISPuri-
ous:ZONE[1]|2|3|4|5[:STATe] (?), 3-126
[:SENSe]:Standard:SEMask:LIMit:OFCHan-
nel:ZONE[1]|2|3|4|5[:STATe] (?), 3-126
[:SENSe]:Standard:SEMask:MEASurement (?), 3-127
[:SENSe]:Standard:SEMask:RCHannel:LEVel (?),
3-128
[:SENSe]:Standard:SEMask:RCHannel:MODE (?),
3-128
[:SENSe]:Standard:SPECtrum:OFFSet (?), 3-82
[:SENSe]:Standard:SPECtrum:TINTerval ?, 3-83
[:SENSe]:Standard[:IMMediate], 3-81
Spectrum Emission Mask, 2-24, 2-51

お

オプション 26 型の概要, 1-1

か

関連マニュアル, ix

き

機能概要, 2-1

こ

コマンド・グループ, 3-1

コマンドのデフォルト設定値, B-1

し

仕様, A-1

そ

測定リミット・エディタ, 2-57

測定リミットのデフォルト設定, 2-67

測定リミットの編集, 2-57, 2-59

測定リミットの読み出し, 2-66

測定リミットの保存, 2-66

て

適合情報、SCPI, D-1

ふ

フォワード・リンク

ACPR 測定, 2-22

CCDF 測定, 2-32

OBW 測定, 2-21

ゲーテッド・アウトプット・パワー測定, 2-28

コード・ドメイン・パワー測定, 2-12

スペクトラム・エミッション・マスク測定, 2-24

相互変調測定, 2-30

チャンネル電力測定, 2-20

パイロット／コード・チャンネル測定, 2-35

変調確度測定, 2-4

り

リバース・リンク

コード・ドメイン・パワー測定, 2-48

スペクトラム・エミッション・マスク測定, 2-51

パイロット／コード・チャンネル測定, 2-53

変調確度測定, 2-40

お問い合わせ

製品についてのご相談・ご質問につきましては、下記までお問い合わせください。

お客様コールセンター

TEL 03-6714-3010  **FAX 0120-046-011**

東京都港区港南 2-15-2 品川インターナシティ B 棟 6 階 〒108-6106

電話受付時間／9:00～12:00 13:00～19:00 月曜～金曜(休祝日を除く)

E-Mail: ccc.jp@tektronix.com

URL: <http://www.tektronix.co.jp>

ユーザ・マニュアル
WCA230A/WCA280A オプション 26 型
1xEV-DO 解析ソフトウェア
(P/N 071-1372-00)

●不許複製
●2004 年 1 月 初版発行